

# 東北歴史博物館

平成29年度年報

東北歴史博物館

TOHOKU HISTORY MUSEUM

2018.11

## 平成 29 年度年報発行にあたって

平成 29 年度は、大型の巡回展を 2 回開催するなど、当館の存在を県内外の皆様にご存知いただくことができた 1 年でありました。

昨年度から年度をまたぐ形で実施した「世界遺産ラスコー クロマニヨン人が残した洞窟壁画」は、洞窟内部で壁画発見の疑似体験をする世界巡回展で、日本では当館を含め 3 会場のみの開催であり、当館では 37,435 人というたくさんの方に観覧いただきました。実物大の洞窟の再現や、テレビドラマなどで取り上げられたことが観覧者増に繋がったものと考えられます。

「漢字三千年－漢字の歴史と美－」も巡回展として開催いたしました。誕生から 3,000 年の長きにわたって使用されている漢字。その歴史と美にスポットを当て、漢字の持つ魅力について迫ることができました。高校生による書道パフォーマンス、「名前の木」など観覧者が参加できる企画を通し、「書く」ということに改めて興味を持っていただけたと思います。

当館の自主企画であった「熊と狼－人と獣の交流誌－」は、昨今問題となっている野生動物と人間との関係について考える展示となりました。すでに絶滅してしまった狼、人間とどのように共存していくのか方向性を探らなければならない熊。その両者を通して人間と野生動物との関係を深く考えることができた展示でした。

いずれの展示についても、数多くのご助力をいただき、魅力ある展示にすることができました。多くの観覧者からも高い満足度を得ておりますが、それが入館者増に結びついていないところがあります。より魅力ある展示作りを心がけるとともに、その魅力を多くの方に伝える手段を構築していく必要性もあると考えております。

教育普及事業では、館長講座、れきはく講座、各種講座・体験教室、多賀城跡巡りなどを通して、展示だけではない博物館の活動を皆様にご存知いただく機会を作りました。各催事ともたくさんの方に参加していただき、好評を得て参りました。今後もより多くの活動を通して、博物館の活動を知っていただければと思っております。

調査研究事業では、考古、民俗、歴史、美術工芸、建造物、保存科学の各分野で計画を立て、それに沿って継続的な活動を行っております。調査研究の結果をより多くの方に知っていただくために、その公開にも努めました。

平成 25 年度から進めて参りました「東北歴史博物館中長期目標」について、中期目標をまとめるとともに、次の 5 年にむけてその見直しを行いました。その目標の実現と、魅力ある博物館作りに向けて初心に返り、職員一丸となり取り組んでいきたいと思っております。御指導・御鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、当館の運営及び諸活動の推進にあたり、御指導・御支援をいただきました関係各位に心より感謝を申し上げます。

平成 30 年 10 月

東北歴史博物館長  
鷹野 光行

# 目 次

I	使命と目標	1
1	使命	1
2	目標	1
II	展 示	2
1	総合展示	2
2	テーマ展示	2
3	映像展示室	3
4	今野家住宅	3
5	特別展示	4
	(1) 春季特別展「世界遺産ラスコー展－クロマニヨン人が残した洞窟壁画－」	4
	(2) 夏季特別展「漢字三千年－漢字の歴史と美－」	5
	(3) 秋期特別展「熊と狼－人と獣の交渉誌－」	7
6	その他の展示事業	9
	(1) 「宮城の明治期木造洋風建築」展	9
III	教育普及	10
1	施設運営	10
	(1) こども歴史館	10
	(2) 図書情報室	12
2	催事運営	13
	(1) 館長講座	13
	(2) 博物館講座	14
	(3) 体験教室	15
	(4) 多賀城跡巡り	15
	(5) 民話を聞く会	16
	(6) 体験イベント	16
	(7) 博物館における民話事業	18
3	その他の教育普及活動	18
4	広報と刊行物	23
IV	調査研究	24
1	考古研究部門	24
2	民俗研究部門	24
3	歴史研究部門	25
4	美術工芸研究部門	25
5	建造物研究部門	26
6	保存科学研究部門	26
7	歴史的災害展示研究	27
8	職員の調査研究活動	27
V	資料管理	32
1	資料	32
2	資料の利用	32
3	保存環境と保存処理	34
VI	東日本大震災後の対応	36
1	被災文化財の救援活動	36
2	宮城県復興支援調査への協力	37
VII	東北歴史博物館中長期目標	38
VIII	運営	64
1	組織	64
2	予算	65
3	博物館協議会…委員会の開催	65
4	友の会	66
IX	平成29年度博物館日誌抄	67
X	資 料	68
1	入館者統計	68
2	ホームページアクセス状況	69
3	歴史博物館条例	70
4	東北歴史博物館管理規則	73
5	歴史博物館協議会条例	76

# I 使命と目標

## 1 使 命

- (1) 東北の姿を自ら再発見し、東北の存在を広く世界に発信することにより、国際化の時代にふさわしい地域づくりとその活性化に貢献します。
- (2) 既存の博物館のイメージを脱皮し、類例のない新しい博物館のあり方を追求します。
- (3) 「明日の東北」を考えるきっかけづくりを重視し、実社会と積極的に交流する博物館を目指します。

## 2 目 標

- (1) 参加し体感する博物館
  - ・参加性を持たせ、東北の歴史・文化を楽しみながら体感できる博物館を目指します。
- (2) 生涯学習ならびに調査研究に機会と場を提供する博物館
  - ・博物館の機能を広く社会に開放し、生涯学習に対するきめ細かなカリキュラムの設定や利用者の調査研究に対するバックアップ体制の整備により、多様で高度なニーズに対応します。
- (3) 豊かな情報を提供する博物館
  - ・東北全域の歴史資料に関する情報センターを目指すとともに、ニーズに応じた情報の提供が的確迅速に成されるように配慮します。
- (4) 自ら研究する博物館
  - ・活発かつ高度な研究を基礎とし、その成果を展示公開や利用者の学習活動に役立てます。
  - ・大学や地域の研究者との共同研究を実施し、内容の充実に努めます。
- (5) 文化財を後世に伝える博物館
  - ・有形・無形文化財を積極的に収集・保存し、後世に継承します。
  - ・文化財の保存・修復に必要な科学的処理等を講じます。
- (6) 幅広く交流する博物館
  - ・東北全域、日本さらには国際的視野に立った積極的な交流を図る博物館を目指します。

## Ⅱ 展 示

### 1 総合展示

約3万年前の後期旧石器時代から昭和の経済高度成長期頃までの東北地方全体の歴史・文化を取り扱う。時代区分は旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世・近現代に、特に東北地方の特徴ある時代として奥州藤原氏を扱う「古代から中世へ」を加えて9つである。庶民の視点を重視しながら、各時代を特色づけるテーマについて取り上げた課題展示を行っている。また、東北地方の特性を顕著に示すテーマを深く掘り下げた詳細展示を縄文時代・古代・近世の3か所に設けている。

重要文化財を含む実物資料約1,400点を展示するとともに、当時の様子を復元したジオラマ、イラストや地図・写真を使ったパネル、レーザーディスク等の映像装置、解説文パネルを適宜配置することで、分かりやすい展示を目指している。展示室の出入り口を4か所設け、どの時代からでも見始めることができるようにしている。また、日本語・英語・韓国語・中国語の4か国語の音声ガイドの貸し出しを行っている。音声ガイドは観覧者の手動操作による方式で、展示室18か所の音声ガイドを行うポイントにサインを設けている。

また、平成29年2月より展示室内の情報環境を向上するため、みやぎ Free Wi-Fi を導入している。

### 2 テーマ展示

時代や地域の広がりをも的確に表し、かつ一定のまとまりのある資料群やコレクション資料を集中的に展示している。展示にあたっては、実物資料を中心に構成し、資料の美しさなどを重視し、来館者の目を楽しませることに主眼を置き、資料の保存状態に留意しながら定期的に展示替えを行っている。

「民俗」、「考古」、「美術工芸・歴史」の3分野の資料を展示した。「民俗」は、信仰関係、民具、諸職などの資料を手わざの美という視点で、「考古」は、埴輪、土器、石器、骨角器などの出土資料を体系別に展示している。「美術工芸・歴史」は近世絵画、古文書などを多様な切り口で展示している。

平成29年度は以下の日程で各テーマ展示室において展示を実施した。テーマ展示室3では絵画や古文書などを展示するため、資料への負担を考慮して、各々の展示期間が1,2ヶ月程度に設定している。

#### ① テーマ展示室1

「カマ神」平成29年6月13日～12月3日

「形象埴輪の世界」平成30年1月5日～4月8日

#### ② テーマ展示室2

「骨角器の世界」平成29年6月13日～12月3日

「柄鏡の美」平成30年1月5日～3月11日

「染の型紙」平成30年3月13日～4月8日

#### ③ テーマ展示室3

「仙台の近世絵画―東東洋の屏風―」平成29年6月13日～7月9日

「東北の古文書―伊達騒動―」平成29年7月11日～8月20日

「仙台の近世絵画―名所・松島―」平成29年8月22日～10月1日

「宮城の文化―高僧の墨蹟―」平成29年10月3日～11月12日

「東北の古文書―金山関係資料―」平成29年11月14日～12月3日

「仙台の近世絵画―新春を迎えて―」平成30年1月5日～1月28日

「仙台藩の工芸―刀剣と甲冑―」平成30年1月30日～3月11日

「仙台の近世絵画―仙台四大画家―」平成30年3月13日～4月8日

テーマ展示室1,2,3を特別展「世界遺産ラスコー展―クロマニヨン人が残した洞窟壁画」の展示会場および撤去のために平成29年6月12日まで利用した。

### 3 映像展示

文字では十分に記録できない無形の民俗事象（行事・芸能など）の映像を記録し、館が独自に制作したオリジナル映像を放映する展示室である。観客席は106席（一般102・車椅子ブース4）である。平成27年度に映写機器の更新が完了し、ハイビジョン映像も上映している。上映ソフトを以下の上映パターンで10時から16時まで1日7回を上映している。

#### 上映ソフト（コンテンツ）

##### ①「村境の神々ー人形神に託した祈りー」（15分）

伝染病や害虫といった災いから集落を守るため、東北地方では広くワラ製の人形が作られた。その災いを防ぎ、送り出す人形を巡る祭礼行事を紹介する。

##### ②「柳沢の焼け八幡ー小正月の訪れ者ー」（13分）

仮作りの小屋を燃やす作占い、火難除け、五穀豊穡、家内安全を願う一連の小正月行事である宮城県加美町柳沢の焼け八幡を紹介する。（宮城県指定無形民俗文化財）

##### ③「小迫の延年ー春をめでの野の舞ー」（13分）

田楽舞などの多様な芸能が延命長寿や厄除けを願って演じられるもので、宮城県栗原市金成小迫の白山神社に奉納される芸能を紹介する。（重要無形民俗文化財）

##### ④「正藍染～千葉まつ江のわざ～」（19分）

藍を加温しない古い藍染法を国内で唯一現在に伝える貴重な工芸技術として、藍の栽培から染めまでを一人の女性が担う正藍染を紹介する。（宮城県指定無形文化財）

##### ⑤「雄勝硯」（14分）

古くは硯石、現在はスレート屋根材などとしても利用されている宮城県石巻市雄勝に産する粘板岩の石材加工の技術を紹介する。

#### 上映パターン

2～4月 ①「村境の神々」・③「小迫の延年」

5～7月 ①「村境の神々」・④「正藍染」

8～10月 ①「村境の神々」・⑤「雄勝硯」

11～1月 ①「村境の神々」・②「柳沢の焼け八幡」

特別展「世界遺産ラスコー展」の開催期間（撤収を含む）平成29年3月～6月11日は特別展会場として利用し、上記の上映ソフトは中央ロビー特設会場にて上映した。

### 4 今野家住宅

当館敷地の東北隅に位置している今野家住宅では、江戸時代中期の建築である母屋をはじめ、中門・風呂・便所・薪を置いた木小屋・冠木門・ウジガミを石巻市北上町橋浦地区から移築（一部新築）・復元し、農家の屋敷を再現している。なお母屋と中門は、宮城県の有形文化財に指定されている。これらは建造物の野外展示施設として公開するとともに、小学生の歴史学習などの場としても活用している。

建物の概要や母屋で展示している生活用具の説明は、A4判2つ折りのリーフレットを利用しながら当館の館内ボランティアが毎日3～5人ずつ交代で行っている。

年中行事の展示としては、8月に盆棚飾り、10月に月見飾り、1月に正月飾りを行った。盆棚飾りの展示にあたっては、昨年度当館敷地内へと移植したコモを用いてコモ蔦を製作した。正月飾りの展示にあたっては、煤払い、障子貼り、藁打ち、縄緬い、飾り付けまでの工程をボランティアとともに行った。

教育普及の事業としては、ボランティアの協力のもと、体験イベント「昔遊び」を開催し、多くの親子連れでにぎわった。体験内容は、従来に比してじっくりと取り組めるプログラムが充実してきており、人気を博している。

年間の来館者数は26,821人（開館日287日、1日平均約93人）であった。また、昨年度に引き続き当館ホームページに「今野家日誌」を掲載した。

## 5 特別展示

### (1) 春季特別展「世界遺産ラスコー クロマニヨン人が残した洞窟壁画」

開催期間	平成 29 年 3 月 25 日 (土) から平成 29 年 5 月 28 日 (日)
開催日数	65 日 (うち 57 日開館)
入場者数	37,435 人 (平均 657 人/日)
主催	東北歴史博物館, TBC 東北放送, 河北新報社, 毎日新聞社
後援	外務省, 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本, 多賀城市, 多賀城市教育委員会, 多賀城市観光協会, 多賀城・七ヶ浜商工会, NHK 仙台放送局, 仙台放送, KHB 東日本放送, ミヤギテレビ, IBC 岩手放送, テレビユー山形, テレビユー福島, 朝日新聞仙台総局, 読売新聞東北総局, 産経新聞社東北総局, エフエム仙台, 宮城ケーブルテレビ
協力	信越化学工業, 大日本印刷
企画制作	日本旧石器学会, 日本通運, 仙台日仏協会・アリアンス・フランセーズ
観覧料	国立科学博物館/TBS テレビ 一般1,500円 (前売1,300円), シルバー・学生1,400円 (前売1,200円), 小中高校生600円 (前売400円) ※20名以上の団体, ホームページ割引画面の印刷または画面の提示, 宮城県美術館「ルノワール展」/仙台市地底の森ミュージアムの半券持参で当日料金の100円引き, 小学校の児童, 中学校及び高等学校の生徒の団体については無料
構成	第Ⅰ章 衝撃の発見, 壁画の危機, 閉鎖 第Ⅱ章 よみがえるラスコー 第Ⅲ章 洞窟に残されていた画材・道具・ランプの謎 第Ⅳ章 ラスコー洞窟への招待 第Ⅴ章 ラスコーの壁画研究 第Ⅵ章 クロマニヨン人の芸術世界 第Ⅶ章 クロマニヨン人はどこからきたのか 第Ⅷ章 クロマニヨン人の時代の日本列島

### 関連行事

#### ①記念講演会

【記念講演会1】 講師：五十嵐ジャンヌ 氏 (東京藝術大学講師, 学術協力者・壁画研究者)  
「ヨーロッパ旧石器時代洞窟壁画におけるラスコーの位置づけ」

日時：平成29年3月25日 (土) 午後1時30分から 会場：講堂 来場者数：230人

【記念講演会2】 講師：阿子島 香 氏 (東北大学大学院教授, ヨーロッパ旧石器遺跡研究者)  
「クロマニヨン人の生活世界-考古学からの復元-」

日時：平成29年4月23日 (日) 午後1時30分から 会場：講堂 来場者数：268人

【記念講演会3】 講師：海部 陽介 氏 (国立科学博物館人類史研究グループ長, 展示監修者)  
「クロマニヨン人とは誰か?日本人はどこから来たのか?-解明されてきた人類の起源-」

日時：平成29年5月13日 (土) 午後1時30分から 会場：講堂 来場者数：540人

【展示解説】 当館展示担当学芸員による展示の見どころと資料解説

日時：会期中の隔週水曜日 午前11時から 会場：講堂

来場者数：3月29日 110人, 4月12日 115人, 4月26日 120人, 5月10日 140人, 5月24日 170人

#### ②体験イベント 各回とも午後1時から

(ア) 石と粘土の絵の具で描く 4月29・30日 会場：実習室 参加者数：60人・63人

(イ) 石器で描く 5月7日 会場：研修室 参加者数：76人

(ウ) 石器で切る 5月28日 会場：研修室 参加者数：60人

(エ) 狩人登場 \*カウントなし

#### ③洞窟壁画体験教室 (平成29年度実施) 作品展

### 趣 旨

フランス南西部のベゼール渓谷にあるラスコー洞窟は, 約2万年前の旧石器時代に描かれた洞窟壁画が高く評価され, 世界遺産に登録されている。現在洞窟は保全のために封印され, 実物の壁画を見ることはできない。本展はラスコー洞窟の特徴と歴史を, 模型や映像で学び, 実物大で精巧に再現し

た洞窟内部で壁画発見の疑似体験をする世界巡回展である。特に旧石器時代の人類が残した洞窟壁画の内容と描いた目的の謎に迫り、来場者に紹介するものである。日本では、洞窟壁画を描いたクロマニヨン人について掘り下げるオリジナル要素を加え、東京会場（国立科学博物館）、宮城会場（東北歴史博物館）、福岡会場（九州国立博物館）の3か所で開催された。

## 総 括

本展は、旧石器時代の中でも、洞窟壁画という日本に馴染みがうすいテーマであったといえる。小学校の教科書では旧石器時代自体が扱われず、若い世代はラスコー洞窟や旧石器時代を知らない人が多くなっている。しかし見方を変えれば、見る機会の少ない珍しいテーマであり、展示が魅力的であれば、ロコミが期待できるテーマでもあった。東京では26万人の来場者があり、その点は、特別展に対する期待感として宮城会場の開催に有利に働いたと思われる。展示の見どころが高精度のレプリカということが、この展示の目玉であり、弱点でもあった。アンケートにみる来場者の感想では、実物大の洞窟を再現するという大がかりな演出について好意的な感想が多く、「迫りに圧倒された」、「まったく飽きないで見学できた」など、多くの人に満足いただけたようである。これは、会場レイアウトと照明調整によってラスコー（洞窟）展にふさわしい魅力的な空間演出ができたことも大きかったと考える。第VIII章「クロマニヨン人の時代の日本列島」で展示をまとめたことは、「日本列島の動きまで話を持っていくことは大切」、「日本の出土品の展示もほどよく、クロマニヨン人のいた頃の宮城の展示品もあり、勉強になった。」など、支持された。

また、子ども向けに展示内容を補足する目的で制作した「子どもパネル」の評判がよく、「子どもが楽しめた、わかりやすい展示だった」という感想が多かった。その一方で、「洞窟壁画の実物大再現部分をもっとたくさん見たかった」、「物足りない」という、内容の充実を求める感想もあった。関連行事についてはいずれも盛況であった。しかし、展示監修者である海部陽介氏の講演会では、別室のモニター聴講会場まで満員となり、入場をお断りすることになるなど、大規模巡回展の運営における課題も明らかとなった。

来場者数は4万人に届かなかったが、大型展示を誘致し、実施できたことは今後特別展を企画運営していく上で大きな成果があったと考える。



展示会場のようす 第IV章洞窟壁画の再現展示



子どもパネル

## (2) 河北新報創刊 120 周年記念 特別展「漢字三千年—漢字の歴史と美—」

開催期間	平成 29 年 6 月 24 日（土）～平成 29 年 8 月 23 日（日）
開館日数	44 日間
入場者数	17,738 人（403 人／日）
主 催	東北歴史博物館、河北新報社、KHB 東日本放送、 中国人民対外友好協会、中国文物交流中心、日本中国文化交流協会
後 援	外務省、文化庁、中国国家文物局、中国大使館、中友国際芸術交流院、中国文化センター、日中協会、人民日報海外版日本月刊、多賀城市、多賀城市教育委員会、多賀城市観光協会、多賀城・七ヶ浜商工会、NHK 仙台放送局、東北放送、仙台放送、宮城テレビ、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東北総局、産経新聞社東北総局、エフエム仙台、宮城ケーブルテレビ
協 賛	交通銀行東京支店、平和商事株式会社
協 力	漢検 漢字博物館・図書館、山九、華協国際、中国国際航空、藤井寺市教育委員会
企 画	黄山美術社



## II 展 示

**監 修** 京都大学名誉教授 阿辻哲次氏

**観 覧 料** 当日券 一般 1,300(1,200)円, シルバー・学生 1,200(1,100)円, 小中高校生 400(300)円  
※カッコ内は 20 名以上の団体  
前売券 一般 1,100 円, シルバー・学生 1,000 円

### 関連行事

#### ①記念講演会

日時等 平成 29 年 6 月 24 日 (土) 13:30~15:00 於講堂

講 師 阿辻 哲次 氏 (本展監修者/京都大学名誉教授)

演 題 「漢字に見る人生の知恵」

#### ②こども漢字講座

日時等 平成 29 年 7 月 30 日 (日) 13:30~15:00 於講堂

講 師 小野寺 完 氏 (進学プラザグループ 俊英四谷大塚 教務主任)

演 題 「漢字の世界をのぞいてみよう。～漢字っておもしろい!～」

#### ③席上揮毫

日 時 平成 29 年 7 月 9 日 (日) 13:30~15:00 於中央ロビー東側

講 師 大友 青陵 氏 (河北書道展審査委員長)

#### ④高校生書道パフォーマンス

日 時 平成 29 年 7 月 17 日 (月・祝) 11:00~11:30 於水上舞台

出 演 聖ウルスラ学院英智高等学校書道部のみなさん

演 題 「漢字のチカラ」

付帯企画 高校生版 席上揮毫「名前のチカラ～君の名は?～」 (パフォーマンス終了後)

#### ⑤展示解説

日時等 毎週水曜日および 8 月 8 日 (火), 8 月 10 日 (木) 11:00~11:45 於研修室

### 関連企画

#### ◆夏休み体験コーナー

名 称 「漢字縁日」

内 容 漢字のリンク/漢字の魚釣り/漢字なりきり記念撮影/くにながまの輪投げ/漢字の昆虫採集/漢字のカードゲーム

期間等 平成 29 年 7 月 29 日 (土) ~ 8 月 13 日 (日) 於中央ロビー西側

協 力 漢検 漢字博物館・図書館

### 協賛企画

#### ◆体験教室

##### ①「漢字のはんこをつくろう」

日時 平成 29 年 7 月 22 日 (土) 13:30~14:30 於実習室

##### ②「多賀城碑で拓本をとろう」

日時 平成 29 年 8 月 5 日 (土) 13:30~14:30 於実習室

## 趣 旨

「漢字」は、中国文明の中で生まれた古代文字でありながら、誕生以来 3000 年の長きにわたって、人々に愛され使われ続けている、世界で他に例のない文字である。その時代に最もふさわしい形で表現され、読みやすさや書きやすさ、そして美しさを模索され発展してきた。

本展では最古の漢字といわれる甲骨文字をはじめ、文字の統一を果たした秦時代の漢字、世界初公開の文字の刻まれた兵馬俑など漢字が記された文物を展覧するとともに、漢字を芸術の域にまで高めた王羲之や顔真卿の拓本など歴代の名書家の作品、歴史上の人物が書いた書芸術作品など、中国の博物館・研究機関 17 ヶ所から、国家一級文物 21 点を含む約 110 点を展示した。それによって漢字の歴史と美の変遷を探ることを目的とした。

### 展示構成

#### 第一部 漢字の歴史

我々日本人は、千数百年前、中国から漢字を学び、その漢字の恩恵は計り知れない。しかし、我が国にもたらされた漢字は完成された形で、漢字がそれ以前二千年もの歴史があり、形にも大きな変遷が有ることを知る日本人は少ないのではないか。第一部ではそうした漢字の歴史を新石器時代からさ

かのぼり、漢字の発祥とされる「甲骨文字」、そして青銅器に鋳こまれた「金文」など、さまざまな漢字の記された文物を紹介し、その背後にある漢字の世界観を示した。

## 第二部 漢字の美

漢字は神との通信手段から人間社会のものとなり、さらには単なる情報伝達ツールにとどまらず、芸術の領域へと進んでいった。この書芸術は、世界に誇る東アジアの代表的文化のひとつであり、東洋の精神世界を見事に表している芸術でもある。ここでは様々な書家の作品を通し、書体の『美』にふれると同時に、「書は人物なり」と言われるように、乾隆帝などの皇帝をはじめ歴代の著名な人物による個性あふれる作品を紹介した。

## 総 括

主催の河北新報社および KHB 東日本放送の全面的な協力によって多くの観覧者を迎え、展示を理解していただいたことは、感謝の念に堪えない。また展示だけでなく、自分の名前の由来を観覧者に紹介してもらう「名前の木」などの参加型アトラクションや関連行事も充実して実施することができた。特に、席上揮毫や高校生による書道パフォーマンスでは、文字を「書く」という行為を観覧者に示すことができ、展示作品の向こう側にいる作者（筆者）やその営為に思いをはせてもらう機会となったと思う。今回のこのような経験を活かし、今後もこのような企画を実施していきたい。

### (3) 秋季特別展「熊と狼一人と獣の交渉誌一」

開催期間 平成 29 年 9 月 16 日（土）～11 月 19 日（日）

開催日数 65 日（うち 56 日開館）

入場者数 8,619 人（平均 154 人／日）

主 催 東北歴史博物館

共 催 河北新報社、TBC 東北放送

後 援 多賀城市、多賀城市教育委員会、多賀城市観光協会、多賀城・七ヶ浜商工会、東北放送、仙台放送、(株)宮城テレビ放送、東日本放送、(株)エフエム仙台、ケーブルテレビマリオネット、朝日新聞仙台総局、毎日新聞仙台支局、読売新聞東京本社東北総局、産経新聞社東北総局

協 力 セルコホーム ズーパラダイス八木山、仙台うみの杜水族館

特別協力 女子美術大学

助 成 平成 29 年度芸術文化振興基金（地域文化施設公演・展示活動助成）／平成 29 年度カメイ社会教育振興財団（文化及び芸術等の振興に対する助成）／平成 28 年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（地域の存する文化財の活用）／平成 28 年度三菱財団学術研究助成金（人文科学助成）

観 覧 料 一般 800 円（700 円） シルバー 700 円（600 円） 小中高校生 300 円（200 円）  
（ ）内は 20 名以上の団体料金

## 関連行事

①学芸員による展示解説（毎週日曜日 11 時～） 計 10 回平均 29.8 人

②【記念講演会 1】 講師：田口洋美（東北芸術工科大学歴史遺産学科教授）

「旅マタギを検証する－技術と歴史史料でたどる出稼ぎ狩猟の実態－」

10 月 15 日（日）13 時 30 分～15 時 3 階講堂 来場者数 213 人

【記念講演会 2】 講師：米田一彦（日本ツキノワグマ研究所理事長）

「人を襲う熊－十和利山熊襲撃事件の全貌－」

10 月 28 日（土）13 時 30 分～15 時 3 階講堂 来場者数 183 人

③体験イベント 「熊爪ペンダントを作ろう！」

11 月 3 日（金）11 時～参加者 20 人 13 時 30 分～参加者 21 人

（定員各回 20 人、10 月 3 日（火）9 時予約開始、10 時予約満了）

構 成 プロローグ 現代の問題

1 章 獣と人 (1) さまざまな獣 (2) 人を襲う獣 (3) 熊と狼の被害

2 章 熊との関わり (1) 熊を獲る人 (2) 熊を獲る (3) 熊を使う (4) マタギの習俗

3 章 狼との関わり (1) 狼に願う (2) 狼が襲う (3) 狼を除く

エピローグ 熊の行く末

\*資料数 205 件（熊 127、狼 73、ほか 7）

## Ⅱ 展 示

### 趣 旨

日本の野生動物のなかで熊と狼は人に危害を加える動物として知られてきたが、熊と狼は人との関わり方が異なる。熊は山の神から授かるものとして、猟師（マタギ）が獲り、その毛皮と胆嚢（熊の胆）が利用されてきた。他方の狼はあがめられる一方で、人や馬に危害を加える害獣として駆除されるなどして、明治時代に姿を消した。近年、熊の毛皮などの利用は減っているが、人里に出没する熊が増えて、人身被害も起きている。このため、熊は害獣として駆除されるようになってきた。展示では人におそれられてきた熊と狼の害獣としての側面とともに、利用や信仰などの側面から、動物と人との関わりを紹介した。

### 総 括

本展は野生動物と人との関わりをテーマにして、東北地方に存する熊と狼に関する資料を展示した。アンケート集計結果によると、入場者の男女比が同数であること（男 582, 女 582）、10代から50代まで年齢層がほぼ近似していることなどを特徴としてあげられる。この中で、大学生（7.1%）や公務員（12.2%）の割合が比較的が多かった。満足度は高く、入場者の9割以上が満足と回答している（満足 61.0%、やや満足 30.6%）。アンケート回答率もきわめて高く（13.5% 回答者 1168人/入場者 8619人）、これも展示内容が好意的に受け止められたことを示唆している。

展示全体については、「動物や自然との関わりを考えさせられた」、「東北地方で人と獣がいかにつき合ってきたかがわかる展示だった」などの回答が複数あり、ねらいは概ね達成できたと思われる。「東北ならではの資料が多くて、良かった」、「神の使いとして熊と狼を対比するところが興味深かった」、「地味な企画であるが、オリジナルに頑張った跡が見えて、好感が持てる」という感想もある。このほかに、「市街地に出没する熊が増えており、タイムリーな展示である」、「時勢に合った企画だと思う」との回答もある。

展示構成については、「順序よく展示されていて良かった」、「知りたいと思った答えをすぐに見ることができる配置で、よくわかった」などの回答が多い。パネル、キャプションに対しても「資料の説明文がわかりやすい」、「表記がシンプルでわかりやすかった」などの好評価を得た。これは展示担当者全員が繰り返し調整した成果と言える。

個別の資料については、最も評価が高かったのがミナシロ（アルビノ熊の剥製）、ミナグロ（月の輪のない熊の剥製）であり、これに最大級熊皮、熊毛使用兜、狼頭骨、イラタカ数珠がつづく。こうした剥製や毛皮などの好評価が目立つ一方で、古文書の評価も予想以上に高かった。「古文書が多く、面白かった」、「古文書の解説がわかり易かった」という回答が複数寄せられ、なかには「昔の人が熊や狼とどうつき合っていたのか、多くの古い文献で展示していて興味深かった」とう感想もあった。

他方で、資料について不足を指摘する声もあり、「狼の資料が少ない」、「ニホンオオカミの剥製を見たかった」という指摘が複数あった。ニホンオオカミ骨格標本（国立科学博物館蔵）は展示したが、狼関連資料は73件（35.6%）であり、熊関連資料の127件に比べて少ないことは事実である。これは当初予定していた関東地方の三峯神社の狼関連資料の借用を断念したことなどによる。しかし、結果としては、資料が東北地方に集中することになり、展示全体に統一感をもたらしたとも言える。

関連行事については、展示解説（10回）、記念講演会（2回）、体験イベント（2回）のいずれも好評価であった。また、図録も好評であったが、閉幕10日前に完売となったため、購入できなかった方々から完売を惜しむ声が多数寄せられた。

助成については、次の外部資金を得た。①平成28年度文化庁補助事業の助成を得て、熊用木製畏復元記録映像を制作し、この映像を特別展示室内で上映した。今年度も同事業によって熊用木製畏復元資料を特別展示室内に展示する計画であったが、同事業の助成が不採択となったために経費を縮減し、エントランスホール手前の館外に展示した。②平成29年度カメイ社会教育振興財団の助成を得て、熊狩り・熊祭り記録映像を制作し、展示室内で上映した。これらのビデオ映像への評価は非常に高く、映像資料の効果を再認識させられた。



展示風景

## 6 その他の展示事業

### 「宮城の明治期木造洋風建築」展

開催期間 平成 29 年 9 月 20 日(水)から 10 月 22 日(日)  
 開催日数 33 日 (うち 28 日開館)  
 主催 東北歴史博物館  
 会場 東北歴史博物館 1 階エントランスホール (観覧無料)  
 趣 旨

明治維新後、政治・行政・産業・教育など様々な面において新しい制度が導入された。建築にも新時代・新制度を体現し、民衆に示す役割が求められ、近世以前の伝統的な日本建築とは異なる西洋の建築様式が積極的に用いられた。お雇い外国人技師やそのもとで学んだ技術官僚によって政府関連の施設がつくられる一方で、地方の官庁や学校等の建設を担った大工棟梁などの民間の工匠は、実際に外国人居留地での工事に携わったり、竣工した建築を見学したりすることで、日本伝統の木造技法の上に西洋の建築デザインを採り入れていった。

明治期の宮城県においても、外国人技師のほか県の営繕技師や大工によって、西洋の建築様式を採り入れた洋風の木造庁舎・学校等が数多く建てられた。そこには新時代にふさわしい建築をつくろうとした、日本人技術者たちの工夫と努力の跡を見ることができる。

本展では、当館が模型を所蔵する「東華学校本館」と「旧登米警察署庁舎」を取り上げ、その歴史的背景と洋風の建築意匠を模型とパネルにより解説する。さらに、旧登米警察署庁舎をはじめ、明治期に県内で数多くの建築を手がけた宮城県技師・山添喜三郎の経歴と事績を紹介する。

### 総 括

当館において建築を主題にした展示の開催実績はわずかであり、建築自体の魅力やその背景にある情報を、模型やパネルを通して来館者に提示することができた。また、普段は収蔵庫にあって来館者の目に触れる機会の少ない資料を展示できたことは、収蔵資料の有効活用という面で成果はあったと考える。一方で、写真を用いた解説パネルを用意したものの、展示資料が模型 2 点のみであり、見ごたえのある展示にならなかった。今後はテーマ展示等でも実施できるよう、検討を続けていきたい。



## Ⅲ 教育普及

### 1 施設運営

#### (1) こども歴史館

##### ① ねらい

児童や生徒、親子連れなどを主な対象とし、体験や映像を通して歴史にふれることで、歴史への関心や歴史を学ぶ事のおもしろさを知るきっかけをつくることを目指す。題材としては身近な生活の歴史を取り上げ、歴史への興味を喚起する。さらに一方的な知識の伝達ではなく、子どもたちが主体となり、様々な体験を通して楽しみながら歴史を学べるように工夫している。

##### ② 平成29年度の利用者数

平成29年度の利用者数は24,553人であり、前年度より16人減と大きな変化はなかった。

月別の利用統計を見ると、4月、5月は昨年度に比べ利用者が大幅に増加している。4、5月は親子連れも対象とした大型特別展「世界遺産ラスコー」開催の影響で館全体の来館数も年間で最も多く、こども歴史館の利用者数もこの影響を受けたものと考えられる。また、6月の利用者数増加は、学校団体利用数の増加を受けてのものである。一方、特に館メンテナンスのため一ヶ月の休館となった12月を含め、特別展の少ない後半期の利用数は全体的に減少したが、1、2月はこども歴史館を会場とした各体験プログラムの実施や、学校団体利用数の増加もあり、利用数の落ち込みは少なく例年並みであった。

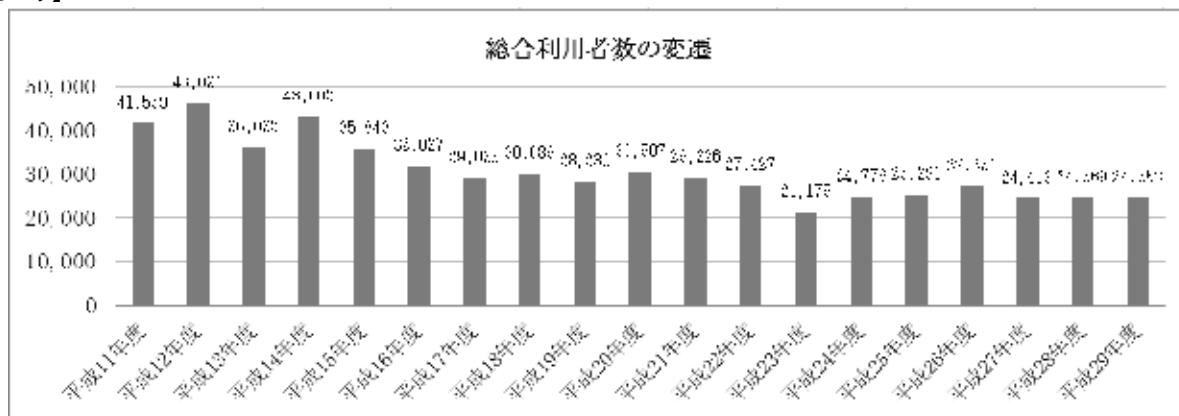
##### 月別利用者数

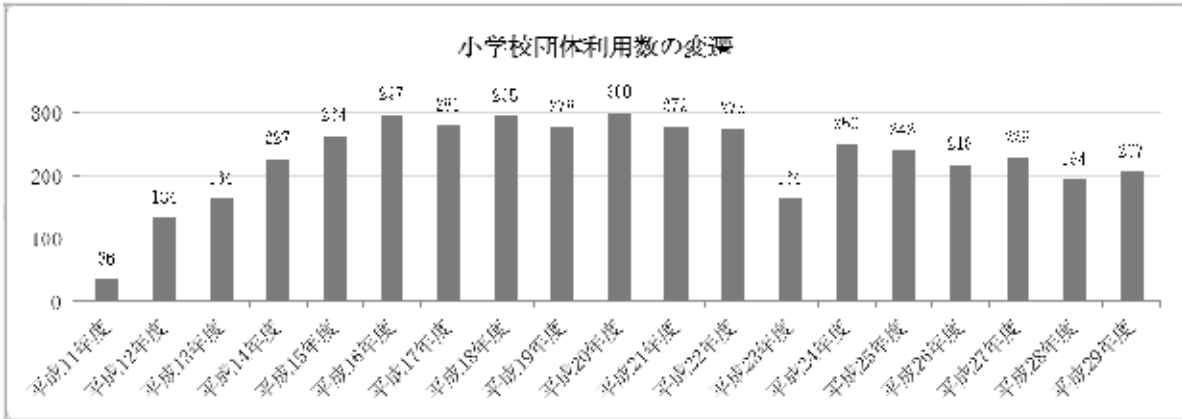
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度	1,648	1,831	5,037	2,117	2,141	3,062	1,993	1,814	777	1,473	1,242	1,434	24,569
<b>平成29年度</b>	<b>2,099</b>	<b>3,074</b>	<b>5,337</b>	<b>1,908</b>	<b>2,286</b>	<b>2,437</b>	<b>1,841</b>	<b>1,631</b>	<b>163</b>	<b>1,409</b>	<b>1,241</b>	<b>1,127</b>	<b>24,553</b>
昨年度比	+451	+1,243	+300	-209	+145	-625	-152	-183	-614	-64	-1	-307	-16
(博物館来館数)	21,097	32,414	20,701	15,877	15,518	10,266	15,550	9,500	683	5,858	5,138	4,678	157,280

##### 小学校団体利用数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
(平成26年度)	16	20	99	15	1	28	16	8	1	8	4	2	218
平成28年度	11	8	88	11	2	39	9	14	1	9	1	1	194
	(562)	(509)	(3840)	(531)	(165)	(1840)	(452)	(778)	(54)	(481)	(42)	(8)	(9262)
<b>平成29年度</b>	<b>10</b>	<b>15</b>	<b>100</b>	<b>9</b>	<b>2</b>	<b>28</b>	<b>11</b>	<b>13</b>	<b>1</b>	<b>13</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>207</b>
	<b>(554)</b>	<b>(934)</b>	<b>(4164)</b>	<b>(370)</b>	<b>(156)</b>	<b>(1605)</b>	<b>(552)</b>	<b>(767)</b>	<b>(63)</b>	<b>(592)</b>	<b>(163)</b>	<b>(0)</b>	<b>(9902)</b>
昨年度比	-1	+7	+12	-2	±0	-11	+2	-1	±0	+4	+4	-1	+13
	(-8)	(+425)	(+324)	(-161)	(-9)	(-235)	(-100)	(-11)	(+9)	(+111)	(+121)	(-8)	(+640)

#### 【参考】





③ 平成 29 年度小学校団体利用状況

宮城県内をはじめ、岩手県、山形県を中心とした 207 校の団体利用があった。昨年度に比べると、利用学校数が増加した。増加の原因として、修学旅行としての利用が多い 4 月から 6 月にかけて、大型の特別展が開催されていたこと、近隣にできた大型文化施設の利用が一段落し、一部の学校が当館に戻ってきたのではないかと考えられる。ただ、以前の利用数までは戻っておらず、修学旅行プラン自体の変化や、自主研修を取り入れるなど内容の多様化も含め、さまざまな要因を分析していかなければならない。

館として、利用説明会の実施や、旅行会社等への売り込みなど、当館における歴史学習の魅力や活用方法をアピールしていきたいと思う。また、魅力ある利用方法の新たな開発など、館全体として考えていかなければならないと思われる。

④ 体験企画

今年度も、特別展の開催されていない閑散期の利用活性化を目指し、歴史に親しみ興味を持ってもらうことを目的に 3 つの事業を実施した。

1 月のお正月遊び企画は、例年よりも 1 週間ほど開催期間が短かったにも関わらず、400 人を超える参加者があった。今年度はチラシの配布先を増やすなど広報面でいくつか新たな試みを行った。今年度の成果や来館傾向を分析し、次年度も広報を工夫していく。

解説員自主企画である 1 月の裂織体験では、「歴史に親しみ興味を持ってもらう」という目的のもと解説員が企画から運営まで様々な工夫を凝らし、参加者の満足度は概ね高いようであったが、多くの方に参加いただくにあたり広報面等には課題が残った。

2 月開催の冬の体験イベント実施プログラム「めざせ！こども歴史館マスター！！」は、歴史の面白さを伝えるワークワゴンの魅力に改めて注目してもらうことを狙いとしたもので、こども歴史館の活性化につながる取り組みとなった。特に、年齢層別のプログラム設定は、近年増加している低年齢層の利用者に対してどのような働きかけができるかという課題を考える上での大きな手がかりとなったように思われる。

(ア) 平成 30 年 1 月 5 日 (土) ～平成 30 年 1 月 14 日 (日) の開館日

「お正月遊び 2018 ～お正月遊びをしてイカヌかい?～」 9 日間

羽根つき、双六、福笑いなどのお正月遊びを体験できる特設コーナーをインフォメーション脇に設置し、自由に遊べるようにした。また、凧や注連縄、鏡餅・おせち(重箱)などお正月らしいディスプレイに加え、「お正月遊び大辞典」も設置した。参加者 423 人。

(イ) 平成 30 年 1 月 16 日 (火) ～31 日(水) 平日 3 回、土日 4 回、各定員 5 名程度

「変身！裂織でコースターを作ろう」 14 日間

実際に着古された木綿を裂いたものを織る「裂織」の体験を通して、物を大切に使いきる昔の人々の工夫を知り、物を大切に使うことについて考えてもらうことをねらいとした。参加者 70 人。

(ウ) 平成 30 年 2 月 18 日 (日) 冬の体験イベント

「めざせ！こども歴史館マスター！！」

こども歴史館の 11 種類のワークワゴンそれぞれから難易度の異なる課題 2 題を出題し、全て

の課題クリアを目指す体験プログラムを通して、各ワークワゴンが伝える歴史の面白さに改めて注目してもらうことを狙いとした。参加者 84 人。

#### ⑤ こども歴史館の現状と課題

近年増加している小学校低学年の児童や未就学児といった低年齢層、特別支援学校、デイサービスの利用に即したものも含め、現状の利用に合ったワークワゴン運営の見直し、新たなプログラムの立案等は今後も継続した課題である。好評な体験企画の運営や広報等も工夫しながら、こども歴史館の利用活性化を図っていく。

施設の更新としては、シアターの他にも、パソコンランドなど、開館以降機器やソフトの更新の機会を得られないまま老朽化が進み、早期の更新を必要とするコンテンツが存在する。利用者満足度をより高めるためにも、引き続きこうした機器の更新の道を探っていく。

#### (2) 図書情報室

図書情報室では、生涯学習の支援を目的として、当館が所有する歴史や文化遺産に関する各種情報を、図書資料・情報端末パソコン・ビデオ・MDなどを通して提供している。今年度の利用者数は 3,722 人、月平均の利用者数は約 310 人で、昨年より 32 人ほどの増となった。利用者数は、臨時休館していた 12 月を除き、各月とも 200 人台後半から 300 人台後半と安定していた。今年度は特別展(「世界遺産ラスコー展」, 「漢字三千年」, 「熊と狼」)がほぼ連続して開催されており、その効果が大きいと考えている。その中でも講演会などが企画されている日は特に利用者が多く、イベントの効果が確認された。また一般に来館者数が低迷するといわれる 2 月においても、学芸職員の調査・研究の成果を発表する「れきはく講座」や「民俗芸能講座」などが土・日曜日に開催されていることなどにより、378 名を数えた。1 日で 60 人を超える日も複数あり、これは年間を通して 1 日の利用者数としては最多である。利用者層は年間を通して 60 歳以上の熟年世代が多く、昨年同様に夏休み期間中や 1 月以降は学生による利用も増えている。

##### ① 図書資料

東北地方の県・市・町・村史、郷土史に関する図書を中心に、歴史・考古・民俗・宗教・美術工芸・建築史関係等の図書や辞書を開架式で約 8,000 点配架し、常時閲覧できるようにしている。小学校の社会科副読本や漫画を通して歴史を学ぶようなこども向けの書籍コーナーもあるので楽しみながら利用していただきたい。博物館研究や日本歴史など継続して購入している学術雑誌や新刊書籍については、来館者の目にとまるように、サービスカウンター付近にコーナーを設けて紹介し、好評を得ている。

レファレンスは 216 件で昨年に比べ 60 件ほど増加したが、昨年同様に「何々について調べたいがどういふ本があるか教えて欲しい、こういうことを調べているので専門の先生のお話を聞きたい」と言った館内資料の閲覧やそれぞれの調査に関する質問が多かった。

閉架式となっている図書収蔵庫保管図書資料の閲覧請求数は 112 件 347 点であった。当館では、図書の館外貸出は行っておらず、図書情報室内に設置した機器での複写サービスで対応している。また、短時間に多量の調査報告書の閲覧希望がある学生や遠来の来館者の方には、効率よく閲覧できるように、事前に当館のホームページで図書資料の検索を行い、閲覧希望図書の一覧を送付してもらえるように案内している。

##### ② マイクロフィルム資料

マイクロフィルム・リーダープリンターを 2 台設置し、マイクロフィルム資料の閲覧に応じている。当館では約 60 群の文書をマイクロフィルムに撮影しており、総数約 1,700 リールを所蔵している。一部のマイクロフィルムについては、劣化防止と閲覧の便宜を図るため、プリンターで複写したファイルを配架し閲覧に供している。なお、マイクロフィルム資料の閲覧については、効率よく出納できるように、学芸班実物資料(文書)担当職員と閲覧希望日時を事前に調整し実施している。

##### ③ 複写サービス

マイクロフィルム・リーダープリンターの他に、電子複写機 1 台を設置し、職員が常駐し、「著作権法」第 31 条(図書館における複写)の範囲内で、当館利用者の調査研究のための複写サービスを行っている。複写の対象は、当館が所蔵する図書資料・マイクロフィルム資料で、かつその一部

分を1部のみ複写する場合に限られる。所定の申込用紙による申請を受け、司書が可否を判断した上で複写を認めている。図書資料は1枚10円、マイクロフィルム資料は1枚15円（マイクロフィルム・リーダープリンターで複写配架したファイルは図書資料として扱う）の有料となっている。

なお、インターネットからのプリントアウトによるサービスは、「著作権法」第31条での複製の対象とならない（インターネットで公開されている情報資料は、館蔵資料と見なされない）ことから実施していない。

今年度の図書資料とマイクロフィルム資料の複写サービスの利用数は、図書資料293件7264枚、マイクロフィルム資料9件2039枚であった。

#### ④ 視聴覚資料

ビデオ再生機器3台6席、MD再生機器2台2席を設置し、歴史・考古・民俗・美術工芸・建築などに関するビデオソフト約250巻、宮城県の「民話」や「民謡」を収録したMDを約300枚配架している。今年度の視聴覚資料利用数は、ビデオソフト11件15巻、MDの利用はなかった。

#### ⑤ 情報提供用端末パソコン

文化財や当館所蔵図書資料など当館の有する各種情報を提供するために、端末パソコン5台を設置している（ローマ字入力4台・ひらがな入力1台）。初期画面で当館のホームページにアクセスし、さらにそこから図書資料のデータベースや収蔵資料ダイジェストの検索ができるようになっている。

インターネット利用者によるゲームや好ましくないサイトへのアクセス対策としては、司書カウンターのパソコンで各端末パソコンの利用状況をモニターし、同時に端末パソコンのブースに「利用状況モニター中」の掲示を行っている。また、不適切なサイトを利用している場合には、当該端末パソコンの画面に警告文を送り、利用自粛を促している。

## 2 催事運営

### (1) 館長講座

平成28年度につづき、平成29年度は鷹野光行館長による館長講座を実施した。

今年度は「発掘でめぐる世界－イラン・タイ・イタリア・日本－」と題して、全15回にわたり館長講座を実施した。参加人数は合計808人（前年1165人）であった。

	全て日曜日	タイトル	参加人数
第1回	4月15日	発掘調査とわたし	64
第2回	5月20日	ラメ・ザミン遺跡の発掘	57
第3回	6月3日	イランでの生活と遺跡	54
第4回	6月17日	タイ バンドンブロン遺跡の発掘	48
第5回	7月1日	タイ イサーンの寺院	40
第6回	7月15日	シチリア島での調査	60
第7回	8月5日	シチリア島の遺跡（1）	100
第8回	8月19日	シチリア島の遺跡（2）	51
第9回	9月2日	タルクィニアでの調査	53
第10回	9月16日	タルクィニアの町と世界遺産	50
第11回	10月7日	ローマ郊外 オスティアの遺跡	44
第12回	10月21日	パエストゥムの遺跡と博物館	52
第13回	11月4日	ソンマ・ヴェスヴィアーナ	40
第14回	11月18日	ポンペイを歩く	48
第15回	12月2日	指宿市敷領遺跡の調査	47
		合計	808
		平均	53.9



(2) 博物館講座

一般を対象に、「れきはく講座」，「史料講読講座」，「古文書講座入門編」，「古文書講座中級編」，「体験考古学講座」，「民俗芸能講座」の各講座を設けた。全て参加無料，「れきはく講座」を除いて，いずれも事前申込制で実施した。

① れきはく講座

学芸職員が日頃の調査・研究成果について発表するものとして，全8回・8講座を開設した。参加者は合計1076人（平均134.5人）で昨年（合計899人，平均112人）を大幅に上まわった。

回	テーマ	開催日	講師	参加人数(人)
1	神道の神楽，仏教の神楽-法印神楽の立ち位置-	1月7日	笠原信男	126
2	縄文土器の隠れた知恵	1月14日	菊地逸夫	156
3	阿倍比羅夫の北方遠征-謎に包まれた遠征の目的に迫る-	1月21日	相澤秀太郎	193
4	遺構の展示	1月28日	芳賀文絵	63
5	名所の風景-江戸時代の塩竈・松島図を中心に-	2月4日	大久保春野	149
6	エミシとよばれた人々の暮らし	2月11日	佐藤憲幸	192
7	宮城県における縄文中期-七ヶ宿町小梁川遺跡・大梁川遺跡を中心に-	3月4日	相原淳一	135
8	名取鋏について-超鋭角な鋏の謎-	3月11日	今井雅之	62

② 史料講読講座

史料を読み進めることによって，その中に隠されている歴史的事実や人々の心情をを読み解いていくもので，今年度は「文字に込めた思い」をテーマに全3回連続講義として実施した。

回	テーマ	開催日	講師	参加人数(人)
1	文字に込めた思い-願文・書状を読む- 卷之一	5月21日	塩田達也	41
2	文字に込めた思い-願文・書状を読む- 卷之二	6月18日	塩田達也	38
3	文字に込めた思い-願文・書状を読む- 卷之三	7月16日	塩田達也	31

③ 古文書講座

入門編

古文書の学習に必要な知識や各種辞書類の使い方など，基礎的な能力を身に付けるための方法について解説するもので，全3回の連続講義として実施した。

回	テーマ	開催日	講師	参加人数(人)
1	古文書への扉	8月6日	塩田達也	58
2	辞書に親しむ	9月3日	塩田達也	57
3	様式や慣用句を知る	9月23日	塩田達也	49

中級編

古文書解読の基礎知識をもつ受講者が，実践的な読解能力を身に付けられるように解説するもので，全4回の連続講義として実施した。

回	テーマ	開催日	講師	参加人数(人)
1	政宗文書を読む(その壱)	11月26日	塩田達也	55
2	政宗文書を読む(その弐)	12月17日	塩田達也	53
3	政宗文書を読む(その参)	1月27日	塩田達也	43
4	政宗文書を読む(その肆)	2月25日	塩田達也	52

## ④ 体験考古学講座

縄文土器を忠実に再現することで縄文人の技や技術を知り、ひいては新たな歴史認識ができるようになるという目的で2回（10月14日・11月11日）の講座を行い、のべ22人の参加を得た。成形・文様の観察・縄文原体の作製・施文・焼成・使用実験という一連の作業を追体験することで、土器に対する理解を深めた。モデルとして使用した土器は塩竈市桂島貝塚から出土した中期と後期初頭のもので、文様単位の存在や展開が理解しやすい物を選んだ。

参加者からは「縄文土器の文様に規則性があることがわかった」、「縄文人の技術はずいぶん高いものでびっくりした」、「縄文土器の文様は自由奔放に描かれていると思ったのに意外だった」などの感想が聞かれ、当初の目標はほぼ達成したものと考えられる。

なお、焼成時には事前に焼いた土器を用い煮炊きの使用実験も合わせて行う予定であったが、こちらは悪天候のため実行できなかった。

## ⑤ 民俗芸能講座

当館所蔵の民俗芸能に関する映像資料を紹介しながら、東北地方の田植踊について解説するものとして、全3回連続講義として実施した。

回	テーマ	開催日	講師	参加人数（人）
1	秋保の田植踊	1月20日	小谷竜介	59
2	山谷の田植踊	2月17日	小谷竜介	56
3	石井の田植踊	3月10日	小谷竜介	54

## (3) 体験教室

昔の技術やくらしの技などの体験を通して歴史や文化に触れ、歴史と伝統文化に興味や関心をもたせることを目的としている。夏期の土曜日と祝日に4教室、冬期の土曜日に2教室、のべ6回の体験教室を実施した。参加者は合計121人で前年比61人減であるが実施回数が4回減ったことに起因するもので、平均の参加数は前年比105%であり、全体的に盛会だったことが伺われる。

今年度は特別展示やメンテナンス期間などにより実施回数が減少したが、30年度はこれまで通り夏5回、冬2回の計8回に戻していきたい。

回	教室名	開催日	講師	参加人数（人）
1	ハンコを作ろう	7月22日	相澤秀太郎	27
2	クジラのヒゲでペンダントをつくらう	7月29日	菊地逸夫	16
3	拓本をとろう	8月5日	佐藤憲幸	24
4	石器で描こう	8月12日	千葉直樹	24
5	宮城の凧（するめてんばた）をつくらう	1月6日	今井雅之	15
6	トンボ玉をつくらう	1月13日	牧富美子（外部）・菊地逸夫	15

## (4) 多賀城跡めぐり

特別史跡多賀城跡附寺跡を考古学の専門性を生かし、発掘調査成果とともにわかりやすく案内するものである。5月から10月に月2回交互に行った。また、「番外編 花と歴史のハイキング」を4月16日（日）、7月2日（日）の2回実施した。「番外編 花と歴史のハイキング」は、通常が多賀城跡めぐりと異なり、四季を楽しみながら歴史に触れることを目的とし、好天にも恵まれ、好評であった。総参加者数は185人、うち通常が多賀城跡めぐり137人、番外編48人であった。

### Ⅲ 教育普及

	サクラ	1回	2回	3回	4回	アヤマ	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	計
開催日	4/16	5/14	5/28	6/11	6/25	7/2	7/9	7/23	8/13	8/27	9/10	9/24	10/8	10/22	
コース	廃寺	廃寺	政庁	廃寺	政庁	政庁	廃寺	政庁	廃寺	政庁	廃寺	政庁	廃寺	政庁	
参加人数	32	12	17	9	18	16	14	6	20	14	11	9	6	1	185

参加人数合計 185人

#### (5) 民話を聞く会

5月、7月、9月の3日間の日曜日に午前と午後に分かれて、利府民話の会と多賀城民話の会が各3回ずつ計6回民話を披露した。開催場所は古民家（今野家住宅）において、一般の観覧者に対して無料で実施した。

東北地方に伝わる民話を地元の言葉で語るものであり、民話に関心の高い方々が県内外より訪れ、幅広い世代に親しまれている催事である。また、民話を披露する語り手どうしが互いに刺激しあい、研鑽を積む機会にもなっている。

回	開催団体	開催日	参加人数(人)
1	利府民話の会	5月21日(午前)	32
2	多賀城民話の会	5月21日(午後)	50
3	利府民話の会	7月16日(午前)	18
4	多賀城民話の会	7月16日(午後)	38
5	利府民話の会	9月17日(午前)	32
6	多賀城民話の会	9月17日(午後)	30

合計 200人

#### (6) 体験イベント

年間を通して取り組んだのは、イベントにおける館内掲示物の検討・改善である。「わかりやすい掲示物」を目標に、従来の設置数や掲載情報を精査して制作した。参加者にとってわかりやすいものになったと考えるが、掲示物全体のデザインを統一することはできなかった。イベントとして一体感を出すためにも、来年度はこの点について取り組んでいきたい。

##### ① 春の体験イベント

例年「国際博物館の日」の記念イベントとして5月の連休明けに実施しているが、5月中に大型の巡回展が開催されていたことから、今年度は6月10日(土)に「わくわく体験見本市 2017」と題して実施した。事前の広報については、従来通りに多賀城市・塩竈市・利府町・松島町・七ヶ浜町および仙台市宮城野区・泉区(一部)の小学校4・5年生や、図書館にチラシを配布した。

当日は仙台市内で大規模なイベントが開催されていたこと、また普段とは異なる時期の開催ということもあり、参加者が少

##### 「わくわく体験見本市 2017」体験プログラム参加者

春の体験プログラム名		参加人数(人)
1	勾玉作り! (60分×3回/60人)	185
2	砂金採り! (30分×6回/40人)	196
3	博物館のウラ側たんけん! (60分×4回/15人)	62
4	弓矢でビュン! (定員なし)	572
5	拓本をとってみよう! (定員なし)	269
6	石うすできな粉・抹茶作り! (定員なし)	332
7	今野家住宅で昔あそび! (定員なし)	351
8	THM マスターをめざせ 展示室たんけんクイズ (定員なし)	415
総参加人数		2,382
※ 定員のある体験プログラムにおいて、可能な限り参加者の希望に対応し、定員を超過して実施したものがある。		

なくなることを危惧していたが、登録者数は 665 人を記録し、当初の想定人数を上回る来館があった。

当日は昼過ぎに雨が降り始め、一部中断したプログラムもあったが、定員のあるプログラムの受付方法を改善することで、大きな混乱なく運営することができた。

体験プログラム以外にも、むすび丸が登場して会場を盛り上げるなど、参加者にとって満足度の高いイベントになったと思われる。

### ② 秋の体験イベント

秋の体験イベントは、「秋の見覚まるかじり博物館 2017」と題し、10月1日(日)に実施した。広報については従来の方法と規模を踏襲した。

昨年度は、当館を会場として開催される「史都多賀城万葉まつり」の翌週にイベントを開催したところ、登録者は 400 人台と低調であった。それを踏まえ、今年度は「万葉まつり」開催前に実施し、登録者は 596 人と想定 600 人とほぼ同じくらいにまで回復した。

当日は天候がよく、開館前の行列も 200 人を超えるほどであったが、10 時以降は客足が伸びず、昼過ぎには館内の来館者が少なくなった。天候がよかったため、午前中に博物館で遊び、昼前から別のところへ出かける方が多かったためであろう。今後は午後からの来館を増やすための仕掛けを検討していきたい。

運営は春と同様の方法をとったところ、問題なく終えることができた。特に今野家住宅では、昔遊びを運営するボランティアの工夫により、子ども達の滞在時間が伸びている印象があった。

#### 「秋の見覚 まるかじり博物館 2017」体験プログラム参加者

秋の体験プログラム名		参加人数 (人)
1	勾玉作り！ (60分×3回/60人)	176
2	砂金採り！ (30分×6回/40人)	170
3	博物館のウラ側たんけん！ (60分×4回/15人)	63
4	弓矢でビュン！ (定員なし)	692
5	拓本をとってみよう！ (定員なし)	201
6	石うすできな粉・抹茶作り！ (定員なし)	270
7	今野家住宅で昔あそび！ (定員なし)	386
8	THM マスターをめざせ 展示室たんけんクイズ (定員なし)	300
総参加人数		2,258
※ 定員のある体験プログラムにおいて、可能な限り参加者の希望に対応し、定員を超過して実施したものがある。		

### ③ 冬の体験イベント

冬の体験イベントは、冬期間における博物館の賑わい(来館者増)を創出する教育普及事業として、平成 22 年度から実施している。また、この事業は今後の教育普及事業の進展につながるような実験的、試行的な体験プログラムを可能な範囲で取り入れていくという性格も持たせている。

今年度は、「冬も元気にはくぶつかん! 2018」と題し、2月13日(日)に実施した。新プログラムとして「組紐で腕輪を作ろう!」を追加し、ここ数年実施していなかった「昔の衣裳で変身!」も復活させて、従来よりも定員のあるプログラムを増やした形で実施した。広報については従来の方法と規模を踏襲した。

運営に関しては、定員のあるプログラムが多かったものの、大きなクレームなく終えることができた。これは、常設展示室や今野家住宅、3階のこども歴史館へ参加者が分散していたためと考えられる。なお、定員のあるプログラムの午後の受付にて行列が発生したが、この問題への対応方法について担当者間で共有できていなかったため、プログラムごとに異なる対応をとってしまい、参加者の混乱を招いてしまった。今後は、イベント全体としてどのような対応をとるのかを決定しておき、当日の混乱がないようにしたい。

新プログラムの「組紐」は、小学校低学年以下は保護者との参加を義務づけたものの、体験時間

#### 「冬も元気に はくぶつかん! 2018」体験プログラム参加者

冬の体験プログラム名		参加人数 (人)
1	土笛を作ろう！ (50分×3回/20人)	62
2	チャレンジ! 博物館のお仕事 (60分×3回/15人)	50
3	ふたりでさがそう! 発掘体験 (30分×6回/8組16人)	96
4	漢字のハンコを作ろう！ (60分×4回/20人)	80
5	昔の衣裳で変身! (午前2回/30人, 午後12組)	58
6	組紐で腕輪を作ろう！ (60分×4回/15人)	64
7	わりばし鉄砲で的当て！ (定員なし)	481
8	昔あそびにチャレンジ！ (定員なし)	171
9	めざせ! こども歴史館マスター! (定員なし)	391
10	THM マスターをめざせ 展示室たんけんクイズ (定員なし)	137
総参加人数		1,590
※ 定員のある体験プログラムにおいて、可能な限り参加者の希望に対応し、定員を超過して実施したものがある。		

### Ⅲ 教育普及

内に完成しないことがあった。しかし、人気の高いプログラムだったことは事実であり、今後は運営方法を改善して、より良いプログラムにしていきたい。

#### (7) 博物館における民話事業

##### 民話研修会

東北歴史博物館と連携して実施している民話を聞く会及び小学生に対する民話学習会等をより効果的な会とするため、地元民話団体に対して民話への理解を深める機会を提供する目的で実施した。

日 時 平成 29 年 5 月 24 日(水) 13 時～15 時

場 所 東北歴史博物館, 大会議室

講 師 小野和子(みやぎ民話の会顧問) 加藤恵子(みやぎ民話の会会員)

対 象 利府民話の会会員, 多賀城民話の会会員

内 容 民話映像「成田キヌヨの語りによる砂子瀬の民話」上映および内容の解説

##### 小学生の民話語り手体験事業「民話を語ろう」

民話を文字で読むのではなく、耳で聞きながら風景を想像し、民話に込められた思いを感じ、それを覚えて人に語る。こうした体験をとおして、口承文芸としての民話の意義を子どもたちが学ぶ機会を提供した。

場 所 東北歴史博物館 古民家(今野家住宅), 研修室, 大会議室

参 加 公募による地元小学校 1～6 年生 11 人

講 師 利府民話の会 6 人

##### i) 民話にふれよう

10 月 8 日(日) 13:30～15:00 当館今野家住宅

小学生や保護者が民話に親しむために、多賀城民話の会・利府民話の会の会員が民話を披露した。

##### ii) 民話を感じよう(第 1 回練習会)

10 月 22 日(日) 13:30～16:00 当館今野家住宅

##### iii) 民話をおぼえよう①(第 2 回練習会)

10 月 29 日(日) 13:30～15:30 当館研修室ほか

##### iv) 民話をおぼえよう②・だんごをつくろう(第 3 回練習会)

11 月 12 日(日) 13:30～15:30 当館研修室ほか

##### v) みんなの前で語ろう(発表会)(第 4 回練習会)

11 月 19 日(日) 10:00～16:00 当館研修室, 古民家(今野家住宅)

参加者: のべ 200 人(観覧者含む)

##### 博物館での民話授業

多賀城民話の会の協力を得て、今野家住宅を会場に下記 3 校を対象に民話授業を行った。

No.	学校名	実施日	学年	人数
1	七ヶ浜町立松ヶ浜小学校	9 月 14 日(木)	2 学年	51
2	石巻市立大谷地小学校	9 月 15 日(金)	3・4 学年	41
3	多賀城市立城南小学校	1 月 16 日(火)・17 日(水)	1 学年	126
合計				218

## 3 その他の教育普及活動

### (1) 学校教育との連携, 教科及び総合的な学習の時間などへの対応

#### ① 教科及び総合的な学習の時間などへの対応

当館は、児童・生徒の学習活動の場として、社会科などの教科学習だけでなく、総合的な学習の時間での利用も定着している。

学習活動の一環として当館を利用する小学校団体のうち、半数以上が県外からの修学旅行団体である。毎年当館を利用している小学校の中には、独自のワークシートを作成するなど、児童・生徒

の主体的な学びを引き出そうとしている事例も見受けられるが、ほとんどの学校は「連れてきて、見学させて、体験させて終わり」というのが実情である。（ホームページで公開しているワークシートのうち、調べ学習に活用できる「時代別ワークシート」よりも、ゲーム的・宝探的な「たんけんカード」の利用率の方が圧倒的に高いことにも、この傾向が如実に現れている。）

例えば教室で行う授業において、「今日は〇〇ページを学習してください。」とだけ指示して児童生徒に自由に学習させるようなことは有り得ない。授業にはねらいがあり、それを達成するための手立てが必要であり、教科書や教材教具はその一助に過ぎず、十分な教材研究や教師の働きかけが不可欠だからである。

ところが、博物館で行う授業になると、このような「放置授業」が大半になってしまう。主体的に学習に取り組める児童生徒とそうでない児童生徒とでは、学びの質や深さに深刻な「差」が生じるのは言うまでもない。

博物館の展示資料は、どれか1つを取り上げただけで授業が成立するほどの意味や価値がある。専門の学芸員の解説を聞くと、単なる石ころや布切れにしか見えなかったものが、急に価値あるものに思えてくる。ぼんやり見ていたものを細部までじっくり見る姿勢(=学び方)が身に付く。他の資料への興味(=学習意欲)も湧いてくる。「確かな学び」、流行の用語で言えば「アクティブラーニング」を成立させるには、入念な下見、打合せ、教材研究、事前準備、事前学習等々が欠かせない。

このような問題意識を持ち、博物館利用説明会や各種の研修会、下見対応などで繰り返し学校の先生方に投げ掛けを行い、県内の小中学校に関しては変化の兆しが見え始めているが、県外の学校については十分なアプローチができていないとは言えず、まだまだ道半ばである。

## ② 出張授業

小中学校や高等学校、公民館などからの求めに応じ、学芸職員が出向いて授業や体験活動などの講師を務めた。今年度は下記9件を引き受けた。

No.	学校・団体名	対象	教科等	内容	人数	実施日
1	仙台第一高等学校	1 学年	社会科	SSH 合同巡検ガイダンス「東北の縄文時代—そこに科学はあるのかい—」	320	6月 8日(木)
2	宮城県古川黎明中学校	全学年	(課外)	「土曜塾」	120	8月 26日(土)
3	名取市館腰公民館	小学生		「洞窟壁画体験」	8	8月 23日(水)
4	名取市増田西公民館	小学生		「おせでけさいん！おんちゃんおばちゃんわくわく子供体験」	11	12月 25日(月)
5	名取市館腰公民館	小学生		「おせでけさいん！おんちゃんおばちゃんわくわく子供体験」	15	12月 26日(火)
6	仙台白百合学園小学校	2 学年	生活科	「むかしのあそび」	45	11月 21日(火)
7	石巻市立稲井小学校	3 学年	社会科	「むかしの暮らし」	66	2月 5日(月)
8	仙台白百合学園小学校	4 学年	社会科	「宮城の伝統工芸(仙台箆笥)」	39	2月 21日(水)
9	仙台白百合学園小学校	3 学年	社会科	「むかしの暮らし」	44	2月 23日(金)

## ③ 講義

校外学習で来館した学校団体からの要望に応じ、学芸職員が講師を務めて博物館内で講義を行った。今年度は下記5件を実施した。(民話授業については別項)

No.	学校・団体名	対象	教科等	内容	人数	実施日
1	加美町立加美石小学校	6 学年	社会科	「東山官衙遺跡について」	17	7月 7日(金)

### Ⅲ 教育普及

2	石巻市立須江小学校	4 学年	総 合	「須江と縄文時代」	46	9 月 22 日(金)
3	多賀城市立高崎中学校	1 学年	総 合 (社会科)	「多賀城について」	188	10 月 27 日(金)
4	宮城県古川工業高等学校	建築科	総 合	「カマ神について」	15	11 月 16 日(木)
5	多賀城市立城南小学校	3 学年	総 合	「多賀城のみりよくをしらべよう」	130	1 月 23 日(月) 1 月 24 日(火)

#### ④ 職場体験・インターンシップ

職場体験の受け入れは、学校や地域との連携を深め、生徒たちに博物館の役割やその仕事の内容を理解してもらう意味でも大切な活動であり、それぞれの学校のニーズに合った日程・内容となるよう情報サービス班が中心となって計画を作成した。展示とバックヤードの見学だけに終わることのないように、学芸員や解説員に協力を仰ぎ、実際の業務に即したメニューを取り入れ、学習の深化が図れるように努めた。今年度は下記の 6 校を受け入れた。

No.	学校名	学年	人数	日程
1	東北学院中学校	2	4	10 月 18 日(水)～20 日(金)
2	多賀城市立多賀城中学校	2	2	10 月 24 日(火)・25 日(水)
3	多賀城市立高崎中学校	2	2	10 月 26 日(木)・27 日(金)
4	塩竈市立玉川中学校	2	3	11 月 8 日(水)
5	宮城県松島高等学校	2	6	11 月 8 日(水)・9 日(木)
6	宮城県仙台二華中学校	2	4	11 月 9 日(木)・10 日(金)

#### (2) 博物館利用説明会

11 月 17 日に、3 校 4 名(いずれも小学校)の参加で利用説明会を実施した。職員と参加者が気軽に会話を交わしながら和やかな雰囲気を実施できたものの、参加者の少なさは否めなかった。

個別の下見対応は 102 件と昨年度並みであった。博物館としては、可能な限り利用説明会に参加してもらい、個別対応の負担を減らしたいと考え、バックヤード見学や特別展展示解説の実施などの施策を講じてきたが、利用説明会への参加者は増えていない。多忙化に拍車がかかる学校現場が抱く「学校側の都合のよい日時に個別対応してほしい」というニーズをふまえれば、仕方のないことかもしれない。

なお、他機関からの要請に応じた博物館の施設案内については、8 月 4 日(金)宮城県中学校社会科研修会(参加者 10 人)、10 月 25 日(水)小・中学校・特別支援学校生涯学習・ふるさと教育体験研修(参加者 250 人)の 2 回行った。

#### (3) 博物館実習

平成 28 年度の博物館実習は 9 大学 16 人を受け入れた。各大学の人数は以下のとおりである。

大学名	学部(学科)名	受講人数(人)
宮城学院女子大学	学芸学部	1
東北学院大学	文学部	2
尚綱学院大学	総合人間科学部	2
東北生活文化大学	家政学部	3
石巻専修大学	人間学部	2
東北芸術工科大学	芸術学部	2
秋田公立美術大学	美術学部	1
京都造形芸術大学	芸術学部・通信教育部	2
京都美術工芸大学	工芸学部	1
合計		16

実習期間は8月17日（木）から8月23日（水）までの6日間（8月21日を除く）、スケジュールは以下のとおりであった。

実施日	時間帯	実習内容
8月17日	午前	東北歴史博物館について 博物館の業務と運営について 展示業務について
	午後	ボランティア業務について 館内施設及び常設展示見学
8月18日	午前	資料の管理と取り扱いについて 実物資料の管理について 保存環境調査と環境構築について
	午後	教育普及業務について、体験教室実習
8月19日	午前	保存科学実習
	午後	今野家住宅ボランティア体験
8月20日	終日	分野別実習
8月22日	終日	分野別実習
8月23日	午前	教育普及業務について附体験教室実習
	午後	まとめ

分野別実習は、実習生の希望に基づいて考古・民俗・歴史、美術工芸の4分野に分かれて行った。それぞれの人数は、3人・5人・4人・4人であった。各分野での実習内容は以下のとおりである。

考	古：館蔵考古資料の整理・写真撮影・調査・登録実習
民	俗：民具資料の整理実習
歴	史：古文書や甲冑・刀剣など歴史分野資料の取扱い実習
美術工芸	：掛け軸など美術工芸資料の取扱い実習

当館の実習内容は、前半2日間の講義・見学によって博物館とその業務全体に理解を深めた後、分野ごとに専門性の高い実習を行うものであり、日程上でも分野別実習に重点を置いた構成をとっている。そのため実習生からは、「今野家ボランティア体験で、人によって接し方が異なることから、どのように話を引き出すのか難しかった」、「文化財害虫の同定作業など知らなかった裏側の活動を知ることができた」などの感想を得た。平成28年度より今野家ボランティア活動の体験をとおして来館者への説明の実習を行っているが、実習生には新鮮な体験になっているようである。これに限らず、実務を通じた感想が引き続き出るような方針で次年度以降も博物館実習を継続していく予定である。

#### (4) ボランティア

今年度は4月から62人の体制でスタートした。

主な活動となる当館の屋外展示「宮城県指定有形文化財 今野家住宅」での解説対応とイロリの管理については、一人当たり月2回の活動を基本として毎日3～5人の当番制で行った。

当館の教育普及事業として年3回開催している体験イベントでは、今野家住宅における「昔あそび」のプログラムをボランティアが企画・運営し、竹けんだまやガリガリとんぼ、凧などの手づくり玩具などを多くの家族づれに体験してもらった。そのほか今野家住宅の管理および展示については、母屋の煤払い（10月）と障子貼り（11月）を行ったほか、年中行事である正月飾りの製作（12月）と飾り付け（1月）を職員、今野家の当主夫妻と共に実施した。

ボランティアの会の研修としては、①「宮城県の鍬について」（講師：当館企画部技師・今井雅之）②「今野家住宅の建築について」（講師：当館企画部技師・西松秀記）と2回の館内研修を行った。館外研修としては、10月に石巻・登米方面へ出かけ、今野家住宅の旧所在地を見学したほか、旧登米高等尋常小学校でボランティアガイドの案内・解説にふれ、同じボランティア活動に携わる者同士大いに刺激を受けることができた。

6月24日には、博物館ボランティア表彰規定に基づき、10年以上活動を継続した4名に、鷹野館長より表彰状と記念品が贈呈された。



(5) 連携大学院「文化財科学」事業

当館は多賀城跡調査研究所とともに、宮城県教育委員会教育長と東北大学文学研究科長が締結した「東北大学大学院博士課程の教育研究への協力に関する協定書」に基づき、「連携大学院」方式で東北大学文学研究科の文化財科学専攻分野を担当し、学生の教育および研究の指導にあたっている。

この事業は、東北大学大学院文学研究科における教育および研究の充実ならびに文学研究科の学生の資質向上を図るとともに、相互の研究交流を促進し、学術、教育および研究の発展に寄与することを目的として平成 8 年度から行っているもので、東北大学が当館および多賀城跡調査研究所の職員を客員教授または客員准教授に採用し、それらの客員教員が博物館もしくは研究所などにおいて授業や学生の修学指導にあたっている。

今年度は当館の古川一明学芸部長と多賀城跡調査研究所の須田良平所長が客員教授、多賀城跡調査研究所の吉野武主任研究員が客員准教授となり、学生 1 人を受け入れ次の内容で事業を行った。

担当者	担当科目	内容	時間数
古川 一明 客員教授	文化財科学研究演習 I	11～12 世紀の遺跡研究方法	12
須田 良平 客員教授	文化財科学研究実習 II	多賀城跡の発掘	30
吉野 武 客員准教授	文化財科学研究実習 II	多賀城跡の発掘	30

## 4 広報と刊行物

### (1) 情報発信

今年度も、中長期目標に示された「各展示や催事の対象となる世代・地域・団体に留意した広報活動の推進」、「アンケート結果等の効果検証」を具現化すべく、学芸・企画部と情報サービス班が連携して広報活動を行った。

広報手段については今までと大きく変わる点はないが、各展示の内容やターゲット層に応じて広報先や発信内容の調整を行った。主な取り組みは下記のとおりである。

- ① 催事広報物（ポスター・チラシ・招待券・催事カレンダー等）の発送
  - ・通常発送先は官公庁、学校、博物館、図書館、公民館、駅、旅行者など約 1,750 カ所
  - ・催事の内容に合わせて、送付先の新規開拓、発送数の調整
- ② FAX一斉送信などによる催事情報の発信
  - ・新聞社・放送局・雑誌社などへ、定期的な情報発信
  - ・近隣二市三町広報誌への情報提供
- ③ 宮城県広報課が運営する各種媒体の利用
  - ・『県政だより』、メルマガなど
  - ・看板設置（館内外、多賀城市内 11 カ所、国府多賀城駅、東北学院大学工学部）
  - ・のぼり旗設置（館敷地・駐車場、国府多賀城駅、多賀城駅）
  - ・懸垂幕設置（国府多賀城駅側壁面）
  - ・ホームページ等への情報掲載、各種情報サイトへの催事情報掲載
  - ・マスコミへの個別取材協力依頼
  - ・館内設置ポスター、県庁ロビー設置ポスター（いずれも館内作成）の充実  
など、また、特別展では宮城県美術館と広報に関する情報交換・相互協力を行った。

### (2) 課題

当館の広報に関して、特別展の来場者アンケートを見ると、「テレビなどで広報をして欲しい」、「展示内容が素晴らしいのにPR不足である」などの指摘をいただくことが多い。今年度の特別展「世界遺産ラスコー展」・「漢字三千年展」はともに放送局等のマスコミと共催で開催され、テレビ・新聞等の媒体で紹介されたこともあり、PR不足の指摘は減少した。しかし、自主企画である「熊と狼」展においては、「内容が素晴らしいので、もっと広報すべし」などの指摘を受けたが、当方の広報力不足のため、大きく効果的な広報を行うことは叶わなかった。

新しい試みとしては、「漢字三千年展」での、書道関係者への重点的広報、「熊と狼」展での、アウトドアショップへの広報など、展示の内容を考慮して行った。今まで博物館に足を運ばなかった層が来館した実績が作られたことから、従来どおりの広報を繰り返すだけではなく、企画内容に対応した広報を行っていくことが必要であると考えられる。

限られた人員、予算等の中で、効率的な広報戦略の必要性、また、インターネットやSNSなどの新しいコンテンツを、当館の広報にどのように生かしていくのかなど課題は山積である。他館の先行事例などの情報収集に心がけ、当館の情報をより多くの人々に届けられるよう努力していきたい。

刊行物名称	大きさ	ページ（体裁）	発行部数
東北歴史博物館 平成 28 年度年報	A4	86 頁	750 部
特別展図録「漢字三千年展」	A4	166 頁	200 部
特別展図録「熊と狼」	A4	64 頁	500 部
東北歴史博物館 研究紀要 19	A4	94 頁	750 部
東北歴史博物館 催事カレンダー（年 3 回）	A4	巻き三つ折	33,000 部（総数）

## IV 調査研究

### 1 考古研究部門

#### (1) 館蔵資料の整理と研究

今年度は、楠本政助コレクションの南境貝塚以外の残余の骨角器を中心に整理作業を進め、当館研究紀要にまとめた（柳澤・相原）。報告したのは、宮城県石巻市沼津貝塚・仁斗田貝塚・屋敷浜貝塚・泉沢貝塚、女川町尾田峯貝塚、東松島市里浜貝塚・平田原貝塚、西の浜貝塚、岩手県陸前高田市瀬沢貝塚、北海道礼文島収集の骨角器である。今年度で楠本コレクションの整理を完了した。

このほか、当館研究紀要に、相原「縄文時代前期末葉から中期初頭の土器編年」、古川「東北・関東地方の古代の大型土坑について」、柳澤・渡辺剛氏（東北水産区研究所）「砂押川における現生海水生種・汽水生種珪藻の輸送限界」についての研究をとりまとめた。

#### (2) 館蔵資料のホームページ公開

『研究紀要』19に掲載した報告に関わる論文は、当館Webの「刊行物」でPDFを公開した。また、楠本コレクションを当館の情報管理システムIB—MUSEUMに登録した。

#### (3) 館蔵資料の館内利用

館蔵資料の調査研究や展示に先立つ調査・閲覧・写真撮影等の館内利用が26件あった。

### 2 民俗研究部門

今年度は館蔵資料の整理研究、および東日本大震災後の民俗調査事業を行った。それぞれの概要は次のとおりである。

#### (1) 館蔵資料の整理研究

宮城県及び東北地方の民俗資料を調査し、展示に活用できるようにするとともに、新収蔵資料の整理研究を行い、公開することを目的としている。今年度は、平成28年度に行った「工芸継承」展を契機に、工芸指導所関連の資料の寄贈依頼が数件あり、それらの資料調査を行った。また、宮城県内の鍬に関する資料調査を行い、館蔵資料と併せ、5市町の収蔵資料の調査を実施した。

#### (2) 東日本大震災後の民俗調査事業

東日本大震災は沿岸地域を中心に日常生活に大きな影響を与えた。日常生活と密接に関わる民俗も大きな影響を受けていることが想定され、その行く末は、今後の調査研究活動にも大きな影響を与える。そのため、これまでの当館の調査事業の蓄積も含め、震災後の民俗の変化、そして震災前からのつながりという点から、「三陸沿岸の漁村と漁業習俗」調査の調査地を中心に、これまで本館民俗分野が関わってきた調査地の震災後の状況把握を目標に、本調査研究事業を実施している。

5年目となる平成29年度については、石巻市雄勝町、女川町竹浦、南三陸町戸倉波伝谷、大船渡市綾里を対象に調査を実施した。今後も、前記調査事業のほか、信仰伝承調査事業、民俗誌作成事業等で震災前の民俗についてある程度把握しているフィールドを主たる対象に、関連地も含めた調査を実施していく予定である。

なお調査に当たっては、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所等、外部研究機関との連携をはかり随時共同調査を実施した。

#### (3) 民俗誌作成事業（東北学院大学との連携事業）

平成20年度より実施している、東北学院大学民俗学研究室との連携調査事業として、引き続き大崎市三本木新沼の調査を実施した。今年度はこれまでの調査を総括する「新沼の民俗-宮城県大崎耕土における暮らしの諸相」を刊行し、平成30年3月24日に地元大崎市三本木新沼において現地報告会を開催した。以上の活動をとおして、本調査事業は終了となった。

なお、報告書の刊行については、宮城県地域文化遺産復興プロジェクト「ミクロな地域文化遺産再発見事業」として実施した。

### 3 歴史研究部門

#### (1) 館蔵資料の整理

今年度は、昨年度以前および今年度中に収集したもののうち、新規収集文書、宮城県図書館移管文書の整理を行った。

#### (2) 仙台藩大肝煎吉田家文書の整理

平成26年度から開始したもので、学識経験者の指導を仰ぎつつ、近世・近代の整理状況に関する情報を慎重に記録しながら、整理・調査作業を行い、仙台藩研究や地域研究に資することを目的としている。整理作業が終了するまで7年以上を要するものと思われる、今後も継続的に作業を行っていく予定である。

#### (3) 館蔵資料の保存および公開手段の整備

館蔵資料の資料保存と公開促進の目的で、「遊郭文書（若柳・阿部楼）」のマイクロフィルム化を行った。

また、マイクロフィルム資料の一部をデータベース化し、ホームページ上で公開した。

この他、石母田家文書の全文データベース化を行っている。

#### (4) 平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

ー寺社と共働した「地域のタカラ」活用事業

当館と鹽竈神社博物館や東園寺など、地域の寺社と実行委員会を組織して実施。旧宮城郡地域に存在する貴重な文化財が、地域の人々に「地域のタカラ」として認識され、地域ぐるみで活用・保存していこうという気運を高めていくことを目的とする。そして将来的に地域の文化財は地域の人々が「地域のタカラ」として自ら活用・保存していけるよう、その環境整備や体制づくりを目指すものである。

本年度は、地域文化財の総合把握のための調査として、旧宮城郡地域に存在する文化財の総合把握には多数の古文書等を含んだ書跡・絵画・刀剣など約500点の文化財の詳細調査を行い、約140点の写真撮影を実施した。それにより当該年度の普及活動に資することができたと同時に、30年度以降の活用事業にも資することが可能となった。また、地域の文化財に関わる教育普及活動として、「地域のタカラ」を知る・守る講座を3月31日に調査の拠点の一つであった塩竈・東園寺で実施した。目標を上回る110名以上の参加者があり、地域の人々の地域の文化財に対する興味関心の広がり、意識の高さが感じられた。文化財を知る講座・守る講座を一連で実施したことによって地域の文化財の価値と、それを活用・保存していこうという方向性を容易に理解していただいた。また、寺社と共働したことについては、予想以上の参加者の多さと、熱心に耳を傾ける姿があったことを考えると、寺社の持つ地域の人々への訴求力は予想以上であり、非常に効果的であったと言える。

### 4 美術工芸研究部門

本部門では(1)館蔵資料の調査研究、(2)仏教文化及び美術に関する調査研究、(3)東北の近世絵画に関する調査研究を行った。概要は以下のとおりである。

#### (1) 館蔵資料の調査研究

目的：館蔵資料を計画的に調査研究し、その美術史的価値を明らかにすることにより、郷土文化の理解に供する。

内容：事業では、館蔵の近世藩御用絵師及び工芸資料のうち杉山コレクション刀装具について文献を中心とした調査研究を進め、その成果の一部を本年度のテーマ展示等で公開した。

#### (2) 仏教文化及び美術に関する調査研究

目的：宮城・東北の仏教文化及び美術を広域的な視野から考察し、郷土文化の理解に供する。

内容：事業では、宮城県内、秋田県及び岩手県の信仰拠点に伝わる資料調査及びデータ整備を進めた。その成果の一部について、次年度以降の特別展を始めとする博物館活動に活用するよう準備を進めている。なお、秋田県及び岩手県の調査は、両県教育委員会との連

携のもと施行した。

### (3) 東北の近世絵画に関する調査研究

目的：宮城・東北の近世絵画を中央との関係に注目しつつ考察し、その特色を明らかにする。

内容：事業では、東北地方の名所絵及び景観図等について、東北地方に伝わる資料の調査を実施するなど、情報の収集及び整理を進めた。その成果の一部を本年度のテーマ展示等で公開するとともに、次年度以降の特別展を始めとする博物館活動に活用するよう準備を進めている。

## 5 建造物研究部門

### (1) 古建築に関する調査研究及び管理運営調査

今野家住宅の屋根葺替え工事を予定していることから、6月に岩手県北上市で開催された「第8回茅葺きフォーラム」に参加したほか、3月に神奈川県川崎市立民家園にて聞き取り調査を行った。

このほか、東北大学大学院工学研究科が所蔵する近代建築教育資料の調査を行った。

### (2) 宮城県近代和風建築総合調査補遺調査

平成28年に報告書が刊行された標記調査について、特に沿岸部地域の調査が不足しているため、その補遺調査として取り組むものである。今年度は南三陸町を調査地域に設定したが、遺構の確認に留まり、重要遺構の実測等はできなかった。この点については次年度以降取り組みたい。

### (3) 歴史災害展示研究に関する調査

災害を契機として建てられた施設である、旧宿震嘯記念館（現・宿集会所、気仙沼市唐桑町）の調査を行った。文献による調査のほか、気仙沼市役所唐桑支所の協力により、写真撮影ならびにレーザー距離計等を用いた実測調査を行い、建物の情報を記録した。

### (4) 絵画史料を用いた中近世における窓・建具の流通に関する研究

公益財団法人LIXIL住生活財団の若手研究助成（助成番号17-83）を受けて、平成29年12月1日から平成30年12月31日を研究期間として実施するものである。今年度は、研究対象とする書籍を入手してリストを作成したほか、2月に東京国立博物館資料館にて絵画史料の調査を行った。

## 6 保存科学研究部門

### (1) 環境調和型の保存環境管理法検討

昨年度から継続して、科学研究費助成事業基盤研究C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用と低コスト運営法の開発」として一時保管施設等の非文化財収蔵施設の環境調査および、より低コストで環境負荷が少ない施設運営のための手段、内装仕様等の開発を試みている。今年度は特に保管施設内温湿度安定化を図るために設置する予定の木材の調湿性についての調査や、実際に一時保管施設を想定した施設室内の気密性向上の検討、木材の設置による効果の評価を行っている。

### (2) 各種災害により被災した資料からの揮発物質に関する調査

昨年度から継続して、津波や水害により被災した紙資料からの揮発物質や異臭について調査を行っている。水損紙資料は被災の種類やその後の乾燥法により揮発物質が異なることが予想されており、今年度は資料からの揮発物質の調査と成分比較を行った。その結果、水損紙資料の乾燥手段としてよく実施される真空凍結乾燥と風乾では異なる成分が資料に残存していることがわかり、今後資料の処置方法を選択するための一助となった。一方被災の種類による資料揮発物質の違いも認められたが、調査対象資料の数が限られていたため、今後はより多数の資料を調査し、その傾向を検討していく予定である。これらの研究は筑波大学、東北大学、神戸資料ネット、日本無機株式会社との共同研究となる。

### (3) 線刻壁画等出土製品の保存処理法調査

宮城県山元町合戦原遺跡出土線刻壁画保存処理法の調査研究、および出土金属製品の保存処理協力を継続して実施している。前者については、昨年度現地より取り出しが終わった線刻壁画の表面処理状態を確認し、その展示手法を奈良文化財研究所等の研究機関と協力し検討を行っている。後者については、金属製品の安定化処置と並行して、資料の材質や付着物の分析調査を行い、資料の詳細な情報の収集し、資料保存のための見識を深めている。

#### (4) 被災資料の保存展示手法に関する調査

災害にまつわる情報や知見の伝承、防災意識の向上に寄与するものとして、災害で被災した文化財や資料を被災したままの状態で開催するための手法や展示環境の管理調査を実施している。今年度はそれら被災資料が各地でどのように展示されているか、その手法の調査を行うほか、実際に展示を行っている資料ケースの温湿度環境調査などを実施している。今後はそれら被災資料がより長期に安全に展示ができるよう、付着物や資料自体の安定化方法について検討していく予定である。

## 7 歴史災害展示研究

東日本大震災を経験した宮城県立の博物館として、災害の展示について来館者からのニーズが高まることが予想される。また、本館中長期目標（1）において長期的施策として防災教育拠点としての役割を担う常設展示の検討がうたわれていること、達成目標 35 において東日本大震災の対応として、調査研究を行い、展示や映像としての公開の取り組みがうたわれていることから、達成目標 8 博物館学的な研究として、分野横断による歴史災害展示研究を3カ年計画で実施している。

第2期研究計画1年目である平成29年度は、今後の研究会の方向性を定めるための全体研究会を1回開催した。なお、本研究会と平行し、科学研究費補助金基盤研究C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に関する研究」（研究代表 学芸部小谷竜介）が採択されたことから、本研究費を元に、各研究分野において調査等を進めることになっており、その成果を本研究会に反映することになっている。

第13回研究会「平成29年度の活動について」

平成29年5月17日

各研究分野の研究計画について報告し、全体の活動の方向性を定めた。

## 8 職員の調査研究活動

### 鷹野 光行（館長）

#### 【執筆活動】

- ① 「全博協の役割考—大会テーマと紀要から見た全国大学博物館学講座協議会の活動—」  
『國學院雑誌』第118巻11号、1～10頁（平成29年11月15日、國學院大學、東京都渋谷区）
- ② 『博物館学史研究事典』（平成29年12月25日、雄山閣 東京都千代田区）（青木豊と共編著）
- ③ 「博物館登録制度の行方—博協報告書と学術会議提言をめぐって—」『東北歴史博物館研究紀要』第19号、43～48頁（平成30年3月27日、東北歴史博物館、宮城県多賀城市）

### 古川 一明（学芸部長）

#### 【執筆活動】

「東北・関東地方の古代の大型土坑について」『東北歴史博物館研究紀要』第19号 21～40頁（平成30年3月28日 東北歴史博物館 宮城県多賀城市）

#### 【研究発表・講座・講演など】

- ① 「平家物語と陸奥国」明治青年大学郷土史を学ぶ会郷土史講座（平成29年6月15日、仙台市生涯学習支援センター、宮城県仙台市）
- ② 「11～12世紀の陸奥国府の府中の様相について」平成29年度 史都多賀城 歴史・観光講座

#### IV 調査研究

(平成 29 年 10 月 12 日, 多賀城市中央公民館, 多賀城市)

- ③ 「実方中将と平家物語」第20回藤原実方朝臣墓前献詠会講演(平成29年10月15日, 愛島公民館, 宮城県名取市)
- ④ 「古代東北エミシと律令国家の戦い」 古代都市賀美石を考える会講演  
(平成 30 年 2 月 6 日, 加美町やくらい文化センター, 加美町)

#### 相原 淳一(上席主任研究員)

##### 【執筆活動】

- ① 「多賀城城下とその周辺におけるイベント堆積物」(『宮城考古学』第 19 号, 107~126 頁, (宮城県考古学会)(平成 29 年 5 月 14 日, 仙台市)
- ② 「東日本大震災津波と貞観津波における浸水域に関する検討」(高橋守克・柳澤和明と共著)『歴史地震』第 32 号, 132 頁, 歴史地震研究会(平成 29 年 6 月 30 日, 東京都)
- ③ 「みるきくまなぶ 東北歴史博物館 縄文社会伝える骨角器」『読売新聞』宮城県内版 28 頁(平成 29 年 8 月 22 日, 仙台)
- ④ 「縄文から続縄文・弥生への移行期における葬送と社会」『別冊季刊考古学 「亀ヶ岡文化」の再構築』第 27 号, 96~101 頁, 雄山閣(平成 29 年 3 月 23 日)
- ⑤ 「縄文時代前期末葉から中期初頭の土器編年—宮城県七ヶ宿町小梁川遺跡を中心とする層位学的再検討」『東北歴史博物館研究紀要』第 19 号, 1~20 頁(平成 29 年 3 月 27 日, 多賀城市)
- ⑥ 「楠本コレクションの調査 5-骨角器編 2」『東北歴史博物館研究紀要』第 19 号, 47~66 頁(柳澤和明と共著)(平成 29 年 3 月 27 日, 多賀城市)

##### 【研究発表・講座・講演など】

- ① 「七ヶ宿ダム湖に沈んだ 小梁川・大梁川展 小梁川・大梁川遺跡～時空を越えて縄文文化が語りかけるものとは～」(平成 29 年 4 月 30 日, 七ヶ宿町水と歴史の館, 七ヶ宿町)
- ② 「多賀城城下とその周辺におけるイベント堆積物」平成 29 年度宮城県考古学会総会・研究発表会(平成 29 年 5 月 14 日, 東北歴史博物館, 多賀城市)
- ③ 「多賀城城下とその周辺におけるイベント堆積物」日本考古学協会第 83 回総会・研究発表会(高橋守克・柳澤和明と共同発表)(平成 29 年 5 月 28 日, 大正大学, 東京都)
- ④ 「縄文海進と貝塚」貞山・北上・東名運河研究会(平成 29 年 7 月 27 日, 豆や, 仙台市)
- ⑤ 「貞観津波と多賀城」東北電力 OB 会, 平成 29 年 10 月 20 日, 東北歴史博物館, 多賀城市
- ⑥ 「考古学から見た『先人に学ぶ・地を読む力』」『先人に学ぶ 地を読む力 パネルディスカッション』土木学会東北支部(平成 29 年 12 月 9 日, 仙台国際センター, 仙台市)
- ⑦ 「宮城県における縄文時代中期—七ヶ宿町小梁川・大梁川遺跡を中心に」れきはく講座(平成 30 年 3 月 4 日, 東北歴史博物館, 多賀城市)

##### 【調査協力】

- ① 宮城県七ヶ浜町林崎貝塚津波堆積物調査(七ヶ浜町教育委員会・産業技術総合研究所澤井祐紀氏)
- ② 宮城県蔵王町上原田遺跡の調査(蔵王町教育委員会)
- ③ 宮城県大崎市通木・新田柵・座散乱木遺跡出土土器(大崎市教育委員会)
- ④ 宮城県大崎市北小松遺跡出土土器(宮城県教育委員会)
- ⑤ 宮城県栗原市鶯沢半戸六遺跡出土土器(宮城県考古学会 佐藤信行氏)
- ⑥ 山形県高島町羽黒神社西遺跡出土土器(山形県埋蔵文化財センター 大場正善氏)
- ⑦ 共同研究「亀ヶ岡文化論の再構築」(弘前学院大学 鈴木克彦氏)
- ⑧ 北日本縄文時代晩期・弥生時代住居集成(北日本縄文文化研究会)

##### 【他機関からの委嘱】

- ① 考古学研究会全国委員
- ② 南三陸海岸ジオパーク準備委員会

#### 政次 浩(主任研究員)

##### 【研究発表・講座・講演など】

- ① 講座「正伝寺観音像と秋田三十三所巡礼について」正伝寺歴史文化講座（平成 29 年 6 月 17 日，秋田県横手市）
- ② 講座「岩手県指定有形文化財研修会―大門神社の仏像について―」一関市文化財講座（平成 29 年 12 月 8 日，岩手県一関市）

【調査協力】

- ① 企画展「高野山金剛峯寺襖絵完成記念千住博展」企画協力，秋田市立千秋美術館（平成 30 年 3 月 3 日～4 日）

【研修】

- ① 文部科学省及び国立教育政策研修所主催「平成 29 年度博物館学芸員専門講座」（平成 29 年 12 月 13 日～15 日）

【他機関からの委嘱】

- ① 岩手県文化財保護審議委員（岩手県教育委員会）
- ② 「秋田の仏像と寺社什物」文化財収録作成調査委員（秋田県教育委員会）

**塩田 達也（副主任研究員）**

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「中世大崎・岩出山の歴史―南北朝期から戦国期を中心に―」岩出山の歴史講座（平成29年9月20日，岩出山文化会館，大崎市岩出山）
- ② 「岩出山時代の伊達政宗―激動の十一年間―」伊達政宗生誕450年記念歴史講座「国づくりにかけた政宗の夢」（主催 東北福祉大学・河北新報社）第3回（平成30年1月20日，東北福祉大学仙台駅東口キャンパス，仙台市宮城野区）

【他機関からの委嘱】

- ① 山形県立米沢女子短期大学非常勤講師（博物館資料保存論）

**小谷 竜介（副主任研究員）**

【執筆活動】

- ① 2017. 5. 31 「文化遺産の多様なまもり方―民俗芸能に引き寄せられた人たちのコミュニティ」飯田卓編『文明史のなかの文化遺産』臨川書店、41 頁～61 頁

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「多世代の連携と工芸継承」 「コミュニティデザイン論」 東北工業大学（平成 29 年 6 月 5 日，仙台市）
- ② 「多世代協業を通じた地域分の発見と継承―特別展『工芸継承』の活動から」国際フォーラム『地域文化の再発見』人間文化研究機構基幹研究プロジェクト・国立民族学博物館 別府大学（平成 29 年 10 月 24 日，大分県別府市）
- ③ 「被災地域の民俗芸能と地域社会」ワークショップ、政岡科研、（平成 29 年 10 月 29 日，北海道奥尻）
- ④ 「文化財化する地域文化」東北大学災害科学世界トップレベル研究拠点関連事業学術成果公開シンポジウム『震災復興における民俗芸能の役割と継承』東北大学災害科学国際研究所・郡山女子大学（平成 30 年 2 月 10 日，郡山女子大学，福島県郡山市）

【調査協力・共同研究】

- ① 東北大学東北アジア研究センター共同研究「東日本大震災後のコミュニティ再生・創生プロセスと持続可能性に関する実証的共同研究」（研究代表：高倉浩樹）共同研究員
- ② 人間文化研究機構基幹研究「日本列島における地域文化の再発見とその表象システムの構築」（研究代表：日高真吾）共同研究員 2016～



【教育活動・社会的活動】

東北学院大学東北文化研究所客員 2006～

東北学院大学非常勤講師 2008、2011、2013～

**芳賀 文絵（学芸員）**

【執筆活動】

- ① 「低コスト・低エネルギー型の収蔵環境構築について-木材による収蔵室湿度環境改善のための基礎調査-」『東北歴史博物館研究紀要』第19号 89～92頁（平成30年3月28日，宮城県多賀城市）  
（共著：及川規，森谷朱）

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「低コスト・低エネルギー型の収蔵環境構築について-木材活用のための基礎調査-」文化財保存修復学会第39回大会（平成29年7月1日，金沢歌劇座，石川県金沢市）  
（共同発表：及川規）

**今井 雅之（技師）**

【執筆活動】

- ① 「みるきくまなぶ 東北歴史博物館 型紙で染め物手軽に」『読売新聞』宮城県内版 32頁（平成30年2月27日，仙台）

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「宮城県の鍬について」東北歴史博物館ボランティアの会研修会，東北歴史博物館（平成29年6月24日，多賀城市）
- ② 「名取鍬について-超鋭角な鍬の謎-」東北歴史博物館れきはく講座，東北歴史博物館（平成30年3月11日，多賀城市）

【調査協力】

- ① 「女川町北浦地区民俗調査」研究協力者，東京文化財研究所
- ② 「戦前の渋沢水産史研究室の活動に関する調査研究」共同研究者，国際常民文化研究所

**森谷 朱（技師）**

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「大規模災害時における市町村間の文化財レスキューの取り組み-東日本大震災における岩手県の活動事例から-」文化財保存修復学会第39回大会（平成29年7月1日，金沢歌劇座，石川県金沢市）  
（共同発表：松井敏也）

**西松 秀記（技師）**

【研究助成金】

公益財団法人LIXIL住生活財団 若手研究助成（若手研究者）

「絵画資料を用いた中近世における窓・建具の流通に関する研究」（助成番号17-83）

（研究期間：平成29年12月1日～平成30年12月31日）

**相澤 秀太郎（技師）**

【研究発表・講座・講演など】

- ① 「唐に渡った蝦夷-斉明天皇五年蝦夷入唐の歴史的意義-」仙台明治青年大学郷土史を学ぶ会 講演（平成29年5月18日，仙台市生涯学習支援センター，宮城県仙台市）
- ② 「学芸員という仕事」多賀城市立多賀城中学校キャリアセミナー 講演（平成29年9月9日，多賀城市立多賀城中学校，宮城県多賀城市）
- ③ 「阿倍比羅夫の北方遠征-謎に包まれた遠征の目的に迫る-」れきはく講座 講演（平成30年1月21日，東北歴史博物館，宮城県多賀城市）

**及川 規（研究員）****【執筆活動】**

- ① 「水損被災資料由来の揮発成分について-乾燥法・災害種の違いによる差異-」『東北歴史博物館研究紀要』第19号 85～88頁（平成30年3月28日，宮城県多賀城市）（共著：芳賀文絵，森谷朱）

**【研究発表・講座・講演など】**

- ① 「津波被災資料由来異臭成分とその文化財材質への影響」文化財保存修復学会第39回大会（平成29年7月1日，金沢歌劇座，石川県金沢市）  
（共同発表：芳賀文絵，松井敏也，河崎衣美，天野真志，栗原駿一，伏見拓朗）

**【調査協力】**

- ① 山形大学博物館環境調査協力

**【他機関からの委嘱】**

- ① 山形大学非常勤講師  
② 宮城学院女子大学非常勤講師  
③ 尚絅学院大学非常勤講師

**柳澤 和明（研究員）****【執筆活動】**

- ① 2017.6.30「『日本三代実録』にみえる五大災害記事の特異性」『歴史地震』第32号19～38頁（歴史地震研究会）《査読誌》  
② 2018.3.27「楠本コレクションの調査5 — 骨角器編2 里浜貝塚・沼津貝塚他」『東北歴史博物館研究紀要』第19号，47～66頁〔柳澤を筆頭とし，相原淳一と共著〕  
③ 2018.3.27「砂押川における現生海水生種・汽水生種珪藻の輸送限界—平成28年度科学研究費による調査・研究報告—」『東北歴史博物館研究紀要』第19号，67～84頁〔柳澤を筆頭とし，渡辺剛（国立研究開発法人水産研究・教育機構 東北水産区研究所）と共著〕，独立行政法人日本学術振興会による平成28年度科学研究費・挑戦的研究萌芽（JSPS 科研費 JP16K13294）の助成による調査・研究成果報告  
④ 2018.3.30「貞観地震・津波研究の現状と課題—陸奥国府多賀城跡における被害と復興を中心に—」『歴史が導く災害科学の新展開』（歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業シンポジウム報告書2017），4～8頁（東北大学災害科学国際研究所による平成30年2月10日シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開，会場：東北大学災害科学国際研究所 1F 多目的ホールの報告書）

**【研究発表・講座・講演など】**

- ① 「貞観地震・津波研究の現状と課題—陸奥国府多賀城跡における被害と復興を中心に—」，東北大学災害科学国際研究所「歴史文化遺産の保全・活用と災害科学研究」シンポジウム「歴史が導く災害科学の新展開」（平成30年2月10日，東北大学災害科学国際研究所 1F 多目的ホール，仙台市青葉区）

**【調査協力】**

- ① 多賀城市圃場整備事業（東日本大震災復興事業）に伴う山王遺跡復興事業関連発掘調査（平成29年4月1日～平成30年3月31日，多賀城市教育委員会調査主体，宮城県教育委員会調査協力）

## V 資料管理

### 1 資料

#### (1) 資料の概要

現在当館では、考古・民俗・歴史・美術工芸・建築の各資料分野にわたって、約 11 万件の実物資料を収蔵している。そのほとんどは、当館の前身である東北歴史資料館において収集した資料である。考古資料は宮城県文化財保護課が主体となって発掘・整理した資料が多くを占めており、また歴史資料には宮城県図書館から移管された文書群も含まれている。これらの他に、収蔵実物資料を撮影したものなどを中心とした写真資料があり、フィルムやプリント、デジタルデータの形態で約 7 万 2 千件を収蔵している。

#### (2) 新収集資料

##### ア 寄贈資料

番号	資料名	数量	単位	寄贈者（敬称略）
1	工芸指導所関連資料（試作品等） （熊谷家資料）	8	点	熊谷致佳子（仙台市）
2	杉山コレクション追加寄贈資料 （斉藤雅春・寿美子夫妻所蔵資料）	13	件	斉藤雅春・寿美子（東京都）
3	かんじき （深澤博氏収集かんじき資料一式）	11	点	深澤 博（神奈川県）
4	宮城県教育庁文化財保護課移管資料	252	箱	山王遺跡VI・涌沢遺跡・熊の作遺跡・入の沢遺跡など

#### (3) 資料の修復

継続的に実施している石母田家文書 26 点の裏打ち補修を行った。

#### (4) 図書資料

今年度、受入・登録した寄贈図書資料は 2,262 点、購入図書資料は 75 点、県文化財保護課からの移管資料は 0 点、合計 2,337 点である。当館の所蔵している図書資料の総数は約 11 万点で、そのうち、東北地方の県史・市町村史（誌）・郷土の歴史に関する図書、歴史・考古・民俗・美術史・建築史についての基本的な辞書・叢書、児童を対象とした図書など、約 8,000 点を 3 階の図書情報室に開架式で配架している。

#### (5) 資料収集方針

資料収集は策定された計画に基づいて資料調査と情報収集を行い、適宜計画を見直しながら展開してきた。しかし、収集は寄贈・寄託に依存しており、資料購入予算を確保できない状態が続いている。そこで、この打開策を講じるための第一歩として収集計画を再整理し、当館の資料収集方針（以下参照）を広く公開することとした。

## 2 資料の利用

博物館の実物資料及び写真資料は、申請により館長の承認を受け、資料の貸出、閲覧、撮影等ができる。

#### (1) 実物資料

実物資料は、申請依頼により貸出、閲覧、撮影等サービスを行っているが、館外貸出については、36 件 1032 点があった（長期継続貸出分を含む）。各資料分野別の内訳は次のとおりである。

##### 資料貸出状況

資料分野	考 古	民 俗	文 書	美術工芸	建 築	歴 史	合 計
件数	31	1	1	1	0	2	36件
点数	596	425	3	6	0	2	1032点

また、文書資料のマイクロフィルムについては、図書情報室において、閲覧及び複写サービスを行っている。

## (2) 写真資料

写真資料等の利用申込は110件を数えた。その内訳は、歴史図書が31件、展示等が31件、教科書等教材が18件、自治体史及び報告書等が12件、その他が18件であった。

利用された写真資料は344点。その内訳は、考古資料が205点、美術工芸資料が69点、民俗資料が56点、歴史資料が8点、その他が6点であった。

## (3) 図書資料

図書情報室に開架式で配架している図書は、来館者が自由に閲覧できる。そのほか、各種報告書・図録・専門書・雑誌などは、図書収蔵庫に保管し、希望者の求めに応じて図書情報室で閲覧できる。なお、マイクロフィルムの閲覧、及び図書資料・マイクロフィルムの複写サービスも行っている。

また、当館で所蔵している図書資料の目録は、インターネットの当館ホームページで公開し、検索ができるようになっている（詳細については「図書情報室」の項を参照）。

# 東北歴史博物館資料収集方針

## 1 基本方針

東北歴史博物館は、東北の姿を自ら再発見し、東北の存在を広く世界に発信することにより、国際化の時代にふさわしい地域づくりとその活性化に貢献するという使命の下に設置された、宮城県立の歴史民俗系博物館である。

当館では、宮城県及び東北地方の歴史民俗などに関わる資料収集の基本方針として、①宮城県、東北地方の歴史民俗などに関わる資料の収集、②散逸あるいは滅失の危険のある資料の収集及び保管、③全国的な視野から東北地方の歴史民俗などを広く展望することのできる資料の収集、の3点を掲げる。

## 2 当面の収集方針

基本方針に基づき、以下の各研究部門の収集テーマを中心に資料を収集する。

### 〔考古研究部門〕

- 宮城県教育庁文化財保護課移管資料に関連する資料を収集する。
- 貝塚資料を収集する。
- 古代城柵関係資料を収集する。

### 〔民俗研究部門〕

- 信仰関係資料を収集する。
- 職人関係資料を収集する。

### 〔歴史研究部門〕

- 旧仙台藩領を中心とした文書資料を収集する。
- 武器・武具類を収集する。
- 絵図等の歴史資料を収集する。
- 高僧の遺した墨蹟等の書跡類を収集する。

### 〔美術工芸研究部門〕

- 古代から近世に至る信仰に関わる美術工芸資料を収集する。
- 近世絵画を収集する。
- 近世絵画、墨蹟等の文人資料を収集する。

### 〔建造物研究部門〕

- 近世から近代の民家に関する資料を収集する。
- 近代化に寄与した建造物に関する資料を収集する。
- 大工、建築家等の建設に関わった人物に関する資料を収集する。

### 3 特記すべき収集方針

東日本大震災の被災地に立地する県立博物館として、「震災復興に貢献する博物館活動の積極的展開」を活動方針としていることから、資料収集にあたっては、災害に関する資料の枠組みや概念規定を、総合展示リニューアルも視野に入れながら明確化し、その修復や保存に関わる資料や情報も収集することを各研究部門共通の方針とする。

## 3 保存環境と保存処理

### (1) 保存環境

#### ① 温湿度管理

収蔵庫・展示室は24時間空調(温度=夏季22~24℃, 冬季20~22℃, 湿度=収蔵・展示物に合わせ45~63%RHで一定)で、温湿度は中央監視室で常時監視しているほか、自記温湿度計を設置して計測・管理している。

#### ② 空気環境管理

変色試験紙による定期的な偏酸・偏苛性の調査のほか、空気汚染物質(ギ酸, 酢酸, アンモニア, ホルムアルデヒド等8種類)の定量分析を委託しており、今後の空気環境管理のため基礎データを集積中である。測定結果の一部を表1に示した。ほとんどの場所で基準値より小さい値であった。一部測定値が基準値を上回った場所については、換気等の改善を施した後、当館所有の機器で再測定を実施し、問題ないことを確認した。

表1 空気成分測定結果例(単位=ppb, ND=不検出, 2017年8月1日~18日実施分)

測定成分	本館収蔵庫番号(前=前室)									浮島収蔵庫			基準値
	前A	1	2	3	前B	4	5	6	特別	伝木	民俗	新出木	
二酸化窒素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5 <sup>*1</sup>
二酸化硫黄	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5 <sup>*1</sup>
ギ酸	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	15	ND	30 <sup>*2</sup>
酢酸	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	297	ND	170 <sup>*2</sup>
アンモニア	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5 <sup>*1</sup>
硫化水素	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	200 <sup>*3</sup>
ホルムアルデヒド	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	92	ND	ND	ND	80 <sup>*2</sup>
アセトアルデヒド	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	74	30 <sup>*2</sup>

※1 東京国立博物館指針(文化財の虫菌害 No61, 2011), ※2 東京文化財研究所文化財公開施設の空気汚染物質上限目安, ※3 悪臭防止法

#### ③ 生物被害防除

年2回, 文化財加害生物調査, 浮遊菌調査, 塵埃調査など生物被害防除関連の調査を委託している。また日常的にも展示・収蔵エリアにトラップを設置し, 総合的害虫防除管理(IPM)の観点から, データの蓄積を行っている。さらにカビの防除を目的として, 付着菌測定, 浮遊菌測定によるカビリスク評価法の検討を行っている。

文化財を加害する昆虫, カビ, 浮遊菌等の駆除については, 当館くん蒸庫で個別くん蒸を随時行った。

### (2) 保存処理

#### ① 国庫補助事業の保存処理

「埋蔵文化財出土遺物の保存処理」として国庫補助を受けており, 今年度は, 熊の作遺跡出土の曲物, 挽物など木製品96点, 及び入の沢遺跡出土の銅鏡, 鉄斧など金属製品26点について保存処理を行った。処理方法を表2・3にまとめた。

表2 出土木製遺物の保存処理

前処理	エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム塩水溶液で数回脱鉄後、残存塩を水洗除去。
PEG 含浸	60℃のポリエチレングリコール(PEG)20%水溶液から順次濃度を高くして、遺物の状態に応じて、80～90%溶液を含浸させたところから取り上げ。
真空凍結乾燥	木製品の表面を温水で洗浄、水分を拭拭後、-30℃の冷凍庫中で予備凍結。真空凍結乾燥装置により乾燥処理。種々の乾燥パターンを試行し、資料に適した処理条件を模索中。
後 処 理	エタノール洗浄や温風融解により、表面に析出した PEG を除去。
接合・修復	酢酸ビニルエマルジョン系、シアノアクリレート系、エポキシ系などの合成樹脂を用いて接合し、欠損部分の必要箇所にてパテを充填し、充填部分をアクリル系絵具等で彩色。

表3 出土金属製遺物の保存処理

クリーニング	必要なものについてX線撮影で形状・劣化状態を把握後、精密グラインダー、精密噴射加工機を用いて、物理的な錆除去・クリーニング処理。
脱塩	高温高压法により脱塩。防錆剤(ベンゾトリアゾール、四ホウ酸ナトリウム)を添加した水溶液を脱塩液とし、121℃、約2.1気圧で1時間脱塩後、放冷(この処理を数回反復)。脱塩後、検知管にて塩化物イオン濃度を計測し、各種塩類が除去されていることを確認。エタノールで洗浄・風乾後、数日間強制乾燥。
樹脂含浸	非水系アクリルエマルジョン5%溶液を減圧下で含浸し、風乾後、強制乾燥。(この処理を2～3回反復)。
接合・修復	シアノアクリレート系、エポキシ系等の合成樹脂で接合・欠損部分の充填後、アクリル系絵具で彩色。
保管	処理後、セラミック蒸着系ハイバリアフィルム製の袋に入れ、金属酸化防止剤、酸素検知剤とともに封入し、保管。

## ② その他の保存処理・調査協力

文化庁「被災ミュージアム再興事業」の活動として、被災資料の応急処置・保管、環境調査などを行った(詳細はVI東日本大震災後の対応の頁を参照されたい)。それら以外に他機関から依頼された保存処理・調査協力は表4のとおり。

表4 他機関から依頼された保存処理・調査協力(順不同)

秋田市立秋田城跡歴史資料館	出土金属製品等のX線透過写真撮影(27点)
奥州市教育委員会	白鳥館遺跡出土金属製品等のX線透過写真撮影
気仙沼市教育委員会	資料燻蒸処置(12点)
栗原市教育委員会	横須賀貝塚脆弱遺物の取り上げ(1点)
多賀城市教育委員会	山王遺跡他出土鉄製品の脱塩処理(29点)
東松島市教育委員会	資料燻蒸処置(32点)
宮城学院大学	資料燻蒸処置(6点)
宮城県公文書館	資料燻蒸処置(60点他)
山元町教育委員会	合戦原遺跡出土金属製品保存処置指導及び協力
山元町教育委員会	合戦原遺跡出土線刻壁画保存方法指導

## VI 東日本大震災後の対応

### 1 被災文化財の保全活動

当館は、平成 23 年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管している。

また、東日本大震災により甚大な被害を受け、劣化・消失の危機に瀕していた県内文化財への応急的なレスキュー活動に平成 28 年度末で区切りを付け（宮城県被災文化財等保全連絡会議の解散）、今年度からは、震災復興の貫徹に向けた被災文化財の保全活動を推進している。さらに、災害に関する調査・研究を進め、公開・普及事業での活用にも取り組んだ。

#### (1) 被災資料の保管・収蔵

一時保管資料については、その多くを別館の浮島収蔵庫にて保管しているが、保存科学担当職員が定期的に巡回して環境管理を行い、さらに 6 月から 10 月にかけては、除湿器を稼働し、温湿度のチェックを行った。

#### (2) 被災資料の保全処置

県内被災資料について、劣化の進行抑制のため、脱塩、くん蒸、クリーニングなどの保全処置を行った。

・亙理町立郷土資料館管理の文書資料（近世・近代の帳簿類等）526 点について、以下の工程で保全処置を実施した。

##### 1. 処置前の記録写真撮影

処置を行う前の資料の汚損や破損状態を記録するため、資料一点につき表面と裏面を撮影した。

##### 2. 状態調査及び記録作成

処置を行う前に、資料の種類や形態、材質、汚損や破損の状態、臭気の有無等を詳細に記録した。

##### 3. クリーニング

刷毛や消しゴム等を用いて、資料に付着しているカビや汚泥等を除去した。

##### 4. 補修

欠損や破れ、剥がれた部分のある資料に対し、正麩のりや和紙を用いて補修を行った。

##### 5. 処置後の記録写真撮影

処置が終了した資料の状態を記録するため、資料一点につき表面と裏面を撮影した。

##### 6. 中性紙ボックスへの収納及び整理作業

処置が終了した資料を、中性紙封筒に納め、各資料の種類毎のまとまりを生かし、中性紙ボックスに収納した。

#### (3) 被災資料状態調査・方針協議等

被災資料・施設について状態調査・方針協議等を実施し、処置をはじめ保管や今後の保全・活用方針策定に協力した。

・石巻市旧湊二小収蔵庫保管資料の状態について石巻市教育委員会と連携して調査し、処置等今後の保全方針について協議した（平成 29 年 4 月 24 日、5 月 24 日、6 月 15 日、7 月 20 日、7 月 26・27 日、8 月 28 日、10 月 27 日、12 月 4 日、平成 30 年 2 月 16 日、3 月 1 日）。

・南三陸町保管資料の状態について南三陸町教育委員会と連携して調査し、処置等今後の保全方針について協議した（平成 29 年 4 月 20 日、6 月 21 日、5 月 12 日、平成 30 年 2 月 26 日）。

・亙理町立郷土資料館収蔵庫保管資料の状態について亙理町教育委員会と連携して調査し、処置等今後の保全方針について協議した（平成 29 年 7 月 28 日、平成 30 年 3 月 20 日）。

・奥松島縄文村歴史資料館増設収蔵庫の環境について東松島市教育委員会と連携して調査し、今後の方針について協議した（平成 29 年 6 月 8 日）。

・（公社）みらいサポート石巻が管理する被災資料について同法人と連携して調査し、展示及び保存環境の今後の方針について協議した（平成 29 年 7 月 20 日、8 月 4 日、9 月 21 日、10 月 27 日、12 月 4 日、平成 30 年 1 月 29 日、3 月 1 日）。

**(4) 被災資料の返却等**

- ・宮城県被災文化財等保全連絡会議の事業を引き継ぎ、平成 28 年度から継続して修理を行っていた石巻市観音寺資料（大般若経）の返却・移送を行った（平成 29 年 4 月 27 日）。

**(5) 被災資料の保存技術調査**

- ・一時保管施設の環境整備対策（対象：石巻市旧湊二小収蔵庫。廃校を利用した一時保管施設において、温湿度及び被災資料由来揮発成分を制御し保存環境を整備するための対策。筑波大学，北海道大学，福島大学，秋田県立大学，東京国立博物館，橿原考古学研究所，石巻市教育委員会と連携して実施。平成 29 年 7 月 26 日・27 日）。
- ・被災資料由来揮発成分調査（被災資料から放散される揮発成分を採取し分析。筑波大学，東北大学，神戸大学，亘理町教育委員会と連携して実施。平成 30 年 3 月 15 日）。

**(6) 情報公開**

- ・宮城県考古学会において，宮城県内における被災文化財への対応状況について報告した（平成 29 年 5 月 14 日）。
- ・文化財保存修復学会第 39 回大会において，「津波被災資料の乾燥法や災害の種類による異臭成分の違い」，「津波被災資料由来異臭成分の文化財材質への影響について」の発表を行った（平成 29 年 7 月 1・2 日）。
- ・西山美術館『宮城アールパレ精鋭展』の関連イベントとして，仙台メディアテークにて「東日本大震災文化遺産の被災」について講演を行った（平成 29 年 9 月 20 日）。

**2 宮城県復興支援調査への協力**

宮城県教育委員会文化財保護課が行う震災復興事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に対して，年間を通し職員が協力にあたった。担当者，担当遺跡などは下記のとおりである。

担当者	担当遺跡
柳澤 和明	多賀城市 山王遺跡



## Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

開館以来の博物館を取りまく環境の変化への対応、さらに平成23年3月に発生した東日本大震災への対応という新たな課題に取り組むため、今後の当館の進むべきあり方を検討し、この度中長期に取り組むべき活動方針と達成目標を策定いたしました。

目標は、平成25年度から平成29年度までの5年間を中期目標と、30年度以降については長期目標と見なしておりますが、24年度中に着手できるものについては、遅滞なく実行してまいります。なお、本計画は作成時点での諸事情に基づき策定したものであり、その後、県の財政計画の変更や組織再編などにより大きい変化が生じたときは、計画期間中でも必要に応じて見直すものとします。

また、本計画の推進のため館内推進組織を立ち上げ進捗状況を常に把握するなど、PDCAサイクルの考えに基づき、的確な進行管理を行います。

### 1 活動方針

当館の新たなあるべき姿を実現するため、震災からの復興という新たな使命を加えた9つの活動方針を設定し、当中長期目標の達成に向け取り組みを進めてまいります。

#### 1 常設展示・企画展示

何度も訪れたいくなる常設展示を目指します。また、利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。

#### 2 教育普及

多様で親しみやすく、参加したくなる教育普及事業を目指します。また、学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。

#### 3 調査研究

東北の歴史・文化等に関する調査研究を推進し、その成果を積極的に展示公開します。また、他の博物館・研究機関等との連携を深めます。

#### 4 資料の収集と保管・活用

東北の歴史・文化に係わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。また、収集した資料を特質に応じて保存管理し後世へ継承します。

#### 5 情報の発信

当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。また、インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。

#### 6 県民参加

利用者のニーズが博物館の運営に十分反映されるよう努めます。また、博物館への県民参加を、積極的に推進します。

#### 7 施設の整備・管理

利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。また、障害者等の方々が安心して利用できる環境を整えます。

#### 8 組織・人員

組織の再検証を進め、効果的・効率的な業務運営が確保される体制を目指します。

#### 9 東日本大震災対応

県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。また、震災復興を祈念する展示事業を積極的に展開し、さらに震災や被災文化財に関する調査研究を行い、常設展示事業での展開を目指します。

## 取り組みの概要

### I 目的

開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や平成23年3月に発生した東日本大震災への対応という課題に取り組むため、平成11年10月開館時に策定された運営基本方針を基礎として、中長期に取り組む活動方針と達成目標を平成24年度に策定し、より魅力的な博物館を目指して取り組みを進めてきました。

### II 計画期間

中期目標 平成25年度～平成29年度までの5年間  
 長期目標 平成25年度～平成34年度までの10年間

### III 取り組み項目

当館の新たなあるべき姿を実現するために、以下の9つの項目に16の活動方針と32の達成目標を設定しました。

重点目標として「子ども利用促進に向けた取組の推進（こどもプロジェクト）」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業と位置づけました。

- 1 常設展示・企画展示
- 2 教育普及
- 3 調査研究
- 4 資料の収集と保管・活用
- 5 情報の発信
- 6 県民参加
- 7 施設の整備・管理
- 8 組織・人員
- 9 東日本大震災対応

### IV 結果概要

取り組みの達成度は、全職員で行った職員自己評価の結果を基に、館としての評価を中長期目標達成推進委員会（館長、副館長、部班長で構成）でまとめました。

評価に当たっては、評価基準を4段階とし、「達成」を4、「ほぼ達成」を3、「やや不十分」を2、「不十分」を1としました。

総合評価は、最終年度を迎え達成度が前年度の2.7から2.9と0.2ポイント高くなりました。また、32の達成項目中、自己評価が「ほぼ達成」したと見込まれる2.5以上のものは31項目、「やや不十分」となる2.5未満のものは15番の「館のロゴの検討」1つとなりました。

東北歴史博物館中長期目標 平成 29 年度自己評価 (9 月末現在)

項目	活動方針	達成目標 No.	H29 達成目標	実績	H29 自己評価
1 常設展示・企画展示	何度も訪れたくなる常設展示	1	総合展示室の充実とリニューアルをめざします。	災害展示研究WGと各分野担当者によって昨年度策定した歴史災害を盛り込んだリニューアル基本構想案ベースに、展示室レイアウト案を作成した。今後、展示シナリオ、展示資料等の細部を詰めながら、主務課と協議し、予算獲得に向け作業を進める。リニューアル完成目標は平成 36 年度である。 キャプション・展示パネル等に関しては、12 月のメンテナンス期間に要改修箇所を更新を行う。 補助事業を活用した新たな展示図録を制作しており、現在は、より充実した情報を提供できるよう原稿、写真を元に編集・校正作業中である。刊行は今年度末である。	2. 6
		2	テーマ展示室の充実を図ります。	今年度は新資料活用、構成刷新等により展示内容の充実を図り、WEBでの資料紹介を積極的に行うことを目標としている。再構成による「仙台の近世絵画―東東洋の屏風―」(美術)は7月9日に終了したが、今後も新資料を交えた「高僧の墨跡」(歴史)が10月3日、「埴輪」(考古)が平成30年1月5日、「柄鏡の美」(民俗)を平成30年3月13日から開催する。また、美術分野における展示ではこども向けリーフ等を配布するなど、よりわかりやすい展示解説となるよう配慮している。 映像展示室では東北地方の祭や民俗芸能などの無形文化財の記録を上映中である。 「特別展」が終了する11月以降においては、WEBでの資料紹介も積極的に行い、集客を図りたい。	2. 8
	3 (重点)	魅力的な展示企画の充実を図ります。	【特別展】 各展覧会の観覧者数については、「世界遺産ラスコー展」展は34,010人(昨年度分3,425人除く)、「漢字三千年」展は17,738人、「熊と狼一人と獣の交渉誌」展は9月16日に開幕し、9月末で観覧者数2,151人を数えている。 震災直後の平成23年度を除く近年の特別展観覧者数は、平成22年度:20,666人、平成24年度:22,111人、平成25年度:23,369人、平成26年度:39,287人、平成27年度:48,403人、平成28年度:40,760人となっている。 今年度は、目標とした値は下回っているものの、既に昨年、一昨年を大きく上回る観覧者数53,899人を記録している。  [“こどもキャプション”の設置] 特別展開催時、一般の来館者向けに附される展示資料の解説キャプションのほかに、来館された子どもたちの興味や関心をたかめ、展示の理解を助けるための「こどもキャプション」を併せて設置した。その内容は、「資料のどの部分を見ると面白さが分かるかを示すもの」、「クイズ・問いかけ等により資料の理解を促すもの」、「資料にまつわるエピソード」で、小学生を対象に、大きな文字、やさしい表現、短い文章、親しみやすいデザインで作っている。今年度は「世界遺産ラスコー展」「漢字三千年」展において、各所に設置した。この「こどもキャプション」は、来館者アンケートなどから、対象とする小学生だけではなく、一般の来館者からも展示の理解に役立つという意見が多数寄せられ、一定の効果が認められている。  [開館20周年記念企画] 平成31年度の当館開館20周年にむけて組まれた「20周年プロジェクトチーム」が展示及び関連行事の企画・立案にあたっている。今年度は開催が決定した記念特別展「蝦夷展(仮)」の展示構成案の細部をつめ、開催に向けた準備を進めている。また、関連行事については企画の検討中である。	3. 3	

		4	外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い県民の来館を推進します。	マスコミ・プロモーター提案あるいは共同企画による大型巡回展等の誘致を継続して積極的に図っている。来年度は、当館単独開催となる大規模特別展「東大寺と東北」展を多賀城市、河北新報社、仙台放送、日本経済新聞社とのタイアップにより開催予定である。それ以降の大規模展覧会の誘致・開催についても現在、多面的な働きかけを継続して行っている。	3. 5
2 教育 普及	多様で親しみやすく、参加したくなる教育普及事業	5	各種講座・教室や体験イベントの開催に際し、県民のニーズや興味関心をつかみながら、質的な充実をめざします。	<p>【講座】</p> <p>史料講読講座は終了。募集人数40名のところ、登録は51名あり好評であった。館長講座、古文書講座入門編は現在、実施中である。その他、古文書講座中級編、れきはく講座、民俗芸能講座、体験考古学講座についても今後実施する。</p> <p>【体験教室】</p> <p>夏の体験教室では、親しみやすく参加したくなるような教室を展開するため「ハンコを作ろう」「クジラのひげでペンダントを作ろう」「拓本をとろう」「石器で描こう」を実施し、各回15～25名、全体86名の募集定員に対し各回16～24名、全体87名の参加があり、目標を達成した。</p> <p>【体験イベント】</p> <p>春の体験イベントを実施し、665名の参加があった。秋・冬も開催予定であり400～600名参加を目標としている。</p> <p>体験プログラムの内容がわかりやすいイラストを採用したチラシを作成した。</p> <p>毎回混雑していた「勾玉づくり」の受付方法を変更し、参加者のストレス軽減・満足度向上を図った。</p> <p>イベントにむすび丸を呼び、来館者の満足度向上を図った。</p> <p>雨天時のプログラム内容・会場の変更案を事前に作成・館内で共有し、スムーズな対応を可能とした。</p> <p>【多賀城めぐり】</p> <p>今年度はハイキング形式の番外編も含め14回開催予定であり、12回終了している。これまでに計178名（昨年度165名）の参加があった。</p>	2. 9
2 教育 普及	学校における博物館の効果的な活用	6	学校利用に対する学習支援の充実を図ります。	<p>【学習支援】 これまでに実施したものは下記の通りである。</p> <p>《民話出張授業》 多賀城民話の会の協力を得て、これまでに小学校2校4クラス(約90人)を対象に民話授業を実施した。地域の民話や言い伝えを取り上げることが可能で、学校側からも概ね好評価を得ている。《その他出張授業》 仙台第一高等学校SSH合同巡検ガイダンス(1学年320名) 古川黎明中学校土曜塾(1～3学年120名)《館内授業》(展示解説除く) 小学校社会科研修会(県内社会科教員15名) 高崎中学校地域学習(180名)予定《体験授業》 名取館腰公民館からの依頼に応じ「洞窟壁画体験学習」を実施した(小学生8名)《職場体験》 学校からの依頼に応じ、10月に中学校4校、高等学校1校の職場体験を実施する。実施にあたっては見学や解説の時間を減らし、体験活動を中心に内容・日程を組み立てる。</p>	3. 1
3 調査 研究	東北の歴史・文化等の調査研究推進、その成果の積極的展示公開、他の博物館・研究機関等と	7 (重点)	研究テーマ・目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	各研究分野ごとに調査研究・成果公開の予定を明確にした事業計画を策定し、年度当初の館員会議、学芸会議で提示し館員間で共有している。各分野での調査研究および処理作業は順調に進捗しており、必要に応じて随時、成果と課題についての議論・総括も実施している。これらの成果は、次年度の研究計画に反映させる予定である。	2. 7

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

	の連携	8	展示や教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究をさらに推進します。	<p>展示技術や教育普及等に関わる研修会・イベント等への参加、事例研究等を推進し、展示・教育普及の技術向上に努めることを目標としており、下記事業を実施、または参加した。</p> <p>(企画部) 宮城県博物館等連絡協議会研修会企画運営／共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」(主宰：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館)参加／棚倉町里山子ども育成プロジェクト事業』『ひよこミュージアム』参加／東北地区博物館実務担当者会議参加予定／</p> <p>(学芸部) 文化財担当者専門研修「保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程」・博物館学芸員専門講座等に職員を派遣する。また、資料の取扱い、保存・管理の基本的事項について、館員間での情報共有を目的として学芸会議等での報告・協議を積極的に行っており、12月には報告・勉強会も実施する。</p>	2. 6
		9	外部資金の導入・外部機関との連携をさらに推進します。	<p>科学研究費に2件応募し、1件採択された(基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」)。採択済みの継続課題も1件ある(基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」)。また、平成30年度の新たな科研費獲得に向けて応募の準備を進めている(11月2日までに取り纏めて一括電子申請予定)。</p> <p>文化庁の文化遺産総合活用推進事業(身近な文化遺産を通じた地域再発見事業)、地域の核となる美術館・博物館支援事業(寺社と共働した「地域のタカラ」活用事業)、被災ミュージアム再興事業(被災資料修理事業)の事業費を獲得した。</p> <p>国や地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等と連携して調査研究を推進している。成果は特別展や企画展、各種講座、講演会、研究紀要などの刊行物等での公開を進めている。</p> <p>「民話を聞く会」「民話をかたろう」など地域の団体等(利府民話の会・多賀城民話の会)と連携した事業も実施している。</p>	3. 2
4 資料の収集・保管・活用	東北の歴史・文化等に関わる資料の系統的収集と積極的活用	10	各分野ごと、収集方針に基づき計画的な資料収集を行います。	<p>県の美術資料購入基金の活用について、主務課経由で、所管の生涯学習課と協議しており、その現況報告および活用方法等について諮るため東北歴史博物館協議会資料収集専門部会を3月に開催する。資料収集に向けて、資料調査・情報収集活動を展開している。現況では、資料収集計画に基づいて工芸指導所関連の民俗資料2件110点などの収集を進めている。また、「榎戸コレクション」の追加寄託(11点)を受け入れ(10月28日予定)、1月から開催するテーマ展示室1「埴輪」展に活用する方向で準備を進めている。「杉山コレクション」の追加寄贈についても受け入れの方向で調整・調査が進捗している。</p>	2. 5
		11	収蔵施設的环境整備を促進します。	<p>浮島収蔵庫の今後の改修等の方針について主務課の文化財保護課と継続協議している。現状について情報共有し、逼迫した課題である収蔵施設の整備について、文化財保護課が重点懸案事項に掲げ、教育庁内での協議も進めている。</p> <p>新たに施設が整備されるまでの間、一層の環境改善を行い、収蔵場所の確保に努めており、本年度は文化財保護課から考古資料約2,200箱の移管を受け入れる予定である。その一環として、安価で容易に行える収蔵空間構築法について、平成28年度に獲得した科学研究費(平成30年度まで)を用いて研究を進めている。</p>	2. 8

		1 2	さまざまな機会をとらえ、収蔵資料の公開を促進します。	登録作業を推進し、画像資料(87点)、図書資料(1,261点)等を新規登録した。また実物資料については、文化財保護課からの移管考古資料約2,200箱、民俗資料約110点等の収蔵・登録を年度内に実施する。 保呂羽村役場文書のマイクロ化および目録作成も進めており、ホームページ上で新たに資料目録を3月末に公開する。	2. 7
5 情報の 発信	当館の存在や活動・事業の内容等の積極的な発信	1 3	分かりやすいアクセス情報の提供を図ります。	観覧者が多い特別展開催期間中は多賀城市と塩釜警察署の許可を得て、市内11か所に案内表示を誘導と広報を兼ねて設置した。	2. 9
		1 4	宮城県施設であることを強調しながら、多賀城市及び近隣市町との連携強化を図ります。	近隣市町(多賀城市、塩竈市、七ヶ浜町、利府町、松島町)へ当館催事情報等の広報誌への掲載依頼を定期的、継続的に行った。 多賀城市主催の「あやめ祭り」を後援したほか、特別展「漢字三千年」では、多賀城市、JR多賀城駅主催の催事「ちいさな旅」に協力し、特別展の観覧割引を実施した。さらに、8月には、多賀城市等が主催した「復興への祈り多賀城万灯会」の実施にあたって会場を提供したほか、10月には「史都多賀城万葉まつり」に共催として企画段階から関わり、運営及び当日の進行にも幅広く協力した。	3. 1
		1 5	館のロゴの検討を行います。	ロゴの制定方法について、素案を作り班内で検討を行った。年度末までに制定までのスケジュールを策定する。	2. 2
		1 6	広報の手段と方法を再検討します。	各種発送業務を昨年度から引き続き検討し、発送先、部数、発送方法等を精査した。 特別展については、その内容を踏まえ、客層となりうる団体等に情報が届くよう広報を工夫したほか、より多くの人の目に触れるよう県庁1階のパネル展示やKoboパーク宮城の大型ビジョンでの動画CMも引き続き行った。ホームページの掲載では、当館のホームページはもとより、県、県教育委員会、みやぎFree Wi-Fiポータルサイトにも情報提供を行った。	2. 9
	1 7	他館と連携した広報を行うとともに、館内掲示物の充実を図ります。	宮城県美術館と連携して、特別展の相互割引のほか、展示や催事の広報を互いに行った。また、第二管区海上保安本部主催による地元塩釜港の発展の様子を紹介したパネル展示や宮城県公文書館の昔の絵図、地図を紹介した企画展を実施した。 館内掲示については、来館者が見やすいように色使いを工夫するなど動線表示等を改めた。	3. 0	
	インターネットを活用し速やかで効果的、魅力的な発信	1 8	ホームページの充実を図ります。	トピックスでは30件、展示8件、催事12件、その他5件、計55件の情報更新を行い、できる限り早くきめ細かな情報掲載に努めた。	2. 8
	1 9	WEBや電子メールを活用した事業の促進を図ります。	ツイッターやフェイスブックについては、館内情報システムの保守業者の意見等を聞きながら課題や問題点を整理している。システム及びシステム保守の面で変更が必要となる恐れがあること、それに伴う予算の問題等があることから、対応可能かどうか今後検討する。メールの活用については、各種講座の申込みをメールで行い、利用者の利便を図った。	2. 8	

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

6 県民 参加	博物館運営における来館者ニーズの十分な反映	20	来館者のニーズの把握に努めます。	多くのアンケート結果が得られるよう次回特別展の招待券を抽選でプレゼントするアンケートを実施した。加えて、学校団体へのアンケートも継続し、来館者からの料金や展示内容、施設や運営面等に関する要望や意見を幅広く収集した。さらに、寄せられた意見等についてはまとめて、職員回覧をし館内で共有した。	3.0
		21	来館者のニーズへの対応を図ります。	特別展アンケートの結果をもとに、来館者が見やすいように館内の動線表示やサインを工夫し、来館者の要望に対応した。	3.0
	博物館への県民参加を、積極的に推進	22	館内ボランティア業務の検討を行います。	博物館ボランティア：メンバーとの意見交換を行った。ボランティアメンバーの多くは今野家での解説活動を中心に考えており、その他の博物館事業等に対しては、協力内容としての認識が希薄であった。今後も博物館運営に対して友好的に協力していただけるよう、意思疎通を図っていきたい。館内ボランティア業務については現在、整理中である。 大学生ボランティア（臨時）：東北学院大学、宮城学院大学にて募集説明会を実施した。また、東北福祉大学ボランティア支援課に赴き、体験イベント等における大学生ボランティア参加に対する協力を依頼した。ちなみに春は22名、秋は30名の登録があり、円滑な運営に必要な人数を確保することができた。	3.0
		23	博物館友の会の充実を図ります。	友の会の各種企画（歴史講座、歴史探訪会、会員交流会、体験教室、バックヤードツアー等）の立案に関わり、実施においては会員とともに連絡調整や運営、企画によっては講師としてなど、様々な形で支援、協力している。 また、各特別展開催に際し、前日の内覧会開催に協力している。 (10/12 現在 484 会員 (787 人) 過去最大人数)	3.3
		24 (重点)	大学等学校単位での利用の促進を図ります。	7月に館内で決定した事業内容について、8月に財政課に説明を行った。財政課から質問、資料要求があった点については、9月に回答している。なお、財政課から事業実施の回答が得られれば、平成30年度当初からの実施に向けて、大学等への周知及び参加の勧誘を行うこととしている。	3.1
7 施設 の整 備・管 理	利用しやすい施設・設備環境に向けた検証と改善	25	施設設備整備検討委員会を継続実施し、現状の再検証と館としての改善を、トータル的に検討実施します。	施設整備検討委員会を継続開催し、利用者の安全と利便性向上を考えた施設設備改修計画の再検討と見直しを進めた。 【前年度予算繰越事業】 ○空調配管等改修工事 ○自動火災報知器更新工事 7月までに完成した。 【本年度予算事業】（営繕課・設備課執行委任工事） 館内照明改修に関しては、次年度開催の東大寺展に向けて特別展示室を集中的に改修できるよう、工事箇所の変更などにより予算の調整を図った。 設備課に執行依頼して12月のメンテナンス期間を中心に施工、3月までに完了させた。 上記以外の下記工事についても計画どおり年度末までに完成させた。 ・設備課（電気設備班） ○外灯改修（LED可） ○監視カメラシステム更新 ○浮島収蔵庫ハロン消火設備更新 ・設備課（機械設備班） ○冷温水機オーバーホール ・営繕課（営繕第二班） ○今野家住宅母屋屋根葺き替え（H29は設計のみ） 今後は次年度以降の施設設備改修計画の検証を図り、当初予算要求に反映させる。	2.9

		26	博物館資料の適切な保管環境の維持確保に努めます。	施設保守管理者と連携し、温度・湿度等資料保存環境の維持を図るため関連機器の維持保全と故障等があった場合は適切な対応に努めることとしており、今年度は蒸気ボイラー一基増設と自動火災警報器の不良受信機の交換を行った。	3.0
	障害者等が安心して利用できる環境整備	27	障害者等へ適切に対応が行えるよう努めます。	車椅子の利用希望者には、インフォメーション・情報サービス班・防災センターと連携し、スムーズな入館ができる体制整備に努め、対応した。 今後もアンケートなど利用者の意見を活かし、障害を持った来館者に対し適切な支援ができるようハードとソフト両面から適切に対応する。	3.0
		28	障害者対応設備の充実が図られるよう努めます。	障害者（高齢者）が当館を利用する際、安全に、安心して快適に利用できる施設設備であるかの検証を行い、さらにきめ細やかな対応ができるよう環境整備に努めていくこととしており、今後は乗り心地の良いノーパンクタイヤの車イスに順次交換していく。	3.0
8 組織・人員	効果的・効率的な業務運営ができる組織運営	29	効率的な事業運営が確保される職員配置の検討を行います。	博物館業務については、東北・県内の基幹博物館としての役割や震災支援、施設の老朽化対応などから職員の業務量や職員への期待度が年々増している。今年度も外部資金を獲得できたので、それを有効活用し補助作業員として臨時職員1名を配置した。業務運営上の支援については、部班長会議等での情報交換で役割を決め支援対応をとっている。また、中長期目標達成推進委員会で目標達成進捗状況の確認を行い、限られた職員数の中で効率的な事業運営が確保できるよう調整していく。	2.6
9 東日本大震災対応	県内の文化財レスキュー活動のリードと推進	30	県立博物館として、県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。	県内の被災文化財・資料のクリーニング・安定化処置、保管施設の環境調査・管理支援、資料の活用支援などを継続して実施しており（南三陸町、石巻市、多賀城市、亶理町等）、資料のクリーニング・安定化処置等は目標値を上回るペースで進捗している。 また、文化財保護課の震災復興発掘調査に引き続き職員1名が通年で協力にあたって成果を上げており、復興調査で出土した遺物の保存処理（山元町の金属製品等）も受託し、処理を進めている。 さらに、宮城県被災文化財等保全連絡会議の前年度未解散を受け、元代表幹事・事務局として、今後の情報共有と支援体制のあり方についても検討している。	3.2
		復興祈念の展示事業の推進、震災や被災文化財の調査研究	31	復興祈念の展示を開催し、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。	「被災地で開催」という、フランス企画元の求めに応じ、世界巡回展「世界遺産ラスコー展」を開催した。 来年度開催の復興祈念特別展「東大寺展」準備作業を行っている。
	32	震災と復興の歴史及び被災した有形文化財や民俗芸能等の無形民俗文化財の現状や復興の様子など、震災と被災文化財に関する調査・研究を進め、展示や映像として公開します。	1と連動させながら総合展示室リニューアルに向けて作業を進めている。  平成26年度から「歴史的災害展示研究」として研究分野横断で取り組んでおり、東日本大震災の経験を踏まえて歴史的に繰り返されてきた災害の実態を紹介し、防災意識も高める新たな展示構成を構築して総合展示のリニューアルを目指している。 今年度は、今後3年間の科学研究費（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得したことから、その3年間の活動方針を決める会議（第13回）を5月に開催し、その後は各分野で調査研究を進めている。1月には本年度の研究成果を報告する発表会を開催する。 また、平成30年度まで科研費を獲得している収蔵空間構築法（基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」）に関する調査研究の一環として、展示環境や手法についても検討を進めている。	2.9	
総合評価					2.9



Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

平成25年度～平成29年度中長期目標達成自己評価変遷

※ 評価基準 4：達成 3：ほぼ達成 2：やや不十分 1：不十分

評価項目	活動方針	達成目標No.	評価視点（目標値）	自己評価変遷					
				H25	H26	H27	H28	H29	5年平均
1 常設展示・企画展示	何度も訪れたいくなる常設展示	1	総合展示室のリニューアルの方向性を明らかにできたか。	2.2	2.4	1.9	2.8	2.6	2.4
		2	テーマ展示室の充実が図られたか。	2.9	3.2	2.9	3.1	2.8	3.0
	利用者の要望をとらえ、時宜を得た特別展示	3	利用者に魅力的な特別展が行われたか。	2.9	3.6	3.2	3.0	3.3	3.2
		4	外部巡回展を積極的に誘致できたか。	2.6	3.5	3.4	3.6	3.5	3.3
2 教育普及	多様で親しみやすく、参加したいくなる教育普及事業	5	県民のニーズや興味関心をつかみ、充実が図られたか。	2.9	3.2	2.7	2.9	2.9	2.9
	学校における博物館の効果的な活用	6	学校の利用に対する学習支援の充実が図られたか。	2.7	3.4	3.0	3.0	3.1	3.0
3 調査研究	東北の歴史・文化等の調査研究推進、その成果の積極的展示公開、他の博物館・研究機関等との連携	7	研究テーマと目的を明確にし、成果を積極的に公開しているか。	2.3	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6
		8	博物館学的研究を推進しているか。	2.3	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6
		9	外部資金を獲得し、他機関との共同調査・研究を進めているか。	2.5	3.1	3.1	3.2	3.2	3.0
4 資料の収集・保管・活用	東北の歴史・文化等に関わる資料の系統的収集と積極的活用 資料の特質に応じた保存・管理と後世への継承	10	各分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な収集ができたか。	2.2	2.5	2.6	2.4	2.5	2.4
		11	収蔵施設的环境整備が図られたか。	2.3	3.1	2.6	2.4	2.8	2.6
		12	収蔵資料のデータベースの充実と収蔵資料の公開を推進したか。	2.4	3.0	2.9	2.9	2.7	2.8
5 情報の発信	当館の存在や活動・事業の内容等の積極的な発信	13	分かりやすいアクセス情報の提供が図られているか。	2.8	3.1	2.9	2.8	2.9	2.9
		14	多賀城市や近隣市町の観光行政や教育機関及び民間企業等と連携強化が図られたか。	2.7	3.0	2.7	2.8	3.1	2.9
		15	館のロゴの検討は十分になされたか。	1.8	2.1	1.9	2.0	2.2	2.0
		16	広報手段・方法の見直しにより効果的な広報に努めているか。	3.2	3.5	3.1	2.9	2.9	3.1
		17	他館と連携した広報や館内掲示物の充実が努めているか。	3.4	3.5	3.3	2.8	3.0	3.2
		18	ホームページの充実が図られ、活用度の高い魅力的なものとなっているか。	2.8	3.0	2.6	2.6	2.8	2.8
19	インターネットを活用し速やかに効果的、魅力的な発信	19	WEBや電子メールを活用し事業の促進が図られたか。	2.3	2.8	2.6	2.8	2.8	2.7

6 県民 参加	博物館運営における来館者ニーズの十分な反映	20	来館者のニーズ把握をしているか。	2.5	3.0	3.0	2.7	3.0	2.8
		21	来館者のニーズ分析による対応がなされているか。	2.5	3.0	2.9	2.8	3.0	2.8
	博物館への県民参加を積極的に推進	22	館内ボランティア業務の見直しを図り、ボランティア活動を推進しているか。	2.5	2.9	2.7	3.0	3.0	2.8
		23	友の会の充実のため育成支援に取り組んでいるか。	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.1
		24	大学等学校単位の利用促進が図られているか。	2.4	2.8	2.3	2.4	3.1	2.6
7 施設 の整 備・ 管理	利用しやすい施設・設備環境に向けた検証と改善	25	施設整備計画に基づいた計画的な改善が図られているか。	2.3	3.0	3.1	2.9	2.9	2.8
		26	博物館資料の保管環境維持に努めているか。	2.9	3.1	3.3	3.1	3.0	3.1
	障害者等が安心して利用できる環境整備	27	適切な対応ができるためのスキルが整っているか。	2.5	2.7	3.0	3.0	3.0	2.8
		28	障害者対応施設・設備の整備は十分か。	2.6	2.6	2.9	2.9	3.0	2.8
8 組 織・ 人員	効果的・効率的な業務運営ができる組織運営	29	現状の組織運営の検証はなされているか。	2.2	2.6	2.4	2.4	2.6	2.4
9 東日 本大 震災 対応	県内の文化財レスキュー活動のリードと推進	30	他機関との連携協働を図り、被災資料の救出・保全・修理を推進し、情報公開に努めているか。	3.4	3.3	3.3	3.4	3.2	3.3
		31	展示は、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助となっているか。	3.0	3.1	3.0	2.9	2.9	3.0
	復興祈念の展示事業の推進、震災や被災文化財の調査研究	32	調査研究を行い、展示や映像として公開への取組は行われているか。	2.4	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8
総合評価				2.7	3.0	2.8	2.7	2.9	2.8

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

東北歴史博物館中長期目標達成自己評価（平成25年度～平成29年度）

1 常設展示・企画展示

No.1・2の常設展示事業は“何度も訪れたくなる魅力的な常設展示”を活動方針とし、「総合展示室のリニューアル」「テーマ展示室の充実」を平成30以降まで継続する長期目標に設定して取り組んだ。総合展示室については、この5年間でリニューアルの構想段階を終了し、今後は実施に向けた動きを進めていく。テーマ展示室については、新企画の導入、展示構成のリニューアルを課題に取り組んだ。その数値的実績としては、近年、27,313人(H21)→26,269人(H22)→24,431人(H24)と減少傾向にあった常設展観覧者数（東日本大震災発生後の平成23年を除く）が、平成25年度以降は、26,269人(H25)→27,173人(H26)→30,904人(H27)→29,664人(H28)と増加傾向を示している。（※平成28年度は3月25日から特別展「世界遺産ラスコー展」開催のため、特別展にカウント）。

No.3・4の特別展示事業は“利用者の要望をとらえ、時宜を得た特別展示”を活動方針とし、「魅力的展示の企画・運営」「巡回展誘致」を中期の目標として設定し取り組んだ。県民ニーズに沿った自主企画展の選定、そして4つの巡回展開催により、観覧者数は増加し、今年度は平成19年度以来、5.5万人を大きく超える見込みである。来年度は「東大寺と東北」展開催を控えており、更なる観覧者数の増加を見込んでいる。

なお、常設展観覧者数の増加については、総合・テーマ各展示室での取り組みの他、平成26年度以降、常設展料金で観覧できる「企画展」を開催した効果も大きく、今後も積極的に企画立案していきたい。

上記事業における各取り組みの詳細は下記の通りであるが、当初設定した目標はすべての項目において概ね達成できたものと考えている。

活動方針	達成目標No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
何度も訪れたくなる常設展示を目指します。	1	H25～H29 総合展示室の充実とリニューアルを目指します。	<p><b>【実績】</b> 「リニューアルの方向性を明確にする」ことを課題として取り組んだ。即応可能なキャプション類の更新作業はほぼ終了し、大規模な展示リニューアルの方向性についてもこの5年間の検討の中で、東日本大震災を経験した県立博物館としての役割を重視し、「災害史を中心テーマとした展示コーナーの追加」を館内合意した。それらの具体的内容、展示方法についても博物館学的研究を推進する学芸部の災害展示ワーキンググループとの連携の中で検討し、今年度初めに、今後のたたき台としての展示構成及びレイアウト案を作成した。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については、平成25～27年度は検討段階のため、実績が明瞭でなく1.9～2.4という低い評価であったが、平成28・29年度は方向性が明確化され2点台後半の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>リニューアルの方向性が明確化された。</p>
	2	H25～H29 テーマ展示室の充実を図ります。	<p><b>【実績】</b> 「新企画の立案・実施」「新資料追加や展示再構成による展示の更新」を課題として取り組んだ。新企画展示としては、当館所蔵の被災資料を扱った「修復された被災文化財」シリーズ、文化財レスキューによって救出・修理された他館の資料を紹介した「よみがえった被災文化財」シリーズ、その他「福應寺毘沙門堂養蚕信仰絵馬」「動物の民俗」「今野家住宅の復元と修理」「郷土玩具の世界―手島コレクション―」等の展示を企画・開催した。既存のテーマについても「仙台藩の工芸―刀剣と甲冑―」「仙台の近世絵画」「宮城の文化―高層の墨跡―」「信仰の切り紙」等で新資料追加、再構成、こども向けリーフ作成等のリニューアルを実施した。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.8～3.2、平均で3.0の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>新企画の展示や既存テーマの再構成やリニューアルを実施した。</p>

利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。	3	H25～H29	魅力的な展示企画の充実を図ります。	<p>【実績】 目標設定年度である平成24年度は、開館から13年が経過し、さらには前年度に東日本大震災が発生するなど、来館者数の減少が顕著な状況にあった。本目標は、これを打開すべく、多くの人々が興味を持ち館に訪れるような特別展開催を取り組みの中心に据えたものである。まず、これまでの特別展観覧者アンケート等を分析した。その結果、「東北」「家族」「外国」といったテーマに来館者の興味・関心が集中している事が明らかとなった。そこで特別展のテーマもそれに即したものを優先的に選択した。また、4で述べるように、県内マスコミとのタイアップによる大型巡回展も積極的に誘致・開催することで、これまで当博物館に足を運ぶことの少なかった新規の来館者開拓を行い、新たなリピーターの獲得を目指した。さらには、各展覧会で子ども達にもわかりやすい展示となるよう「子ども向けキャプション」を積極的に設置した。これらについては観覧者のみでなく、タイアップしたマスコミ関係者からも好評、高い評価を得ている。その他、中長期目標の重点課題である「子どもプロジェクト」としての展示活動も実施している。平成28年度の「工芸継承」展では、高校生・大学生・若手工人によるワークショップと参加型展覧会の企画・運営を行った。同じく「世界遺産ラスコー展」では、関連イベントとして小学生を対象とした体験教室・ワークショップを開催した(No.5・6参照)。数値的結果として特別展観覧者数をみると、平成21年度は26,048人、平成22年度は20,666人、平成24年度は22,111人となっており、特に平成22年度は開館以来過去最低を記録する危機的状況にあった(※東日本大震災発生後の平成23年を除く)。目標設定後の平成25年度以降は、平成25年度23,369人、平成26年度39,287人、平成27年度48,403人、平成28年度40,760人、今年度も「世界遺産ラスコー展」「漢字三千年」といた大型巡回展2つを開催したことで、9月末時点で既に53,899人と大幅な増員を達成している。また、特別展のみでなく、特別展が開催されない期間中には、「レディーガガティーカップ」「重要文化財考古資料指定第1号 武人埴輪」「救出されたおひな様」等のトピック展示を特別展示室で実施し、平成26年以降は前述の通り、企画展開催を積極的に推進し、平成26年度は「みんなくおもちや博覧会」「大学は宝箱! 京都・大学ミュージアム連携の底力 出開帳 in 東北」、平成27年度は「ヒマラヤへの憧れ」「2020東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」、平成28年度は「大白隠展」を開催した。なお、これら特別展・企画展開催にあたっては、外部資金獲得のため文化庁補助事業にエントリーした。過去5年間の採択実績は下記の通りである。(他館がエントリーし、当館に巡回して開催した共催事業を含む。)【平成25年度 被災ミュージアム再興事業】特別展「神さま仏さまの復興」【平成26年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業】特別展「みちのくの観音さま」企画展「大学は宝箱!」【平成27・28年度 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業】特別展「工芸継承」企画展「ヒマラヤへの憧れ」「2020東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」</p> <p>【全職員による評価】 自己評価については、各年2.9～3.6、平均で3.2の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>大型巡回展の誘致や企画展では来館者の興味や関心のあるテーマ設定により、観覧者数が増加している。</p>
	4	H25～H29	外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い県民の来館を推進します。	<p>【実績】 幅広い来館者の利用を目指し、平成20年度開催の「発明王エジソン展」以来、開催されていなかったマスコミ・プロモーター等の提案による「大型巡回展」誘致を課題として取り組んだ。初年度から積極的にマスコミとの連携強化、情報共有等を図ることで関係構築に努め、その成果として、平成27年度に「医は仁術」展、平成28年度は「アンコールワットへのみち」展、平成29年度には「世界遺産ラスコー展」「漢字三千年」を誘致・開催した。これらの展覧会による観覧者数はのべ115,300人を記録している。また、こうしたマスコミ・プロモーター等との協働実績、関係強化により、平成30年度には多賀城市、河北新報社、仙台放送局、日本経済新聞社との共同企画による大規模特別展「東大寺と東北」展を単独開催する運びとなった。その他、文化庁の企画巡回展である「日本発掘」を平成26年度、「日本のわざと美」展を平成27年度に開催している。</p> <p>【全職員による評価】 自己評価については、各年2.6～3.6、平均で3.3の評価となった。</p>	<p>達成</p> <p>大型巡回展を誘致し、観覧者数の増加につなげた。</p>

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

2 教育普及

No.5の教育普及事業は、“多様で親しみやすく、参加しなくなる教育普及事業”を活動方針とし、「利用者ニーズの把握、各企画内容の充実」を中期の目標として設定し取り組んだ。また、これらの内、こども向け事業については、No.6学校連携事業とともに、重点課題である『こどもプロジェクト』の一環として積極的に企画立案し、取り組んだものである。体験イベントは2,000人前後の参加者があり、講座・教室・ワークショップ等も一部に定員を超える応募があるなど概ね好評を得ている。今後も継続してその充実を図りたい。

No.6の学校連携事業は、“学校における博物館の効果的活用”を活動方針として、「学校利用促進・学習支援充実」を中期の目標に設定して『こどもプロジェクト』に位置づけ、重点的に取り組んだ。出張授業、展示室での学習支援、職場体験など取り組みは多岐にわたり、教員・生徒から好評を得ている。また、歴史教育における県の防災教育施設として整備した、こども歴史館「歴史と災害学びのシアター」は平成28年度から運営を開始することができた。

上記事業における各取り組みの詳細は下記の通りであるが、当初設定した目標はすべての項目において概ね達成できたものと考えている。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
多様で親しみやすく、参加しなくなる教育普及事業を目指します。	5	H25～ H29 各種講座・教室や体験イベントの開催に際し、県民のニーズや興味関心をつかみながら、質的な充実を目指します。	<p><b>【実績】</b> 各種講座、体験教室や体験イベント等教育普及事業の実施に際し、満足度の高い内容となるようその質的な充実を目指して取り組んだ。主な実績は下記の通りである。</p> <p><b>【講座】</b>館長講座、史料講読講座、れきはく講座、民俗芸能講座、体験考古学講座等の継続事業については毎年好評を得ており、特に、古文書講座、史料講読講座では募集定員を大きく上回る受講希望者があった。その他、平成26年にはテーマ展連携企画「地域の文化財に関わる講座」、平成27年には平曲上演会連携企画「平曲講座」を実施した。<b>【多賀城めぐり】</b>年10～12回実施の通常事業の他、平成25年度からハイキング形式の番外編「お弁当を持って花と歴史のハイキング」を実施し、参加者の好評を得ている。<b>【その他】</b>県内外の各種団体、施設等からの要望に積極的に応じ、歴史等に関する講座、講演、体験教室を館内外で実施した。</p> <p>◎こどもプロジェクトとしての教育普及事業◎  <b>【体験教室】</b>春・冬に開催する体験教室では、これまでの継続事業の他、「タナバタの星をみよう」「今野家で干し柿作り」「けずりひを作ろう」「鳥ワナを作ろう」「漢字のハンコを作ろう」「クジラのひげでペンダントを作ろう」「石器で描こう」等、多くの新企画を導入して充実を図った。<b>【体験イベント】</b>春・秋・冬の年3回開催するこのイベントは毎回のべ2,000人前後の参加者があり、当館の人気行事の一つである。更なる満足度向上を目指し、「新企画導入」や「円滑な運営」を課題に取り組んだ。事業運営の見直し等はこれまでも毎年行ってきたものであるが、平成25年度以降は、イベント版『THMマスターをめざせ!』『漢字のハンコを作ろう』といった新企画の導入、大学生ボランティアの増員、人気プログラム待ち時間改善等のための受付方法の見直し、こども達にわかりやすいチラシづくり、むすび丸の登場等を実施した。</p> <p><b>【ワークショップ】</b>「こども民話体験事業『ふるさとの民話を語り継ぐ』(H22～)／「タイムスリップ!縄文・発掘体験教室」(H26)／「防災アウトドア術」(H27)／「洞窟壁画体験教室」(H28)、「現代に活かす伝統の手わざ」(H28)。なお、上記ワークショップ事業については「文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」等の文化庁補助事業として採択され実施したものである。</p> <p><b>【小学生向けスタンプラリー「THMマスターをめざせ!」】</b>平成25年度から小学生を対象にしたスタンプラリーを平成常設展示や体験教室、体験イベント、特別展と連動させて実施している。本格実施となった平成26年以降は毎年3,000人以上の参加者があり、9月末現在で59人がTHMマスター達成者となっている。こどもの博物館利用増と満足度向上に寄与していると考える。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>多様な事業展開で多くの参加があり、参加者から好評であった。</p>
			<p><b>【評価理由】</b> 自己評価については各年2.7～3.2、平均で2.9の評価となった。</p>	

<p>学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。</p>	<p>6</p>	<p>H25 ～ H29</p>	<p>学校利用に対する学習支援の充実を図ります。</p>	<p><b>【実績】</b> 中長期目標の重点課題「こども利用促進に向けた取り組み（こどもプロジェクト）」の中心事業として取り組んだ。主な実績は下記の通りである。</p> <p><b>【学習支援】</b> 《民話出張授業》多賀城民話の会の協力を得て、平成25年度はプログラムの検討と試験授業を行い、平成26年度から本格実施した。4年間で県内小学校28校、小学生1,823人が参加した。 《体験授業》平成26年度「おでかけ発掘キャラバン」：各学校を会場に、県内5つ小学校、計171人が参加した。平成28年度「洞窟壁画体験教室」：当館と塩竈市杉村博美術館を会場に、多賀城市・塩釜市の8つの小学校、4・5年生の計452人が参加した。 《その他の出張授業》県内小中高校からの要望に積極的に応じ、歴史等に関する授業を実施した。 《総合展示室学習シート改訂・追加》小学生の総合展示室見学時の活用を想定し作成した学習シートを改訂・追加した。 《職場体験》中学生・高校生を対象に、毎年5校程度の依頼に応じ、生徒を受け入れている。学芸員の仕事を体験する時間を増やし、解説員業務などと合わせて体験を重視したプログラムを実施している。 《博物館実習》この5年間で約42大学、67人を受け入れた。講義・見学・分野別専門実習を6日間のプログラムで実施している。 《連携大学院「文化財科学」》多賀城跡調査研究所とともに、文化財科学専攻分野を担当し、学生の教育および研究の指導に当たっている。 なお、《民話出張授業》《体験授業》については「文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」等の文化庁補助事業として採択され実施したものである。</p> <p><b>【こども歴史館リニューアル】</b>歴史教育に基づく防災教育を新たな指針に位置づけた「新インタラクティブシアター基本構想」に基づき、「防災を学ぼう」と「東北の災害の歴史」と題した災害史と防災を学ぶためのコンテンツを追加し、「歴史と災害 学びのシアター」としてリニューアルして平成28年度から運用を開始した。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.7～3.4、平均で3.0の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>こども利用促進に向けて出張授業や体験授業等の学習支援を実施した外、こども歴史館のリニューアルを行った。</p>
----------------------------------	----------	--------------------------	------------------------------	---	--

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

3 調査研究

各研究分野では、研究テーマを吟味し、成果を研究紀要・展示・各種講座・報告書・学術誌・学会発表など様々なかたちで公開に努めてきた。また博物館学的研究は、展示方法や資料の保存・管理など共通テーマについて研修・勉強会を重ね、外部研修にも積極的に参加してその情報を館員間で共有し、知見を深めている。これらの取り組みは、自己評価が示すように一定の成果を上げていると考えられるが、自由意見で「調査研究業務が活発でないように感じる」とも指摘されおり、さらに努力が必要である。長期的な取り組みが求められる課題が多い中で、どのように成果を示していくのかも大きな課題である。

一方、外部資金の獲得については、文化庁の補助事業や科学研究費補助金等を積極的に申請し、複数の事業で採択を受けて大きな成果を上げている。今後さらに採択率向上を目指し、研究の質の向上を推進していく。また、他機関と連携した調査・研究活動のさらなる推進を図る。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価	
東北の歴史文化等に関する調査研究を推進し、その成果を積極的に展示公開します。また、他の博物館・研究機関等との連携を深めます。	7	H25, 26, 27  H28, 29	<p>研究のテーマや目的をより明確化し、評価を行う体制を整えます。</p> <p>研究テーマ・目的を明確化し、成果を積極的に公開します。</p>	<p>【実績】 研究分野ごとに年度単位で調査研究・成果公開の予定を明確にした事業計画を策定し、年度当初の館員会議、学芸会議で提示し館員間で共有してきた。この五ヵ年、各分野で調査研究および処理作業を進め、必要に応じて随時、成果と課題についての議論・検討も実施してきた。研究成果は展示や各種講座、研究紀要などの刊行物等で公開し、さらに各年度末に研究分野ごとで成果と課題を総括し、次年度の研究計画に反映させている。</p> <p>【全職員による評価】 自己評価については各年 2.3～2.7、平均で 2.6 の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>調査研究・成果公開の予定を明確にした事業計画を策定した。</p> <p>研究の成果を、展示・各種講座・研究紀要などで公開した。</p>
東北の歴史文化等に関する調査研究を推進し、その成果を積極的に展示公開します。また、他の博物館・研究機関等との連携を深めます。	8	H25～ H29	<p>展示や教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究をさらに推進します。</p>	<p>【実績】 平成 25～27 年度には、特別展の開催に合わせてその都度展示方法研修会を実施し、展示技術の向上に努めた。また、研究分野を横断する歴史的災害展示研究会を立ち上げ、主として災害に係わる展示手法についても検討を重ねてきた。平成 26 年度には、国立民族学博物館の可搬型展示ケース（TDS）の開発および展示に協力したほか、学校の出前授業に活用可能な発掘体験キット（土器・石器モデル、模擬土等から構成）を開発するなど大きな成果を上げている。</p> <p>また、積極的に外部研修等へ参加して個々のスキルアップを図ると共に、報告・勉強会を開催してその情報を館員間で共有し、全体の技術向上に繋げた。各年度に職員が参加した研修を記す。</p> <p>【平成 25 年度】 I P M（総合的有害生物管理）に関する研修等</p> <p>【平成 26 年度】 ミュージアムエデュケーター研修、I P M（総合的有害生物管理）に関する研修等</p> <p>【平成 27 年度】 歴史民俗資料館等専門職員研修、文化財担当者専門研修「建造物保存活用基礎課程」・「保存科学 I 基礎（金属製遺物）課程」等</p> <p>【平成 28 年度】 歴史民俗資料館等専門職員研修、博物館・美術館保存担当学芸員研修等</p> <p>【平成 29 年度】 文化財担当者専門研修「保存科学 II（有機質遺物）課程」、博物館学芸員専門講座（予定）等</p> <p>【全職員による評価】 自己評価については、各年 2.3～2.7、平均 2.6 の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>歴史的災害展示研究会を立ち上げ、展示手法を工夫した。</p> <p>学校の出前授業に活用可能な発掘体験キットを開発した。</p>

<p>東北の歴史文化等に関する調査研究を推進し、その成果を積極的に展示公開します。また、他の博物館・研究機関等との連携を深めます。</p>	<p>9</p>	<p>H25 ～ H29</p>	<p>外部資金の導入・外部機関との連携をさらに推進します。</p>	<p><b>【実績】</b> 外部資金については、文化庁の補助事業を中心に調達してきたが、平成28年度以降は科学研究費補助金（独立行政法人日本学術振興会）を獲得し、大きく調査研究を進展させている。他機関との共同調査・研究面では、多賀城跡調査研究所と共に「東北大学大学院博士課程の教育研究への協力に関する協定書」に基づき、平成8年度から継続して「連携大学院」方式で東北大学文学研究科の文化財科学専攻分野を担当して学生の指導にあたり、大学との連携を図ってきた。また、仏教文化及び美術に関する調査研究では、岩手県や秋田県等の地方自治体と協働し、その資金を活用するかたちでの県外資料調査を継続して実施している。各年度の外部資金獲得と他機関との共同調査・研究の取り組みについては、以下にまとめた。</p> <p><b>【平成25年度】</b> 文化庁「被災ミュージアム再興事業」、「文化遺産地域活性化推進事業」等の外部資金を獲得し、「東日本大震災後の民俗」調査事業、「博学連携による民俗調査」地元還元事業、「観音信仰」調査研究、「大規模災害と広域博物館連携に関する総合的研究」事業などで、国や地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等多くの外部機関と連携した。</p> <p><b>【平成26年度】</b> 文化庁「被災ミュージアム再興事業（3事業）」、「文化遺産地域活性化推進事業（3事業）」等の外部資金を獲得し、「東日本大震災後の民俗」調査事業、「博学連携による民俗調査と調査成果」地元還元事業、「大規模災害と広域博物館連携に関する総合的研究」事業などで、国や地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等多くの外部機関と連携した。</p> <p><b>【平成27年度】</b> 文化庁「被災ミュージアム再興事業（被災資料修理や収蔵環境整備等3事業）」、「文化遺産を活かした地域活性化事業（地域文化財に関わる調査・活用等4事業）」等の外部資金を獲得し、これらの事業を通して地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等多くの外部機関と連携した。</p> <p><b>【平成28年度】</b> 文化庁「被災ミュージアム再興事業（被災資料修理事業）」、「文化遺産を活かした地域活性化事業（地域文化財に関わる調査・活用等4事業）」、科学研究費（基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」（研究代表：芳賀学芸員）・挑戦萌芽「砂押川・七北田川における現生汽水生種・海生種珪藻の遡上限界」（研究代表：柳澤上席主任研究員）の2事業）等の外部資金を獲得し、これらの事業を通して地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等多くの外部機関と連携した。</p> <p><b>【平成29年度】</b> 文化庁「被災ミュージアム再興事業（被災資料修理事業）」、「文化遺産総合活用推進事業（身近な文化遺産を通じた地域再発見事業）」、科学研究費（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」（研究代表：小谷副主任研究員）および採択済みの継続課題である基盤C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」）等の外部資金を獲得し、これらの事業を通して地方自治体をはじめとする公共機関、県内外の博物館・美術館、大学、民間等多くの外部機関と連携した。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.5～3.2、平均3.0の評価となった。</p>	<p>達成</p> <p>外部資金では文化庁の補助事業のほか、科学研究費補助金を獲得した。他機関との連携では、東北大学と学生指導について連携したほか、他の地方自治体、県内外の博物館等との調査や研究を継続実施した。</p>
---	----------	--------------------------	-----------------------------------	--	--



Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

4 資料収集・保管・活用

資料収集の自己評価は、低評価で推移しており、その最大の要因は資料収集が寄贈・寄託に依存している状態で、資料購入予算が確保できない状態が続いていることにあると考えられる。平成 29 年度末に資料収集方針を再整理して明示したうえで、購入財源の獲得に向けて主務課との協議を推進し、県予算以外の財源や寄贈資料についての情報収集をより一層活性化させたい。

保管スペースの確保については、老朽化した浮島収蔵庫の応急的な環境整備を実施し、当面の保管スペースは確保しているものの、逼迫する収蔵スペースについて、新築・改築や他施設の利用といった抜本的な対策が進展していない。これについても引き続き主務課への働きかけを続けていく。

収蔵資料の公開については、人手が少ない中で多くの資料目録作成・データベース化を推進してきた。今後は、補助人員を確保し、一層の公開推進と資料管理体制の充実を図りたい。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績 及び 全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
東北の歴史文化等に関わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。	10	H25, 26, 27	<p>【実績】</p> <p>資料収集は策定された計画に基づいて資料調査と情報収集を行い、適宜計画を見直しながら展開してきた。しかし、収集は寄贈・寄託に依存しており、資料購入予算を確保できない状態が続いている。その対策の第一歩として、収集計画を再整理し、平成 29 年度末に当館の資料収集方針を広く公開することとした。各年度の収集資料の概略を以下に示す。</p> <p>【平成 25 年度】</p> <p>民俗資料（馬鋏他）3 点、歴史資料（米山村佐々木家文書・石巻市街地図等）212 点の合計 215 点を収集した。また、震災関連資料の収集に向けて情報収集を実施している。</p> <p>【平成 26 年度】</p> <p>考古資料（故林謙作北大名誉教授収集資料等）3 点、民俗資料（門傳家資料・旧工芸指導所関連資料等）974 点、歴史資料（旧公益財団法人みちのく北方漁船博物館財団寄贈資料等）11 点の合計 988 点を収集した。また、「榎戸コレクション」（考古資料）の寄託品（18 点）、今泉前館長寄贈図書、県内市町村が作成している社会科教育副読本（29 市町）等を受納し、登録作業を進めた。</p> <p>【平成 27 年度】</p> <p>考古資料（霞目出土遺物等）1 式、民俗資料（漁撈具等）5 点、歴史資料（宮城県関係絵はがき等）241 点、美術工芸資料（小池曲江筆「寿老人図」等）6 点の合計 253 点を収集した。また、「榎戸コレクション」の追加寄託（1 点）を受納した。</p> <p>【平成 28 年度】</p> <p>考古資料（掌紋付き土板）1 点、民俗資料（ツオーベル家民俗芸能関係記録資料等）5,998 点、歴史資料（畠山家リードオルガン・齋藤家マッチラベル等）5,430 点、文書資料（畠山家仕入れ帳等）979 点の合計 12,408 点を収集した。また、「榎戸コレクション」の追加寄託（17 点）を受納した。</p> <p>【平成 29 年度】</p> <p>現況では、資料収集計画に基づいて工芸指導所関連の民俗資料 2 件 110 点などの収集を進めている。また、「榎戸コレクション」の追加寄託（11 点）を受納し、1 月から開催するテーマ展示室 1「埴輪」展に活用する。「杉山コレクション」の追加寄贈についても受け入れの方向で調整・調査が進捗している。</p>	やや不十分 収集については、資料購入予算が確保できない状況から、寄贈・寄託に依存している。 当館の資料収集方針を広く公開していない。
		H28, 29	<p>各分野ごとに今後の資料収集計画を再構築し、計画的な収集を行います。</p> <p>各分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。</p> <p>【全職員による評価】 自己評価については各年 2.2～2.5、平均 2.4 の評価となった。</p>	

<p>収集した資料の特質に応じて保存管理し後世へ伝えます。</p>	<p>1 1</p>	<p>H25, 26, 27  H28, 29</p>	<p>あらたな収蔵施設、スペースの確保・拡充を図ります。  収蔵施設の環境整備を促進します。</p>	<p><b>【実績】</b> 膨大な資料を抱える当館では、収蔵スペースの整備と確保・拡充が逼迫した課題であり、平成31年度末には浮島収蔵庫の収蔵スペースが飽和状態になることが予想される。この現状について主務課である文化財保護課と情報共有し、浮島収蔵庫の今後の改修等の方針について継続協議している。文化財保護課は、この収蔵施設の整備について平成29年度の重点懸案事項に掲げ、教育庁内での協議を開始した。これと並行して、既存の収蔵施設の環境整備、スペースの確保・拡充にも取り組んでいる。特にこの5カ年は、浮島収蔵庫の雨漏り修繕や高湿期の湿度管理に必要な大型除湿器及び排水ドレン設置工事、新規収蔵プレハブ（土石資料用）の設置（浮島）等の大規模な環境改善を実施した。また、収蔵場所の確保に努める目的の一環として、安価で容易に行える収蔵空間構築法について、平成28年度科学研究費補助金（平成30年度まで）を取得し研究を進めている。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.3～3.1、平均2.6の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成  浮島収蔵庫の収蔵スペースの確保拡充のため、プレハブを設置した。 環境整備のため、屋上防水工事などの修繕工事を施工した。 また、安価で容易に行える収蔵空間構築法について研究に取り組んでいる。</p>
<p>収集した資料の特質に応じて保存管理し後世へ伝えます。</p>	<p>1 2</p>	<p>H25～ H29</p>	<p>さまざまな機会をとらえ、収蔵資料の公開を推進します。</p>	<p><b>【実績】</b> 各研究分野で計画的に資料目録を作成し、データベース化を推進している。年度ごとの登録件数を以下に記す。 <b>【平成25年度】</b> 実物資料では、考古資料の木製品1,396点のデータベースを整備し、前年度文とあわせて計3,238点を登録した。また、文書資料の我妻家文書・中嶋家文書等についてもデータベース化を行い、資料目録をホームページ上で公開した。図書資料（2,028点）の新規登録も実施している。 <b>【平成26年度】</b> 実物資料では、考古資料の大崎市北小松遺跡出土資料等569箱と関連データの登録を行った。また、文書資料の佐々木家文書・奥山家文書等についてもデータベース化を行い、資料目録をホームページ上で公開した。図書資料（1,240点）の新規登録も実施している。 <b>【平成27年度】</b> 実物資料（考古・民俗・歴史資料など988点）、動画資料（民俗資料217点）、画像資料（1,170点）、図書資料（2,524点）等を新規登録した。公開対象の資料については、ホームページ上で資料目録等を公開している。 <b>【平成28年度】</b> 実物資料（考古・民俗・歴史資料など4,388点）、画像資料（118点）、図書資料（2,247点）等を新規登録した。公開対象の資料については、ホームページ上で資料目録等を公開している。 <b>【平成29年度】</b> 9月末現在で、画像資料（87点）、図書資料（1,261点）等を新規登録した。また実物資料については、文化財保護課からの移管考古資料約2,200箱、民俗資料約110点等の収蔵・登録を年度内に実施する。保呂羽村役場文書のマイクロ化および目録作成も進めており、3月末にホームページ上で資料目録を公開する。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.4～3.0、平均2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成  各研究分野で計画的に資料目録作成・データベース化を推進した。</p>

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

5 情報発信

来館者の増加につながるよう広報先の選定や広報手段を検討し、毎年度効率的な情報発信を行った。他館との連携についても、互いに催事の広報や割引を実施したほか、パネル展示や企画展示も行った。ホームページではきめ細かな情報提供を心がけ、積極的な情報発信に努めた。ロゴについては、平成29年度に設置した制定委員会において、年度末までに制定方法案、制定までのスケジュールを具体的に検討する。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績 及び 全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	1 3	H25 ～ H29	分かりやすいアクセス情報の提供を図ります。  【実績】 効果的な案内表示となるよう案内の方法や設置場所等について毎年度検討を重ね、車で来館する観覧者の誘導を行った。また、平成28年3月に開通した多賀城 IC を各種広報物に掲載し、車で来館者に、より分かりやすいアクセス情報の提供に努めた。  【全職員による評価】 自己評価については各年 2.8～3.1、平均で 2.9 の評価となった。	ほぼ達成  車でのアクセス情報を多賀城 IC の開通に合わせ、各種広報物に掲載した。
	1 4	H25 ～ H29	宮城県の施設であることを強調しながら、多賀城市及び近隣市町との連携強化を図ります。  【実績】 近隣市町（多賀城市、塩竈市、七ヶ浜町、利府町、松島町）広報誌への当館催事情報の掲載依頼、多賀城市主催の「あやめ祭り」の後援及び「史都多賀城万葉まつり」の共催など連携強化を図った。平成29年度は特別展開催に伴い、多賀城市や JR 多賀城駅が主催する催事と連携し、相乗効果が増すよう観覧割引を行った。  【全職員による評価】 自己評価については各年 2.7～3.1、平均で 2.9 の評価となった。目標をほぼ達成した結果としてとらえている。	ほぼ達成  多賀城市主催行事の後援・共催や JR 多賀城駅主催の催事との連携に取り組んだ。
	1 5	H25, 26, 27  H28, 29	館のイメージキャラクターやロゴの検討を行います。  館のロゴの検討を行います。  【実績】 平成25年度及び26年度は、他館のイメージキャラクターやロゴの参考調査を実施した。平成27年度にイメージキャラクターをこども歴史館の既存のキャラクター「コロリン」を活用することとした。 平成28年度はロゴの制定に向けて検討を始め、平成29年度に制定方法等を具体的に検討する制定委員会を立ち上げた。平成31年度の開館20周年に合わせてロゴを決定する。  【全職員による評価】 自己評価については各年 1.8～2.2、平均で 2.0 の評価となった。	やや不十分  ロゴ制定までの明確な計画を立てられなかった。
	1 6	H25 ～ H29	広報の手段と方法を再検討します。  【実績】 特別展については、その内容に応じて客層となるような団体等に直接情報が届くよう広報を検討し、実施した。ホームページでの情報発信では、当館のほか、県、県教育委員会でも特別展の広報を継続的に行い、平成29年度はそれらに加えて、みやぎ Free Wi-Fi ポータルサイトでも情報提供を行った。他にも、Kobo パーク宮城の大型ビジョンでの動画 CM や県庁でのパネル展示を継続的に行い、より多くの人に周知した。学校団体に対しては「東北歴史博物館利用説明会」を毎年度実施し、博物館の効果的な利用の仕方について説明した。  【全職員による評価】 自己評価については各年 2.9～3.5、平均で 3.1 の評価となった。	ほぼ達成  特別展の内容に応じて客層となる団体等に直接情報が届くよう広報を検討・実施した。

当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	1 7	H25, 26  H27, 28, 29	マスコミ等への情報提供の強化を図ります。  他館と連携した広報を行うとともに、館内掲示物の充実を図ります。	<p><b>【実績】</b> H25, 26 博物館の紹介を含めた活動内容記事を定期的に寄稿したほか、特別展や催事等の情報提供を行った。 H27, 28, 29 宮城県美術館と連携して、特別展の相互割引のほか、展示や催事の広報を互いに行った。また宮城県公文書館による企画展（パネル展示）や第二管区海上保安本部主催のパネル展示を継続して実施した。館内掲示物については、色使いや表現を工夫するなどして来館者に分かりやすくするとともに、動線についても順路が目につきやすい表示と配置に改めた。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>マスコミ等へ随時、催事等の情報を提供した。効果的になるよう美術館と連携し相互に広報を行った。 また、館内掲示物についても観覧者目線で改善を図った。</p>
				<p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年 2.8～3.5、平均で 3.2 の評価となった。</p>	
インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。	1 8  1 9	H25 ～ H29  H25, 26  H27, 28, 29	ホームページの充実を図ります。  電子メールを活用した事業の促進を図ります。  WEB や電子メールを活用し事業の促進を図ります。	<p><b>【実績】</b> 特別展、イベント等についてできるだけ早くきめ細かな情報掲載に努めた。毎年度 100 件程度の情報更新を行った。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>館の展示はもとより、イベント等について細かな情報更新を行った。</p>
				<p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年 2.6～3.0、平均で 2.8 の評価となった。</p>	
				<p><b>【実績】</b> H25, 26 効果的な広報を行うため、報道関係者や情報誌に対して電子メールを活用した情報提供を実施した。 学校団体には、県内小中学校にメールアドレスの調査を行い、メールリストを作成した。（メールでの学校団体への情報提供は、受け手である学校側の反応が期待したほどではなかったため、その後チラシ等の現物送付に切り替えた。） また、講座や教室の参加申込に電子メールを使用し、参加者の利便を図った。 H27, 28, 29 平成 28 年度は来館者の利便性を考慮して Wi-Fi を導入したほか、平成 29 年度はツイッターやフェイスブックの導入について課題等を整理して、その可否について検討した。その結果、ツイッターやフェイスブックの導入は、ホームページとの連携が望ましいと考えられ、その場合、現行ホームページの変更が必要となる。ホームページのレイアウト変更に伴う費用の発生のため、現時点での導入は困難であることが判明した。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>電子メールを活用しての情報提供や講座等への参加受付を行った。また、Wi-Fi を導入した。</p>
				<p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年 2.3～2.8、平均で 2.7 の評価となった。</p>	

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

6 県民参加

個々の目標については、毎年度来館者のニーズの把握と寄せられた要望の中から、対応可能なものから順次取り組んできており、より多くの県民参加につながるよう努めてきた。大学の利用促進も、平成30年度からのキャンパスメンバーズ制度の実施の目処が立ったことから、一層の県民参加が期待される。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
利用者のニーズが博物館の運営に十分に反映されるよう努めます。	2 0	H25～H29 来館者のニーズの把握に努めます。	<p>【実績】</p> <p>アンケートの回答がより多く得られるよう、次回特別展の招待券を抽選でプレゼントする取り組みを継続して実施した。加えて、学校団体に対するアンケートも引き続き行い、さまざまな意見や要望を幅広く収集した。寄せられた意見等については、館内で共有し、次回以降の取り組みに活かしている。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年2.5～3.0、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>より多くのアンケート回答が得られるよう、工夫しながら継続実施した。</p>
	2 1	H25～H29 来館者のニーズへの対応を図ります。	<p>【実績】</p> <p>アンケートの結果をもとに、例えば、来館者が分かりやすいように館内の動線表示やサインを工夫するなど、対応可能なものは直ぐに対応した。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年2.5～3.0、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>アンケート結果に基づいて、可能なものは対応した。</p>
博物館への県民参加を、積極的に推進します。	2 2	H25～H29 館内ボランティア業務の検討を行います。	<p>【実績】</p> <p>「博物館ボランティア業務の整理・拡充」「大学生ボランティアの充実」を課題として取り組んだ。</p> <p>博物館ボランティアは毎年60名前後の登録があり、今野家住宅における解説が主活動となっている。活動に対するボランティアの意識調査、要望の吸い上げなどに重点的に取り組み、円滑な運営に努めた。</p> <p>大学生ボランティアは、年3回開催の体験イベントでの職員サポートが主活動である。毎回のべ2000人前後の参加者で賑わうイベントの円滑な運営のため、必要不可欠な存在であり、募集にあたっては、大学での活動説明会の実施、活動の手引き改訂などを行って、大学側との連携を強化し、必要人数の安定的参加体制を整備した。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年2.5～3.0、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>ボランティアの意識調査、要望の把握に努めたほか、大学での説明会を実施し、イベントに必要なボランティアを確保した。</p>
	2 3	H25～H29 博物館友の会の充実を図ります。	<p>【実績】</p> <p>平成26年度は友の会のホームページを立ち上げ、博物館ホームページとの相互リンクを行った。また、毎年、各種企画（歴史講座、歴史探訪会、体験教室、会員交流会、講演会、バックヤードツアー、会誌発行等）に関わり、実施においては、会員とともに連絡調整や運営にあたった。</p> <p>平成25年263会員（387人） 平成26年289会員（417人） 平成27年356会員（532人） 平成28年387会員（604人） 平成29年10月12日現在、484会員（787人）と年々増加している。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年2.9～3.3、平均で3.1の評価となった。</p>	<p>達成</p> <p>友の会のホームページを立ち上げたほか、会員とともに各種事業を企画し実施した。</p>

	24	H25 ～ H29	大学等学校単位での利用の促進を図ります。	<p><b>【実績】</b> 平成27年度までは、他館の取り組み状況や成果等について調査を行うとともに、調査結果を踏まえた制度設計を検討した。 平成28年度は、年度末に観覧料金の値上げの条例改正（平成29年度から料金改定）があったため、平成29年度に制度設計を修正し財政課と協議を行い、平成30年度からキャンパスメンバーズ制度を導入することで調整がついた。調整後には事業の周知及び参加の勧誘のため、速やかに県内の大学、短期大学を中心に訪問又は資料送付を行った。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>関係各所と調整し、平成30年度からキャンパスメンバーズ制度の導入を決定した。</p>
				<p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.3～3.1、平均で2.6の評価となった。</p>	

7 施設管理

平成11年10月9日の開館から18年が経過し、施設設備の老朽化に伴う不具合が多数発生しており、その対応が課題となっている。館内の施設設備検討委員会において不具合箇所の現状を共有するとともに、施設改修の年次改修計画を作成し、当該計画に基づいた予算措置がなされるよう取り組んできた。その結果、年次改修計画に基づいた予算編成を行うことが可能となり、施設改修や機器更新を計画的に進めることができている。

活動方針	達成目標 No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価	
利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。	25	H25  H26,27,28,29	<p>検討組織を立ち上げ、現状の再検証と館としての改善を、トータル的に検討実施します。</p> <p>施設設備整備検討委員会を継続実施し、現状の再検証と館としての改善を、トータル的に検討実施します。</p>	<p><b>【実績】</b> 老朽化した施設設備の改修については、平成25年度に施設設備検討委員会を設置し、順次整備が図られるよう年次計画を作成した。各年度の優先度に応じた計画見直しを行いながら、主なものとして以下の改修を進めてきた。 ○H25年度：蓄電池更新、蒸気発生器更新、（浮島）プレハブ資料館新築 ○H26年度：減圧燻蒸設備改修 ○H27年度：吸収冷温水器改修、蒸気発生器更新、照明制御設備更新、案内表示更新（多言語化） ○H28年度：冷温水機ほか空調機器修繕、館内照明器具改修、エアコン配管修繕 ○H29年度：空調配管等改修、自動火災報知器更新、特別展示室照明LED灯改修、監視カメラシステム更新、ハロン消火設備更新</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.3～3.1、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>施設設備整備検討委員会を立ち上げ、計画的に改修を進めた。</p>
		H25 ～ H29	<p><b>【実績】</b> 資料保存環境の維持を図るため、温度・湿度に直接関係する空調設備等館内環境関連機器について、施設保守管理者と連携して、維持保全に努めてきた。 日常点検管理とともに、故障機器については速やかに小破修理を行った。また、大規模な設備改修や更新に関しては、年次計画に合わせて計画的に取り組んだ。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.9～3.3、平均で3.1の評価となった。</p>		

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

障害者等の方々が安心して利用できる環境を整えます。	27	H25～H29	障害者等へ適切な対応が行えるよう努めます。	<p><b>【実績】</b> 車いすを利用する来館者に対し、情報サービス班・インフォメーション・防災センターと連携し、車いすの貸し出しや補助などが迅速かつスムーズに行われるよう体制整備に努めた。 平成28年度から、障害者差別解消法に基づき、障害を持った来館者へ適切な対応が行えるよう、宮城県の対応要領・指針に基づく職員向けの研修会を行っている。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.5～3.0、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>職員の連携により、適切な対応が行えている。</p>
	28	H25～H29	障害者対応設備の充実が図られるよう努めます。	<p><b>【実績】</b> 障害者が当館を利用する際、安全に、安心して快適に利用できるよう分かりやすい案内表示であるかの検証を行い、環境整備に努めた。 平成27年度：案内表示更新の際に、障害者用駐車場の表示、車いす利用者通行可、補助犬同伴可のピクト（絵文字）表示を行った。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.6～3.0、平均で2.8の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>わかりやすい案内表示に更新した。</p>

8 組織・人員

<p>東北歴史博物館中長期目標が滞りなく達成できる組織を目指し、鋭意努めている。 年度ごとに事業規模が違うため、部班ごとの業務量に対する年度ごとの効果的、効率的な職員配置は行えないことから、部班間の密接な連携と情報交換により、部班を越えた支援体制の調整に努めている。 職員配置については、業務の見直しや組織定数、人事管理と密接なことから、今後も継続して検証し人事担当課と協議していきたい。</p>
--

活動方針	達成目標No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
組織の再検証を進め、効果的・効率的な事業運営が確保される体制を目指します。	29	H25～H29	<p>効果的な事業運営が確保される職員配置の検討を行います。</p> <p><b>【実績】</b> 平成25年度に検討委員会を立ち上げ、組織運営上の課題や専門分野ごとの職員構成について長期的な見通しを立て、その後の退職者補充や定期人事異動において、専門分野に支障が生じないようにしている。 また、平成26年度以降は、資料収集・保存・整理や県内外の博物館への支援のあり方など組織的な諸課題がある中、増大する業務に対応していくために、業務量が集中する時には部班間を越えた支援体制をとるなど、効果的、効率的な業務運営になるよう努めた。 平成29年度は、増大する業務に対応するために学芸班員1名を情報サービス班兼務とした。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については各年2.2～2.6、平均で2.4の評価となった。</p>	<p>やや不十分</p> <p>限られた人員の中で増大する業務や課題へどのように対応するか、組織的対応が十分とはいえない。</p>

9 東日本大震災対応

被災資料の保全については、この5カ年を通じて高い評価で、十分な成果が得られたと考えている。当館独自の県内被災文化財等に対する復興支援活動を展開すると共に、宮城県被災文化財等保全連絡会議の代表幹事兼事務局として、他館との連携を図りながら、保全措置・修理支援、環境調査・整備、情報公開等の諸活動にあたってきた。この連絡会議が一定の役割を終えて平成28年度末に解散したことから、県内の残存案件を把握し、県立博物館として支援を継続している。また、元代表幹事・事務局として、今後の情報共有と支援体制のあり方についても検討を進める。

災害に関係する展示（達成目標No.31・32）については、5カ年の平均で3点前後の（項目31）の評価を得ており、一定の成果が認められたと判断される。平成25年度に低い評価であった歴史的災害展示研究については、平成26年度にワーキンググループを立ち上げ、研究方針を確立し、常設展のリニューアルを前提とした分野横断の調査研究を蓄積してきた。平成28年度に展示構成プランを作成し、平成29年度には以後3年間の科学研究費補助金（基盤C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得するなど、調査研究は具体的な段階に入っており、さらに推進して常設展のリニューアルに繋げたい。

活動方針	達成目標No.	達成目標	実績及び全職員による評価	中長期目標推進委員の評価
<p>県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。</p>	<p>30</p>	<p>H25～ H29 県立博物館として、県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。</p>	<p><b>【実績】</b> 当館では、平成23年度から継続して石巻文化センターの毛利コレクションや文書資料、民俗資料などを中心に数万点を一時保管し、環境が整った施設には被災資料を返却してきた。これと併せて、県内被災資料の保全処置や状態調査・保存技術調査・方針協議等を継続して実施している他、文化財保護課の震災復興発掘調査にも職員を通年で派遣協力し、成果を上げている。</p> <p>宮城県被災文化財等保全連絡会議（以下 連絡会議）は、行政や組織の枠組みを超え、文化財レスキュー事業に関係する機関が連携・協働し、被災文化財等の保安全管理等を目的として平成23年度に組織されたもので、平成28年度末にその目的を終えて解散した。当館は連絡会議の代表幹事兼事務局を努めており、調整役として他館との連携を図りながら、保全措置・修理支援、環境調査・整備、情報公開等の諸活動を推進した。各年度の活動概要を以下に記す。</p> <p><b>【平成25年度】</b> 被災文化財の安定化処置（岩沼市・石巻市資料等）、資料調査（東松島市・女川町等）、保存環境調査（石巻市等）を実施し、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員2名が通年で協力して、文化財レスキューと復興事業を推進した。</p> <p>また、連絡会議代表幹事・事務局として、県内各機関、大学、研究機関等と連携し、被災資料の保全（保存処理、環境整備、連絡会議やワークショップの開催）に努めた。活動内容はホームページで公開し、マスコミにも取り上げられた。</p> <p><b>【平成26年度】</b> 被災文化財の安定化処置（岩沼市・多賀城市・南三陸町資料等）、資料調査（亶理町等）、保存環境調査（石巻市等）を実施し、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員1名が通年で協力して、文化財レスキューと復興事業を推進した。</p> <p>また、連絡会議代表幹事・事務局として県内の被災文化財保全の総括・調整・企画（資料の保存環境に関する研修会）などを実施した。これまでの活動について紹介したパネルの貸し出し（新潟県立歴史博物館等）やHP等での情報公開も行った。</p> <p><b>【平成27年度】</b> 被災文化財の安定化処置（多賀城市資料、石巻市寿福寺資料等）、資料調査（一部被災資料から発せられている悪臭の原因と対策調査）、保存環境調査（石巻市等）を実施した。また、文化財保護課の震災復興発掘調査には職員2名が通年で協力し、復興調査にあたる山元町合戦原遺跡の横穴墓線刻壁画の保存処置にも協力している。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献した。</p> <p>さらに、連絡会議代表幹事・事務局として県内の被災文化財保全の総括・調整・企画（資料の保存環境に関する研修会）等を実施した。これらの活動については、パネルやHP等で情報公開を行っている。</p> <p><b>【平成28年度】</b> 県内の被災文化財・資料のクリーニング・安定化処置、保管施設の環境調査・管理支援、資料の活用支援などを実施した（南三陸町・石巻市・多賀城市・亶理町等）。また、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員1名が通年で協力し、復興調査にあたる山元町合戦原</p>	<p>達成</p> <p>県内の被災した資料の保全・保存調査や方針協議を継続して実施している外、震災復興発掘調査にも職員を通年で派遣した。宮城県被災文化財等保全連絡会議の事務局として保全措置・修理支援などの諸活動を推進した。</p>



Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

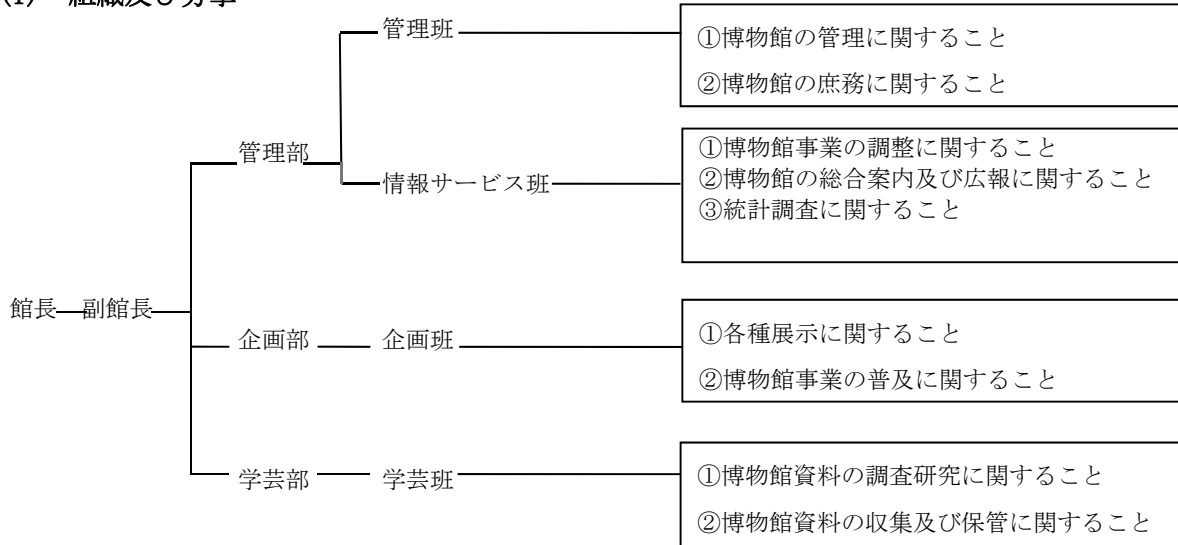
			<p>遺跡の横穴墓線刻壁画の保存処置および出土遺物の保存処理（金属製品等）にも協力している。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献した。</p> <p>さらに、連絡会議代表幹事・事務局として、会議運営および総括業務・企画（報告書刊行、公開シンポジウム開催）を実施し、年度末に連絡会議を解散した。</p> <p>【平成 29 年度】</p> <p>県内の被災文化財・資料のクリーニング・安定化処置、保管施設の環境調査・管理支援、資料の活用支援などを実施している（南三陸町・石巻市・多賀城市・亶理町等）。また、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員 1 名が通年で協力にあたり、復興調査で出土した遺物の保存処理（山元町の金属製品等）も受託して処理を進めた。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献している。</p> <p>さらに、連絡会議の前年度末解散を受け、元代表幹事・事務局として、今後の情報共有と支援体制のあり方についても検討している。</p>	
県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。	30	H25～H29	<p>県立博物館として、県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。</p> <p>【平成 27 年度】</p> <p>被災文化財の安定化処置（多賀城市資料、石巻市寿福寺資料等）、資料調査（一部被災資料から発せられている悪臭の原因と対策調査）、保存環境調査（石巻市等）を実施した。また、文化財保護課の震災復興発掘調査には職員 2 名が通年で協力し、復興調査にあたる山元町合戦原遺跡の横穴墓線刻壁画の保存処置にも協力している。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献した。</p> <p>さらに、連絡会議代表幹事・事務局として県内の被災文化財保全の総括・調整・企画（資料の保存環境に関する研修会）等を実施した。これらの活動については、パネルや HP 等で情報公開を行っている。</p> <p>【平成 28 年度】</p> <p>県内の被災文化財・資料のクリーニング・安定化処置、保管施設の環境調査・管理支援、資料の活用支援などを実施した（南三陸町・石巻市・多賀城市・亶理町等）。また、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員 1 名が通年で協力し、復興調査にあたる山元町合戦原遺跡の横穴墓線刻壁画の保存処置および出土遺物の保存処理（金属製品等）にも協力している。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献した。</p> <p>さらに、連絡会議代表幹事・事務局として、会議運営および総括業務・企画（報告書刊行、公開シンポジウム開催）を実施し、年度末に連絡会議を解散した。</p> <p>【平成 29 年度】</p> <p>県内の被災文化財・資料のクリーニング・安定化処置、保管施設の環境調査・管理支援、資料の活用支援などを実施している（南三陸町・石巻市・多賀城市・亶理町等）。また、文化財保護課の震災復興発掘調査に職員 1 名が通年で協力にあたり、復興調査で出土した遺物の保存処理（山元町の金属製品等）も受託して処理を進めた。文化財レスキューを推進し、復興事業にも貢献している。</p> <p>さらに、連絡会議の前年度末解散を受け、元代表幹事・事務局として、今後の情報共有と支援体制のあり方についても検討している。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年 3.2～3.4、平均 3.3 の評価となった。</p>	
震災復興を祈念する展示事業を積極的に展開し、さらに震災や被災文化財に関する調査研究を行い、常設展示事業での展開を目指します。	31	H25～H29	<p>復興祈念の展示を開催し、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。</p> <p>【実績】</p> <p>当館では震災直後の平成 23 年度に特別展「いつも元気な子ども達」を開催した。これは、被災地である県内の子ども達、そして大人達の活力の一助たり得る博物館活動の一環として実施したものである。その後も継続して「東日本大震災復興祈念特別展」と銘打った展覧会や被災文化財の復興を扱ったテーマ展を開催している。また、平成 28・29 年度開催の「世界遺産ラスコー洞窟壁画展」はプロモーター側が被災地での開催を希望したことにより実現した展覧会であった。その他、「復興祈念特別展」と銘打たない展覧会においても、厳しい環境に置かれている人々の活力の一助となることを期して開催したものである。</p> <p>震災前より観覧者が増加し、かつアンケート集計でも常に 9 割前後が満足という高い評価をいただいた。</p> <p>【全職員による評価】</p> <p>自己評価については各年 2.9～3.1、平均で 3.0 の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>「東日本大震災復興祈念特別展」と銘打った展覧会を複数開催し、多くの観覧者から高い満足度評価をいただいた。</p>

<p>震災復興を祈念する展示事業を積極的に展開し、さらに震災や被災文化財に関する調査研究を行い、常設展示事業での展開を目指します。</p>	<p>3 2</p>	<p>H25 ～ H29</p> <p>震災と復興の歴史及び被災した有形文化財や民俗芸能等の無形民俗文化財の現状や復興の様子など、震災と被災文化財に関する調査・研究を進め、展示や映像として公開します。</p>	<p><b>【実績】</b> 平成 25 年度は、震災関連資料の調査研究を各分野で個別に進めた（「東日本大震災後の民俗」・「大規模災害と広域博物館連携に関する総合的研究」・被災資料の保全方法など）。その後、平成 26 年度からは研究テーマを「歴史的災害展示研究」とし、分野横断的に被災地宮城の県立博物館における災害展示のあり方について展示対象・技術等の検討を重ねている。この調査研究は、東日本大震災の経験を踏まえて歴史的に繰り返されてきた災害の実態を紹介し、防災意識も高める新たな展示構成を構築して常設展のリニューアルを目指すものである。各年度の取り組みの概略を記す。</p> <p><b>【平成 26 年度】</b> 調査研究を進め、4 回の研究会を開催した。 第 1 回：「公開シンポジウム『災害と展示』から考えてみる」（小谷副主任研究員） 第 2 回：「災害展示の実際」（佐藤企画班長） 第 3 回：リアスアーク美術館常設展示（東日本大震災の経験を展示）の見学 第 4 回：「大地動乱の時代－東日本大震災と貞観地震」（柳澤上席主任研究員）</p> <p><b>【平成 27 年度】</b> 調査研究を進め、5 回の研究会を開催した。 第 5 回：「平成 26 年度研究会のまとめと今後の方向性」（小谷副主任研究員） 第 6 回：「874(貞観 16)年の開聞岳噴火の罹災と復旧」（鷹野館長） 第 7 回：「多賀城高校災害科学科」（多賀城高等学校佐々木教頭） 第 8 回：「津波堆積物研究の現状と課題」（相原上席主任研究員） 第 9 回：「国際研究ワークショップ「地域文化の再発見とその活用の方向性」」（国立民俗博物館日高准教授ほか）</p> <p><b>【平成 28 年度】</b> 調査研究を進め、3 回の研究会を開催し、これまでの成果を総括するかたちで、常設展リニューアルを前提とした展示構成プランを作成した。また、研究費獲得に向け、科研費（基盤 C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を申請した。 第 10 回：「平成 27 年度研究会のまとめと今後の方向性」 第 11 回：「常設展示リニューアルプランの方向性について」 第 12 回：「常設展示リニューアルプランの詳細について」</p> <p><b>【平成 29 年度】</b> 今後 3 年間の科学研究費補助金（基盤 C「東日本大震災を契機とする歴史災害展示の構築に係る研究」）を獲得したことから、その 3 年間の活動方針を決める会議（第 13 回）を 5 月に開催し、その後は各分野で調査研究を進めている。1 月には本年度の研究成果を報告する発表会を開催する。 また、平成 30 年度まで科研費を獲得している収蔵空間構築法（基盤 C「文化財収蔵のための緊急時における非文化財収蔵施設の活用調査と低コスト運営法の開発」）に関する調査研究の一環として、展示環境や手法についても検討を進めている。</p> <p><b>【全職員による評価】</b> 自己評価については、平成 25 年度は 2.4 と低い評価であったが、その後の 4 年間は 2.9 点で一定しており、平均で 2.8 の評価となった。</p>	<p>ほぼ達成</p> <p>歴史的災害展示研究について研究方針を確立し、分野横断で調査研究に取り組み、災害の実態を紹介し、防災意識も高める展示構成を構築した。</p>
---	----------------	--	--	--

# Ⅷ 運営

## 1 組織

### (1) 組織及び分掌



### (2) 職員

職名		氏名	備考	
館長		鷹野光行		
副館長		菊田靖		
副館長兼企画部長		笠原信男		
管理部	管理部長	千葉均	(兼)多賀城跡調査研究所	
	管理班	次長(班長)	高橋則行	(兼)多賀城跡調査研究所
		主幹	大場武彦	(兼)多賀城跡調査研究所
		主任主査	小野寺裕子	(兼)多賀城跡調査研究所
		主事	渡邊夏菜枝	(兼)多賀城跡調査研究所
	情報サービス班	主幹(班長)	江畑秀樹	
		主任研究員	千葉正利	(兼)企画部企画班
主任研究員		白谷明彦	(兼)企画部企画班	
企画部	企画部長(兼副館長)		笠原信男	
	企画班	上席主任研究員(班長)	佐藤憲幸	
		上席主任研究員	菊地逸夫	
		上席主任研究員	村上一馬	
		主任研究員	千葉正利	(兼)管理部情報サービス班
		主任研究員	白谷明彦	(兼)管理部情報サービス班
		副主任研究員	千葉直樹	
		学芸員	大久保春野	
		技師	西松秀記	
		技師	今井雅之	
		技師	秋山沙織	

部	学芸部長	古川一明		
	学芸班	上席主任研究員(班長)	三好秀樹	
		上席主任研究員	相原淳一	
		主任研究員	政次浩	
		副主任研究員	塩田達也	
		副主任研究員	小谷竜介	
		学芸員	芳賀文絵	
		学芸員	相澤秀太郎	
		技師	森谷朱	
		研究員	及川規	
研究員	柳澤和明	文化財保護課派遣		

## (3) 解説員(非常勤職員)

氏名	備考
千田 紗由里	～平成 29 年 8 月 31 日
遠藤 千聖	～平成 30 年 3 月 31 日
菊池 摩耶	～平成 30 年 3 月 31 日
佐藤 維花	～平成 30 年 3 月 31 日
福島 茜	～平成 30 年 3 月 31 日
佐々木 ひろこ	～平成 30 年 3 月 31 日
内海 祐子	

氏名	備考
棧敷 陽香	
長久保 美智	
今井 玲	
大沼 美咲	平成 29 年 4 月 1 日～
小野 絢子	平成 29 年 4 月 11 日～
大槻 智美	平成 29 年 9 月 1 日～
加藤 和佳香	平成 30 年 2 月 8 日～

## 2 予算

項目	金額(千円)
管理経費	296,024
企画展示費	113,744
教育普及費	10,926
資料管理費	3,056
調査研究費	1,097
文化財保護対策費	3,720
インタラクティブシアター整備費	4,063
計	432,630

## 3 博物館協議会・専門部会の開催

## (1) 平成 29 年度 東北歴史博物館協議会

開催日時：平成 30 年 2 月 13 日(火) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

場所：東北歴史博物館 大会議室

議題：(1) 平成 29 年度東北歴史博物館の事業報告について

(2) 平成 30 年度東北歴史博物館の事業計画について

(3) 平成 30 年度事業計画東北歴史博物館中長期目標平成 29 年度自己評価について

Ⅷ 運営

- (4) 東北歴史博物館中長期目標前期（平成 25 年度～平成 29 年度）自己評価について
- (5) 東北歴史博物館中長期目標後期（平成 30 年度～平成 34 年度）について

報 告：東北歴史博物館協議会資料収集専門部会資料収集方針について

出席委員：今野 俊宏，菊池 すみ子，立川 靖子，河合 裕也，須藤 由子

(2) 平成 29 年度 東北歴史博物館協議会資料収集専門部会

開催日時：平成 30 年 1 月 19 日（金）午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

場 所：東北歴史博物館 小会議室

報 告：(1) 平成 29 年度寄附・寄託資料について

(2) 資料収集方針について

(3) その他

出席委員：荒木 志伸 熊谷 公男 佐藤 憲一 本田 秋子 政岡 伸洋

## 4 友の会

(1) 設立の経緯

生涯学習の質の向上や学校教育への対応などが叫ばれており、博物館の社会的な役割はますます重要かつ多岐にわたるものとなってきている。このような動きを受け、広く県民に開かれた博物館を目指すため、友の会を設立した。

この会は、博物館を中心として、東北地方の歴史・文化・芸術などに関する知識を深め、会員相互の親睦を図り、合わせて博物館の発展と地域文化の向上に寄与することを目的としている。当初、平成 23 年度のスタートを予定していたが、東日本大震災という史上稀にみる災害の影響を受け、1 年間の延期を余儀なくされ、平成 24 年 4 月 27 日、設立総会をもって活動を始動した。

(2) 組織

会員は、普通会員・学生会員・家族会員・賛助会員で構成され、今年度の会員数は 486 会員、789 人であった。役員は、会長 1，副会長 2，幹事 8，監事 2 人の 13 人で、右記のとおりである。

会 長	堀川邦雄
副会長	佐藤好一，大崎秀
幹 事	柴田十一夫，黒田英雄，三條信幸， 筒井栄司，穴山盛幸，鈴木次郎， 水戸正美，筑波章
監 事	増田祥吾，三浦栄

(3) 今年度の主な活動

月	日	曜	事 業 内 容	参加者数
4	22	土	○平成 29 年度 総会（講堂）	83
			○公開講演会 演題：「多賀城の実像に迫る －多賀城跡発掘調査の最前線と今後の史跡整備について－」 講師：須田 良平氏（宮城県多賀城跡調査研究所所長）	87 （うち非会員 2）
5	28	日	○特別展「世界遺産ラスコー展」閉幕	のべ 431
6	18	日	○第 13 回 友の会歴史講座 演題：「上山の城下町と羽州街道」 講師：大場 浩子氏（上山城歴史資料館学芸員）	112
			○特別展「漢字三千年－漢字の歴史と美－」内覧会	146
7	16	日	○第 10 回 友の会歴史探訪会＜羽州（上山・七ヶ宿）街道を巡る＞ 見学地：上山城歴史資料館，櫓下宿，七ヶ宿水と歴史の館など	40
8	5	土	○会員交流会 会場：博物館研修室（茶話会形式）	30
	13	日	○特別展「漢字三千年－漢字の歴史と美－」閉幕	のべ 190
9	7	木	○バックヤードツアー「多賀城跡発掘現場」 講師：生田 和宏氏，高橋 透氏 （いずれも宮城県多賀城跡調査研究所職員）	40
	15	金	○特別展「熊と狼一人と獣の交渉誌－」内覧会	64

10	15	日	○第 14 回 友の会歴史講座 演題：「出羽三山と修験道～考古学の視点から～」 講師：原田 昌幸氏(文化庁文化財部主任文化財調査官)	108
11	12	日	○第 11 回 友の会歴史探訪会<出羽三山を巡る> 見学地：羽黒山五重塔，出羽三山神社，注連寺など	40
	19	日	○特別展「熊と狼一人と獣の交渉誌」閉幕	のべ 232
1	5	金	○平成 30 年度 会員募集開始	
	14	日	○大人と子どもの体験教室「和綴じノートを作ってみよう」 講師：秋山 沙織氏(東北歴史博物館学芸員)	16
2	4	日	○第 15 回 友の会歴史講座 演題：「近代都市仙台の成立と仙台停車場」 講師：佐々木 秀之氏(宮城大学准教授)	71
	25	日	○第 2 回出張友の会 会場：岩沼市玉浦コミュニティセンター	120

※年間を通して東北歴史博物館友の会ウェブサイトの管理

## IX 平成 29 年度博物館日誌抄

年 月 日	出来事
平成 29 年 4 月 15 日 土	お弁当をもって花と歴史のハイキング さくら(多賀城廃寺跡)コース
4 月 23 日 日	特別展記念講演「クロマニヨン人の生活世界ー考古学からの復元ー」
5 月 13 日 土	特別展記念講演「クロマニヨン人とは誰か？日本人はどこから来たのか？ー解明されてきた人類の起源ー」
6 月 10 日 土	体験イベント「春のわくわく体験見本市 2017」
6 月 13 日 火	テーマ展示第 1 室「カマ神」(～12/2) テーマ展示第 2 室「骨角器の世界」(～12/2)
6 月 24 日 土	テーマ展示第 3 室「仙台の近世絵画ー東洋の世界ー」(～7/9) 特別展「漢字三千年ー漢字の歴史と美ー」開幕(～8/11)
7 月 2 日 日	特別展記念講演「漢字に見る人生の知恵」
7 月 5 日 水	お弁当をもって花と歴史のハイキング あやめ(多賀城政庁跡)コース
7 月 11 日 火	宮城県博物館等連絡協議会総会・第 1 回研修会
7 月 30 日 日	テーマ展示第 3 室「東北の古文書ー伊達騒動ー」(～8/20)
8 月 8 日 火	特別展記念講演 こども漢字講座「漢字の世界をのぞいてみよう～漢字っておもしろい！～」
9 月 16 日 土	今野家住宅盆棚飾り(～8/16)
9 月 20 日 水	特別展「熊と狼一人と獣の交渉誌」閉幕
8 月 22 日 火	パネル展「宮城の明治期木造洋風建築」(～10/22)
9 月 30 日 土	テーマ展示第 3 室「仙台の近世絵画ー名所・松島ー」(～10/1)
10 月 1 日 日	今野家住宅月見飾り(～10/9)
10 月 3 日 火	体験イベント「秋の見覚ーまるかじり博物館ー」 テーマ展示第 3 室「宮城の文化ー高僧の墨蹟ー」(～11/12)
10 月 8 日 日	特別展記念講演「旅マタギを検証するー技術と歴史史料でたどる出稼ぎ狩猟の実態ー」
10 月 28 日 土	「史都多賀城万葉まつり」会場提供
11 月 3 日 金	特別展記念講演「人を襲う熊ー十和利山熊襲撃事件の全貌ー」
11 月 14 日 火	特別展関連イベント「熊爪ペンダントを作ろう！」
11 月 17 日 金	テーマ展示第 3 室「東北の古文書ー金山関係文書ー」(～12/3)
12 月 4 日 月	博物館利用説明会 館内設備保守点検のため臨時休館日(～12/28)
平成 30 年 1 月 5 日 水	テーマ展示第 1 室「形象埴輪の世界」(～4/8) テーマ展示第 2 室「柄鏡の美」(～3/11) テーマ展示第 3 室「仙台の近世絵画ー新春を迎えてー」(～1/28)
1 月 16 日 火	こども歴史館お正月特別企画「みんなでのお正月遊びをしてイカヌかい」(～1/14)
1 月 19 日 金	今野家住宅正月飾り(～1/28)
1 月 30 日 火	こども歴史館特別企画「変身！裂織でコースターをつくろう」(～1/31)
2 月 13 日 月	東北歴史博物館協議会資料収集専門部会
2 月 18 日 日	テーマ展示第 3 室「仙台藩の工芸ー刀剣と甲冑ー」(～3/11)
2 月 27 日 火	東北歴史博物館協議会 体験イベント「冬も元気に博物館」
3 月 13 日 火	宮城県博物館等連絡協議会第 2 回研修会「ミュージアムにおける広報活動」 テーマ展示第 2 室「染の型紙」(～4/8) テーマ展示第 3 室「仙台の近世絵画ー仙台四大画家ー」(～4/8)

## X 資料

### 1 入館者統計

表1 入館者数(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

開館 日数	区 分	有 料			無 料			合 計	比 率	無料施設 等利用者	入館者 総合計
		個 人	団 体	小 計	個 人	団 体	小 計				
287	小・中学生	5,055	59( 2)	5,114	2,174	11,553(281)	13,727	18,841(283)	23.1%	75,744	157,280
	高 校 生	0	0( 0)	0	192	793( 14)	985	985( 14)	1.2%		
	一 般	51,376	1,969( 68)	53,345	7,987	378( 19)	8,365	61,710( 87)	75.7%		
	計	56,431	2,028( 70)	58,459	10,353	12,724(314)	23,077	81,536(384)	100.0%		

表2 月別入館者数(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

## (1) 展示観覧者数

月	開館 日数	有 料			無 料			合 計
		個 人	団 体	小 計	個 人	団 体	小 計	
平成28年度合計	301	44,327	2,983( 95)	47,310	11,364	11,750(272)	23,114	70,424(367)
平成29年 4月	26	11,894	135( 4)	12,029	900	854( 16)	1,754	13,783( 20)
5月	27	18,962	322( 11)	19,284	1,717	1,466( 34)	3,183	22,467( 45)
6月	26	2,731	167( 7)	2,898	1,605	5,410(142)	7,015	9,913(149)
7月	26	7,760	316( 10)	8,076	949	523( 15)	1,472	9,548( 25)
8月	27	6,707	60( 2)	6,767	1,570	281( 8)	1,851	8,618( 10)
9月	26	1,702	169( 7)	1,871	547	1,622( 33)	2,169	4,040( 40)
10月	26	2,302	364( 12)	2,666	888	813( 16)	1,701	4,367( 28)
11月	26	2,202	323( 10)	2,525	805	835( 23)	1,640	4,165( 33)
12月	3	105	0( 0)	105	42	60( 1)	102	207( 1)
平成30年 1月	23	619	83( 3)	702	359	533( 13)	892	1,594( 16)
2月	24	640	69( 3)	709	592	210( 7)	802	1,511( 10)
3月	27	807	20( 1)	827	379	117( 6)	496	1,323( 7)
平成29年度合計	287	56,431	2,028( 70)	58,459	10,353	12,724(314)	23,077	81,536(384)

## (2) 施設利用者, 講座・催事等参加者, 講堂等使用者

月	施 設 利 用 者			講座・催事 等参加者	講 堂 等 使 用 者	合 計	入館者総合計 (1)+(2)
	こども歴史館	図書情報室	今野家住宅				
平成28年度合計	24,569	3,690	26,925	11,387	8,053	74,624	145,048
平成29年 4月	2,099	294	4,066	487	368	7,314	21,097
5月	3,074	366	5,269	895	343	9,947	32,414
6月	5,337	399	3,479	1,293	280	10,788	20,701
7月	1,908	316	1,925	547	1,633	6,329	15,877
8月	2,286	406	2,169	291	1,748	6,900	15,518
9月	2,437	278	2,250	291	970	6,226	10,266
10月	1,841	281	2,319	5,326	1,416	11,183	15,550
11月	1,631	324	1,962	274	1,144	5,335	9,500
12月	163	32	181	100	0	476	683
平成30年 1月	1,409	372	1,335	906	242	4,264	5,858
2月	1,241	378	812	907	289	3,627	5,138
3月	1,127	276	1,054	238	660	3,355	4,678
平成29年度合計	24,553	3,722	26,821	11,555	9,093	75,744	157,280

表3 県別団体入館者数(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

	青森県	岩手県	秋田県	山形県	福島県	宮城県	その他	合 計
小・中学生	126( 2)	3,787(104)	232( 12)	1,114( 33)	225( 6)	6,083(125)	45( 1)	11,612(283)
高 校 生	0( 0)	0( 0)	0( 0)	20( 1)	10( 1)	749( 11)	16( 1)	795( 14)
一 般	0( 0)	241( 8)	0( 0)	153( 6)	212( 7)	1,636( 62)	103( 4)	2,345( 87)
計	126( 2)	4,028(112)	232( 12)	1,287( 40)	447( 14)	8,468(198)	164( 6)	14,752(384)

表1～3

※ ( ) 内は団体数。

※ 「小・中学生」, 「高校生」, 「一般」, 「その他」の各区分が混在した団体の場合は, 団体数は「一般」に計上。

表4 特別展観覧者数

展示名	世界遺産ラスコー洞窟壁画展	漢字三千年	熊と狼	合計
会 期	3月25日～5月28日	6月24日～8月13日	9月16日～11月19日	
開催日数	(57日間) 4/1～5/1日間	44日間	56日間	145日間
観覧者数	34,010	17,738	8,619	60,367
内 訳	小中高生	(14.3%) 4,850	(14.6%) 2,591	(16.2%) 9,773
	一 般	(85.7%) 29,160	(85.4%) 15,147	(83.8%) 50,594

※表4は特別展「世界遺産ラスコー洞窟壁画展」(平成29年3月25日から3月31日 観覧者数3,425人)は計上していない。

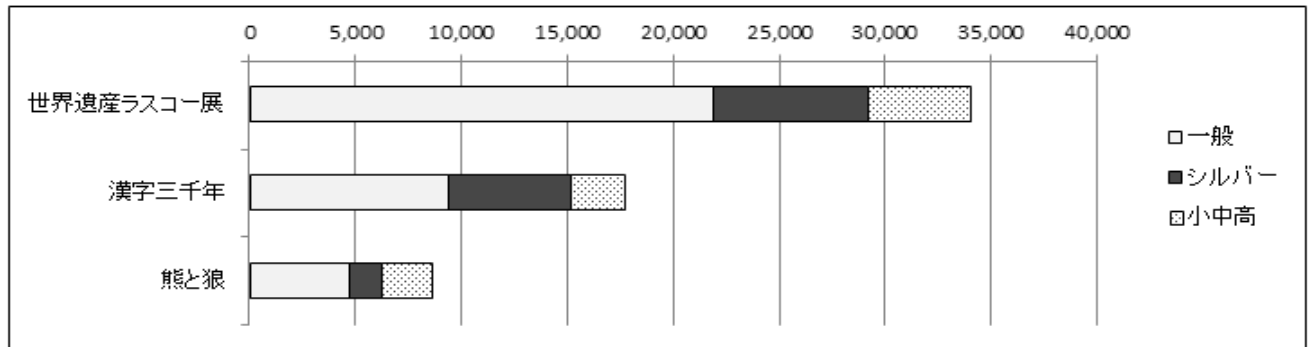


表5 年度別入館者数

年 度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	
観覧者数	小・中学生	15,464	29,235	19,600	20,195	19,157	21,427	17,550	20,608	20,831
	高 校 生	1,591	4,762	2,290	1,675	1,528	5,747	911	794	1,021
	一 般	48,899	116,879	44,373	36,588	27,795	59,739	35,660	29,384	31,909
	計	65,954	150,876	66,263	58,458	48,480	86,913	54,121	50,786	53,761
	常設展(再掲)	44,104	37,776	43,556	35,444	30,697	24,992	29,468	26,647	27,313
特別展(再掲)	21,850	113,100	22,707	23,014	17,783	61,921	24,653	24,139	26,448	
施設利用・講座等参加者	89,800	118,147	90,554	78,032	72,544	80,107	69,303	77,738	79,598	
年 度 合 計	155,754	269,023	156,817	136,490	121,024	167,020	123,424	128,524	133,359	
入 館 者 累 計	546,454	815,477	972,294	1,108,784	1,229,808	1,396,828	1,520,252	1,648,776	1,782,135	

年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	累計	
観覧者数	小・中学生	19,483	15,576	18,092	17,456	20,638	20,433	16,936	18,841	360,121
	高 校 生	791	390	513	825	899	1,173	499	987	30,044
	一 般	26,661	14,271	27,937	31,491	44,923	57,701	52,989	61,708	896,884
	計	46,935	30,237	46,542	49,772	66,460	79,307	70,424	81,536	1,287,049
	常設展(再掲)	26,269	20,349	24,431	26,403	27,173	30,904	29,664	21,169	616,464
特別展(再掲)	20,666	9,888	22,111	23,369	39,287	48,403	40,760	60,367	670,585	
施設利用・講座等参加者	69,450	59,751	82,346	78,414	82,732	55,274	74,624	75,744	1,544,634	
年 度 合 計	116,385	89,988	128,888	128,186	149,192	134,581	145,048	157,280	2,831,683	
入 館 者 累 計	1,898,520	1,988,508	2,117,396	2,245,582	2,394,774	2,529,355	2,674,403	2,831,683		

※表5は「世界遺産ラスコー洞窟壁画展」の観覧者数(3月分 観覧者数3,425人)は平成28年度に含む。

## 2 ホームページアクセス状況

年 度	訪 問 者	延べ訪問者	平均訪問回	閲覧ページ	ヒ ッ ト
平成25年度	74,770	117,105	1.6	1,081,751	10,899,263
平成26年度	96,189	147,220	1.5	857,296	12,510,502
平成27年度	117,838	184,614	1.6	754,042	13,668,485
平成28年度	125,804	208,240	1.7	793,862	14,860,580
平成29年度	157,662	288,272	1.8	913,777	15,392,459

訪 問 者 : IPアドレスから導かれる訪問者の数。

※プロバイダによっては、接続のたびにIPアドレスが変わるため、「別のIPアドレス」＝「別のユーザ」とは限らない。

延べ訪問者 : 実際にアクセスした延べ数。同一IPアドレスで複数回アクセスした場合もカウントしている。

平均訪問回 : 各訪問者の平均訪問回数

閲覧ページ : 閲覧されたページ数

ヒ ッ ト : ページを表示させるために読み込んだファイル数 (HTML, 画像等)。

※検索エンジンなどの自動巡回によるものは除く。



### 3 歴史博物館条例 (平成 11 年 3 月 12 日 条例第 2 号)

最終改正 平成 30 年 3 月 23 日 条例第 13 号

#### (趣 旨)

第 1 条 この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、歴史博物館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

#### (設 置)

第 2 条 考古資料、民俗資料、美術工芸及び建造物に関する資料その他の歴史に関する資料を収集し、保管し、及び公開し、併せてこれらの資料に関する調査研究を行い、もって県民の文化の向上に資するため、歴史博物館を設置する。

2 歴史博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
東北歴史博物館	多賀城市

#### (職 員)

第 3 条 歴史博物館に、事務職員、技術職員その他の職員を置く。

#### (観覧料)

第 4 条 歴史博物館の展示品を観覧しようとする者からは、別表第 1 に定める観覧料を徴収する。

2 観覧料は、知事の発行する観覧券又は納入通知書により納入しなければならない。

#### (使用許可)

第 5 条 歴史博物館の施設で別表第 2 に掲げるもの（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとする場合も、同様とする。

2 教育委員会は、施設の使用が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、その使用を許可しないものとする。

- 一 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあるとき。
- 二 施設又は設備をき損するおそれがあるとき。
- 三 その他施設設置の目的に反するとき。

#### (許可申請の手続)

第 5 条の 2 前条第一項の許可を受けようとする者は、教育委員会規則で定める様式に従い、次に掲げる事項を記載した使用許可申請書を教育委員会に提出しなければならない。

- 一 氏名又は名称、住所及び電話番号並びに法人その他の団体にあつては、その代表者の氏名
- 二 使用しようとする施設
- 三 使用しようとする期間
- 四 使用の目的
- 五 入場料の徴収の有無及び徴収する場合にあつては、その金額
- 六 入場予定の人員
- 七 法人その他の団体にあつては、使用の責任者の氏名及び電話番号

#### (使用許可の取消し等)

第 6 条 教育委員会は、施設を使用する者が次の各号のいずれかに該当するときは、その使用の許可を取り消し、又はその使用を停止することができる。

- 一 詐欺その他不正の行為により第 5 条第 1 項の許可を受けたとき。
- 二 第 5 項第 1 項の許可の条件に違反したとき。
- 三 前 2 号に規定するもののほか、この条例及びこの条例に基づく教育委員会の規定に反すると認められたとき。

**(使用料)**

第7条 施設を使用する者からは、別表第2に定める使用料を徴収する。

- 2 使用料は、知事の発行する納入通知書により使用しようとする日までに前納しなければならない。ただし、知事が特別の事情があると認めて使用しようとする日から14日以内の期限を指定した場合は、この限りではない。
- 3 前項ただし書の規定により知事の承認を受けようとする者は、知事が定める様式に従い、次に掲げる事項を記載した使用料後納申請書を知事に提出しなければならない。
  - 一 氏名又は名称、住所及び電話番号並びに法人その他の団体にあつては、その代表者の氏名
  - 二 既に使用許可を受けた場合にあつては、許可の年月日及び許可の番号
  - 三 使用料を前納できない理由

**(観覧料等の返還)**

第8条 既に徴収した観覧料及び使用料は、返還しない。ただし、次の各号に掲げる場合には、既に徴収した観覧料又は使用料に当該各号に定める割合を乗じて得た額を返還するものとする。

- 一 観覧者及び使用者が自己の責めに帰することができない理由で観覧し、又は使用することができなくなった場合 10割
- 二 使用者が使用を開始する日の7日前までに使用の取消しを申し出た場合 5割
- 2 前項ただし書の規定による観覧料の返還を受けようとする者は、観覧券を返還し、かつ、知事が定める様式に従い、次に掲げる事項を記載した観覧料返還申請書を知事に提出しなければならない。
  - 一 氏名又は名称、住所及び電話番号並びに法人その他の団体にあつては、その代表者の氏名
  - 二 返還を受けようとする理由
  - 三 返還を受けようとする金額
- 3 第1項ただし書の規定による使用料の返還を受けようとする者は、知事が定める様式に従い、次に掲げる事項を記載した使用料返還申請書を知事に提出しなければならない。
  - 一 氏名又は名称、住所及び電話番号並びに法人その他の団体にあつては、その代表者の氏名
  - 二 使用許可を受けた年月日及び許可の番号
  - 三 返還を受けようとする理由
  - 四 返還を受けようとする金額

**(観覧料等の減免)**

第9条 知事は、次の各号に掲げる場合には、観覧料又は使用料に当該各号に定める割合を乗じて得た額を免除するものとする。

- 一 小学校（義務教育学校の前期課程を含む。）、中学校（義務教育学校の後期課程及び中等教育学校の前期課程を含む。）及び高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の児童又は生徒の引率者が教育課程に基づく学習活動として観覧する場合 常設展示観覧料の10割
- 二 県が主催して行う施設見学の一環として展示品を観覧する場合 常設展示観覧料の10割
- 三 博物館に資料を寄贈した者又は資料を出品している者が観覧する場合 常設展示観覧料10割
- 四 知事が博物館普及の一環として無料観覧日に指定した日に観覧する場合 常設展示観覧料10割
- 五 身体障害者（身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者をいう。）及びその介護者（一人に限る。）が観覧する場合 観覧料の10割
- 六 知的障害者（児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害者であると判定された者に対して交付される手帳（以下「療育手帳」という。）を有する者をいう。）及びその介護者（一人に限る。）が観覧する場合 観覧料の10割
- 七 精神障害者（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者をいう。）及びその介護者（一人に限る。）が観覧する場合 観覧料の10割
- 八 国又は地方公共団体が主催して施設を使用する場合 使用料の5割

## X 資料

- 九 前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認めた場合 観覧料又は使用料のうち知事が定める割合
- 2 前項第1号、第2号、第8号又は第9号の規定により観覧料又は使用料の減免を受けようとする者は、知事が定める様式に従い、次に掲げる事項を記載した観覧料減免申請書又は使用料減免申請書を知事に提出しなければならない。
- 一 氏名又は名称、住所及び電話番号並びに法人その他の団体にあつては、その代表者の氏名
  - 二 減免を受けようとする理由
  - 三 観覧料の場合にあつては、観覧しようとする日時、観覧予定の人員並びに責任者の氏名及び電話番号
  - 四 使用料の場合にあつては、使用の目的、使用の期間及び使用しようとする施設
- 3 第1項第5号、第6号又は第7号の規定により観覧料の減免を受けようとする者は、身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳を、入館の際に提示しなければならない。

### (損傷の届出等)

- 第10条 入館者及び博物館資料の借受者は、博物館資料、施設、設備等を損傷し、又は亡失したときは、直ちにその旨を教育委員会に届け出なければならない。
- 2 前項に規定する損傷又は亡失が、入館者及び博物館資料の借受者の故意又は過失によるものと認められるときは、当該入館者及び博物館資料の借受者は、当該損傷若しくは亡失をした博物館資料、施設、設備等を原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

### (罰 則)

- 第11条 第5条第1項の規定に違反して、許可を受けずに施設を使用し、又は許可を受けた事項を変更した者は、5万円以下の過料に処する。
- 2 詐欺その他不正の行為により観覧料又は使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額（当該5倍に相当する金額が5万円を超えないときは、5万円とする。）以下の過料に処する。

### (委 任)

- 第12条 この条例に定めるもののほか、歴史博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

## 附 則

### (施行期日)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。ただし、第4条の規定、第8条及び第9条の規定（観覧料に係る部分に限る。）並びに別表第1の規定は、同年10月1日から施行する。

### (歴史資料館条例の廃止)

- 2 歴史資料館条例（昭和49年宮城県条例第26号）は、廃止する。

### 附 則（平成12年3月28日条例第13号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

### 附 則（平成14年3月27日条例第17号）

この条例は、平成14年4月1日から施行する。

### 附 則（平成26年3月27日条例第14号抄）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

### 附 則（平成29年3月23日条例第12号）

### (施行期日)

- 1 この条例は、平成29年4月1日から施行する。

### (経過措置)

- 2 この附則に別段の定めがあるものを除き、この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に許可若しくは承認を受け、又は協議が成立した使用、行為、利用又は占用に係る使用料、占用料又は土

地占用料については、なお従前の例による。

**附 則**(平成 28 年 3 月 22 日条例第 4 号)

この条例は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 2 条中犯罪のないみやぎ安全・安心まちづくり条例第 12 条の改正規定（「中学校」の下に「，義務教育学校」を加える部分を除く。）」、第 4 条中総合運動場条例第 16 条第 1 項第 2 号の改正規定（「以下同じ。」を削る部分に限る。）並びに第 6 条中美術館条例第 9 条第 1 項第 1 号及び歴史博物館条例第 9 条第 1 項第 1 号の改正規定（「以下同じ。」を削る部分に限る。）は、公布の日から施行する。

**附 則**(平成 29 年 3 月 23 日条例第 12 号)

**(施行期日)**

- 1 この条例は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**(平成 30 年 3 月 23 日条例第 13 号)

この条例は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

**別表第 1 (第 4 条関係)**

区 分	観覧料の額 (一人一回につき)		
	一般 (大学生及びこれに準ずる者を含む)		小学生, 中学生, 高校生及びこれらに準ずる者
	個 人	団 体	
常設展示	460 円	360 円	
特別展示	1,700 円以内で知事の定める額		

備考 「団体」とは、20 人以上をいう。

**別表第 2 (第 5 条, 第 7 条関係)**

名 称	使用区分	使用料の額
講 堂	全 日	45,700 円
	午 前	17,100 円
	午 後	28,500 円

備考

- 一 「全日」とは午前 9 時から午後 5 時まで、「午前」とは午前 9 時から正午まで、「午後」とは午後 1 時から午後 5 時までをいう。
- 二 使用時間がこの表に定める使用時間に満たない場合においても、時間割計算は行わない。

**4 東北歴史博物館管理規則** (平成 11 年 3 月 31 日 教育委員会規則第 19 号)

最終改正 平成 12 年 3 月 31 日教育委員会規則第 51 号

**(趣 旨)**

第 1 条 この規則は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条及び歴史博物館条例（平成 11 年宮城県条例第 2 号。以下「条例」という。）第 11 条の規定に基づき、東北歴史博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

**(事 業)**

第 2 条 博物館は、その目的を達成するため次の各号に掲げる事業を行う。

- 一 主として歴史、考古、民俗、美術工芸、建造物等に関する資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示及び閲覧に供すること。
- 二 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

## X 資料

- 三 博物館資料に関する講演会，講習会，映写会，研究会等を開催すること。
- 四 博物館資料の利用に関し必要な説明，助言，指導等を行うこと。
- 五 博物館資料に関する案内書，解説書，目録，図録，年報，調査研究の報告書等を作成し，及び頒布すること。
- 六 野外施設等を利用する体験的学習等を行うこと。
- 七 他の博物館等と緊密に連絡し，協力し，刊行物及び情報の交換，博物館資料の相互貸借を行うこと。
- 八 前各号に掲げるもののほか，博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

### (休館日)

第3条 博物館の休館日は，次のとおりとする。

- 一 月曜日。ただし，国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）第3条の規定による休日当たるときを除く。
  - 二 1月1日から同月3日まで及び12月29日から同月31日まで（前号に掲げる日を除く。）
- 2 博物館の長（以下「館長」という。）は，必要があると認めたときは，教育長の承認を得て前項に規定する休館日を変更し，又は臨時に休館日を設けることができる。

### (開館時間)

第4条 博物館の開館時間は，午前9時30分から午後5時までとする。

- 2 館長は，特別な事情があるときは，前項の開館時間を変更することができる。

### (観覧の手続)

第5条 博物館の展示品を観覧する者（以下「観覧者という。」）は，観覧券（様式第1号）の交付を受けなければならない。ただし，納入通知書により観覧料を納入した者及び条例第9条の規定により観覧料の免除を受けた者については，この限りではない。

### (施設の使用許可)

- 第6条 条例第5条の規定により博物館の施設を使用しようとする者（以下「使用者」という。）は，使用しようとする初日の12日前から7日前までの期間内に使用許可申請書（様式第2号）を館長に提出し，その許可を受けなければならない。ただし，館長が特別の事情があると認めたときは，この期間によらないことができる。
- 2 館長は，前項の申請を適当と認めたときは，使用許可書（様式第3号）により許可するものとする。

### (使用者の遵守事項)

第7条 使用者は，次に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 使用する権利を他の者に譲渡し，又は転貸しないこと。
- 二 許可を受けた使用目的以外に使用しないこと。
- 三 使用許可を受けた施設以外の施設に立ち入らないこと。
- 四 許可を受けないで寄附金の募集，物品の販売，飲食物の提供を行わないこと（第三者をして行わせる場合を含む。）。
- 五 許可を受けないで広告物等の掲示若しくは配布又は看板立札等の設置を行わないこと。
- 六 めいてい者及び火薬，凶器等の危険物を携帯し，又は動物（盲導犬を除く。）を伴う者その他博物館内の秩序，風俗を乱すおそれがあると認められる者を入場させないこと。
- 七 火災及び盗難の防止に留意すること。
- 八 使用に係る施設内の秩序を保持するため必要な措置を講ずること。
- 九 前各号に掲げるもののほか，館長の指示した事項

### (使用料の納入等)

第8条 条例第7条第3項の規定により使用料を後納しようとする者は，使用料後納申請書（様式第4

号)を館長に提出し、その承認を受けるものとする。

**(観覧料等の返還)**

第9条 条例第8条第2項及び第3項の規定により観覧料又は使用料の返還を受けようとする者は、観覧料(使用料)返還申請書(様式第5号)を館長に提出するものとする。

**(観覧料等の減免)**

第10条 条例第9条第2項の規定により観覧料又は使用料の減免を受けようとする者は、あらかじめ観覧料減免申請書(様式第6号)又は使用料減免申請書(様式第7号)を館長に提出し、その承認を受けるものとする。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、観覧料減免承認書(様式第8号)又は使用料減免承認書(様式第9号)により承認するものとする。

**(博物館資料の貸出し)**

第11条 博物館が所蔵している博物館資料を他の博物館等が学術上の研究その他の目的のために貸し出しを受けようとする場合は、博物館資料貸出承認申請書(様式第10号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 館長は、前項の申請を適当と認めるときは、博物館資料貸出承認書(様式第11号)により承認するものとする。

3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、この限りではない。

**(入館者の遵守事項)**

第12条 入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 博物館資料及び施設設備を損傷し、又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- 二 展示室でインク、墨汁類を使用しないこと。
- 三 許可を受けずに展示品の模写又は撮影等を行わないこと。
- 四 所定の場所以外で喫煙又は飲食を行わないこと。
- 五 他の入館者の迷惑となる行為をしないこと。
- 六 前各号に掲げるもののほか、館長が指示した事項

**(入館の規制等)**

第13条 館長は、次の各号の一に該当する者の入館を拒み、又は退館を命ずることができる。

- 一 館内の秩序を乱し、又は乱すおそれのある者
- 二 館内施設設備又は博物館資料等を損傷するおそれのある者
- 三 前二号に掲げるもののほか、館長の指示に従わない者

**(委 任)**

第14条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理運営に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

**附 則**

**(施行期日)**

1 この規則は、平成11年4月1日から施行する。ただし、第3条、第4条、第5条、第10条及び第11条の規定は同年10月1日から施行する。

**(東北歴史資料館管理規則の廃止)**

2 東北歴史資料館管理規則(昭和49年宮城県教育委員会規則第14号)は、廃止する。

**附 則(平成12年3月31日教育委員会規則第51号)**

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

様 式(省略)

## 5 歴史博物館協議会条例 (平成 11 年 3 月 12 日宮城県条例第 3 号)

最終改正 平成 24 年 3 月条例第 6 号

### (設置)

第 1 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 20 条第 1 項の規定に基づき、東北歴史博物館に東北歴史博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

### (組織)

第 2 条 協議会は委員 10 人以内で組織する。

### (任命の基準)

第 3 条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命するものとする。

### (任期)

第 4 条 委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### (会長及び副会長)

第 5 条 協議会に、会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によって定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

### (会議)

第 6 条 協議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

### (部会)

第 7 条 協議会に、資料収集専門部会(以下「部会」という。)を置き、資料の収集に関する事項を調査審議する。

2 協議会に、前項の規定により部会の所掌に属させられた事項(以下「所掌事項」という。)の調査審議に資するため、部会委員を置く。

3 部会委員は、7 人以内とし、所掌事項に関し優れた識見を有する者のうちから、教育委員会が任命する。

4 部会に、部会長及び副部会長を置き、部会委員の互選によって定める。

5 第 4 条の規定は部会委員について、前 2 条(第 5 条第 1 項を除く。)の規定は部会について準用する。

6 協議会は、その定めるところにより、部会の議決をもって協議会の議決とすることができる。

### (委任)

第 8 条 この条例に定めるもののほか、協議会の議事の手続、その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

## 附 則

### (施行期日)

1 この条例は、公布の日から起算して 8 月を越えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。(平成 11 年 8 月教育委員会規則第 25 号で、同 11 年 9 月 1 日から施行)

### (附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 附属機関の構成員等の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例(昭和 28 年宮城県条例第 69 号)

一部を次のように改正する。

別表に次のように加える。

東北歴史博物館協議会の委員及び部会委員 出席1回につき11,600円 6級

附 則（平成17年3月25日条例第14号）

（施行期日）

- 1 この条例は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月23日条例第6号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

東北歴史博物館協議会委員（50音順）

氏 名	職 業	分 野	任 期
近江恵美子	東北生活文化大学非常勤講師	学識経験	H29.9.1～H31.8.31
河合 裕也	大郷町立大郷小学校長	学校教育	H29.9.1～H31.8.31
菊池すみ子	多賀城市芸術文化協会会長	社会教育	H29.9.1～H31.8.31
今野 俊宏	（株）河北新報社編集局長	学識経験	H29.9.1～H31.8.31
須藤 由子	三島学園東北生活文化大学高等学校入試 広報室指導主事	学校教育	H29.9.1～H31.8.31
立川 靖子	多賀城市立城南小学校PTA会長	家庭教育	H29.9.1～H31.8.31
平川 新	宮城学院女子大学学長	学識経験	H29.9.1～H31.8.31
宮原 育子	宮城学院女子大学教授	学識経験	H29.9.1～H31.8.31
柳原 敏昭	東北大学大学院教授	学識経験	H29.9.1～H31.8.31

東北歴史博物館協議会資料収集専門部会委員（50音順）

氏 名	職 業	分 野	任 期
阿子島 香	東北大学大学院教授	考古学	H29.4.1～H31.3.31
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授	中世史	H29.4.1～H31.3.31
熊谷 公男	東北学院大学名誉教授	古代史	H29.4.1～H31.3.31
佐藤 憲一	大崎市文化財保護委員 美里町文化財保護委員	近世史	H29.4.1～H31.3.31
長岡 龍作	東北大学大学院教授	美術史	H29.4.1～H31.3.31
本田 秋子	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館課長	工 芸	H29.4.1～H31.3.31
政岡 伸洋	東北学院大学教授	民俗学	H29.4.1～H31.3.31



## XI 沿革

昭和 49 年 8 月	東北歴史資料館設置（廃止 平成 11 年 3 月 31 日）
平成 3 年 3 月	東北歴史博物館（仮称）建設基本構想策定
平成 4 年 3 月	東北歴史博物館（仮称）運営・展示・建築基本計画策定
平成 5 年 10 月	東北歴史博物館（仮称）建築設計競技
平成 8 年 10 月	東北歴史博物館（仮称）建築工事着工（竣工 平成 11 年 3 月 26 日）
平成 9 年 3 月	東北歴史博物館（仮称）展示工事着工（竣工 平成 11 年 3 月 25 日）
平成 9 年 12 月	東北歴史博物館（仮称）古民家復元工事着工（竣工 平成 11 年 6 月 30 日）
平成 10 年 7 月	東北歴史博物館（仮称）情報システムプログラム製造（完成 平成 11 年 3 月 25 日）
平成 11 年 4 月	東北歴史博物館設置（平成 11 年宮城県条例第 2 号）
平成 11 年 10 月	オープン（10 月 9 日）
平成 11 年 10 月	特別展「祈りのかたち」開幕（10 月 9 日～11 月 14 日）
平成 12 年 4 月	特別展「縄文時代の日本列島」開幕（4 月 29 日～6 月 4 日）
平成 12 年 7 月	特別展「子どもたちの 20 世紀」開幕（7 月 22 日～9 月 3 日）
平成 12 年 10 月	特別展「東北地方の仮面」開幕（10 月 7 日～11 月 19 日）
平成 13 年 1 月	特別展「文字世界への招待」開幕（1 月 27 日～3 月 11 日）
平成 13 年 4 月	特別展「ふるきいしぶみ」開幕（4 月 24 日～6 月 10 日）
平成 13 年 7 月	特別展「神さまのいる風景」開幕（7 月 20 日～9 月 11 日）
平成 13 年 9 月	J R 東北本線国府多賀城駅開業（9 月 29 日）
平成 13 年 10 月	特別展「はるかみちのく」開幕（10 月 2 日～11 月 11 日）
平成 14 年 1 月	特別展「東北発掘ものがたり」開幕（1 月 29 日～3 月 10 日）
平成 14 年 4 月	特別展「観光旅行」開幕（4 月 16 日～5 月 26 日）
平成 14 年 6 月	特別展「古代エジプト文明展」開幕（6 月 1 日～7 月 14 日）
平成 14 年 10 月	特別展「飛鳥・藤原京展」開幕（10 月 11 日～12 月 1 日）
平成 15 年 7 月	特別展「仙台藩の金と鉄」開幕（7 月 19 日～9 月 7 日）
平成 15 年 10 月	特別展「鮭—秋味を待つ人々—」（10 月 7 日～11 月 24 日）
平成 16 年 2 月	特別展「平賀源内」開幕（2 月 14 日～3 月 21 日）
平成 16 年 4 月	特別展「新収蔵品展」開幕（4 月 27 日～6 月 20 日）
平成 16 年 7 月	特別展「東北発掘ものがたり 2」開幕（7 月 13 日～8 月 29 日）
平成 16 年 9 月	特別展「洛陽の夢 唐三彩の世界展」開幕（9 月 18 日～11 月 7 日）
平成 16 年 12 月	特別展「福よ来い」開幕（12 月 14 日～2 月 13 日）
平成 17 年 4 月	特別展「古代の旅」開幕（4 月 19 日～5 月 29 日）
平成 17 年 6 月	特別展「音と人の風景」開幕（6 月 21 日～7 月 31 日）
平成 17 年 8 月	特別展「水辺と森の縄文人」開幕（8 月 12 日～9 月 25 日）
平成 17 年 10 月	特別展「日本三景展」開幕（10 月 25 日～11 月 27 日）
平成 18 年 4 月	特別展「中国・美の十字路展」開幕（4 月 15 日～6 月 18 日）
平成 18 年 7 月	特別展「熊野信仰と東北」開幕（7 月 29 日～9 月 10 日）
平成 18 年 9 月	入館者 100 万人達成（9 月 8 日）

平成 18 年 9 月	特別展「とつげき！おもしろ博物館」開幕（9 月 26 日～2 月 4 日）
平成 19 年 4 月	特別展「町絵図・村絵図の世界」開幕（4 月 21 日～5 月 27 日）
平成 19 年 6 月	特別展「慈覚大師 円仁とその名宝」開幕（6 月 16 日～7 月 29 日）
平成 19 年 8 月	特別展「奥州一宮鹽竈神社」開幕（8 月 9 日～9 月 24 日）
平成 19 年 10 月	特別展「ちょっと昔の暮らし」開幕（10 月 13 日～12 月 21 日）
平成 20 年 4 月	特別展「発明王エジソン展」開幕（4 月 26 日～6 月 15 日）
平成 20 年 6 月	特別展「古代北方世界に生きた人びと」開幕（6 月 28 日～8 月 24 日）
平成 20 年 10 月	特別展「塩竈・松島」開幕（10 月 4 日～11 月 24 日）
平成 21 年 4 月	特別展「みやぎの昔々」開幕（4 月 25 日～6 月 7 日）
平成 21 年 6 月	特別展「むかしをたんけん！こどもの世界」開幕（6 月 27 日～8 月 30 日）
平成 21 年 9 月	開館 10 周年記念特別展「東北の群像」開幕（9 月 19 日～11 月 1 日）
平成 21 年 10 月	開館 10 周年（10 月 9 日）
平成 22 年 4 月	特別展「絵図にみる江戸時代のみやぎ」開幕（4 月 24 日～6 月 6 日）
平成 22 年 6 月	特別展「しごとと道具 いまむかし」開幕（6 月 26 日～8 月 22 日）
平成 22 年 9 月	多賀城跡調査 50 周年記念特別展「多賀城・太宰府と古代の都」開幕（9 月 4 日～10 月 24 日）
平成 23 年 3 月	東日本大震災被災による臨時閉館（3 月 12 日～4 月 25 日）
平成 23 年 4 月	展示室復旧完了 業務再開（4 月 26 日）
平成 23 年 9 月	特別展「いつも元気なこどもたち！」開幕（9 月 23 日～12 月 11 日）
平成 24 年 4 月	特別展「神々への祈り」開幕（4 月 28 日～6 月 7 日）
平成 24 年 5 月	入館者 200 万人達成（5 月 3 日）
平成 24 年 7 月	特別展「家族でおでかけ」開幕（7 月 7 日～9 月 9 日）
平成 24 年 10 月	特別展「みちのく鬼めぐり」開幕（10 月 6 日～12 月 2 日）
平成 25 年 4 月	特別展「美しき東北の街並み」開幕（4 月 27 日～6 月 16 日）
平成 25 年 7 月	特別展「考古学からの挑戦」開幕（7 月 13 日～9 月 8 日）
平成 25 年 11 月	特別展「神さま仏さまの復興」開幕（11 月 16 日～1 月 13 日）
平成 26 年 5 月	特別展「日本発掘」開幕（5 月 31 日～7 月 9 日）
平成 26 年 7 月	特別展「家電の時代」開幕（7 月 26 日～9 月 28 日）
平成 27 年 1 月	特別展「みちのくの観音さま」開幕（1 月 24 日～3 月 12 日）
平成 27 年 4 月	特別展「医は仁術」開幕（4 月 18 日～6 月 21 日）
平成 27 年 7 月	徳川家康没後 400 周年記念特別展「徳川将軍家と東北」開幕（7 月 11 日～8 月 23 日）
平成 27 年 9 月	特別展「日本のわざと美展」開幕（9 月 12 日～10 月 18 日）
平成 28 年 1 月	今野家住宅修復工事完了 公開再開(1 月 4 日)
平成 28 年 4 月	映像展示室 機器更新工事完了 公開再開(4 月 1 日) インタラクティブシアター 機器更新工事完了 新コンテンツ追加(4 月 1 日)
平成 28 年 7 月	特別展「アンコールワットへのみち」開幕（7 月 16 日～9 月 19 日）
平成 28 年 10 月	特別展「日本人とクジラ」開幕（10 月 8 日～12 月 4 日）
平成 29 年 1 月	特別展「工芸継承」開幕（1 月 14 日～2 月 26 日）
平成 29 年 3 月	特別展「世界遺産ラスコー展－クロマニヨン人が残した洞窟壁画－」開幕（3 月 25 日～5 月 28 日）
平成 29 年 6 月	特別展「漢字三千年－漢字の歴史と美」開幕（6 月 24 日～8 月 11 日）

XI 沿革

平成 29 年 9 月 特別展「熊と狼—人と獣の交渉誌—」（9 月 16 日～11 月 19 日）

## 東北歴史博物館平成 29 年度年報

---

平成 30 年 11 月 31 日 発行

編集・発行 東北歴史博物館  
〒985-0862 宮城県多賀城市高崎一丁目 22-1  
TEL (022) 368-0101 (代)  
<http://www.thm.pref.miyagi.jp/>

印刷 社会福祉法人 共生福社会 萩の郷福祉工場  
TEL (022) 244-0117

---